

MITSUBISHI ELECTRIC ENGINEERING

RFIDインタフェースユニット

形名

ECL2-V680D1

FBライブラリ リファレンスマニュアル  
(MELSEC-Qシリーズ用)

Products for Monitoring and Traceability



CC-Link

## 《目次》

リファレンスマニュアル改訂履歴.....	2
1. 概要.....	3
1.1 FB ライブラリ概要.....	3
1.2 FB ライブラリ機能内容.....	3
1.3 システム構成例.....	4
1.4 CC-Link システムマスタ局のネットワークパラメータ設定.....	5
1.4.1 CC-Link システムマスタ局のネットワークパラメータ設定.....	5
1.4.2 CC-Link システムマスタ局の局情報設定.....	7
1.5 グローバルラベル設定.....	8
1.6 インタロックプログラムの作成.....	9
1.7 関連マニュアル.....	9
1.8 お願い.....	9
2. FB ライブラリ詳細.....	10
2.1 P+MEE-ECL2-V680D1_InitDataSet (イニシャルデータ設定).....	10
2.2 P+MEE-ECL2-V680D1_Read (ID タグのリード).....	18
2.3 P+MEE-ECL2-V680D1_Write (ID タグのライト).....	26
2.4 P+MEE-ECL2-V680D1_Fill (ID タグのデータフィル).....	34
2.5 P+MEE-ECL2-V680D1_UIDRead (ID タグの UID リード).....	42
2.6 P+MEE-ECL2-V680D1_MeasureNoise (ノイズ測定).....	48
2.7 P+MEE-ECL2-V680D1_InitDataRead (イニシャルデータリード).....	54
2.8 P+MEE-ECL2-V680D1_StatusRead (ユニット状態読出し).....	61
付録 1. 2 枚以上のマスタ・ローカルユニットで FB を使用する方法.....	66
付録 1.1 ネットワークパラメータの入力.....	67
付録 1.2 グローバルラベルの設定.....	70
付録 1.3 2 枚目用 FB を作成するための MELSOFT Library をコピー.....	72
付録 1.4 2 枚目用 FB を作成するためのデバイス置換.....	73
付録 2. FB ライブラリ使用例.....	74



## リファレンスマニュアル改訂履歴

※取扱説明書番号は、本説明書の裏表紙の左下に記載してあります。

改訂年月	※取扱説明書番号	改訂内容
2014年1月	50CM-D180173-A	新規作成
2022年4月	50CM-D180173-B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下記に対して誤記修正をしました。</li> <li>2. 1 P+MEE-ECL2-V680D1_InitDataSet (イニシャルデータ設定)</li> <li>2. 2 P+MEE-ECL2-V680D1_Read (ID タグのリード)</li> <li>2. 3 P+MEE-ECL2-V680D1_Write (ID タグのライト)</li> <li>2. 4 P+MEE-ECL2-V680D1_Fill (ID タグのデータフィル)</li> <li>2. 5 P+MEE-ECL2-V680D1_UIDRead (ID タグの UID リード)</li> <li>2. 6 P+MEE-ECL2-V680D1_MeasureNoise (ノイズ測定)</li> <li>2. 7 P+MEE-ECL2-V680D1_InitDataRead (イニシャルデータリード)</li> <li>2. 8 P+MEE-ECL2-V680D1_StatusRead (ユニット状態読出し)</li> <li>付録 1 . 2 グローバルラベルの設定</li> <li>付録 1 . 4 2 枚目用 FB を作成するためのデバイス置換</li> <li>付録 2. FB ライブラリ使用例</li> </ul>
2023年9月	50CM-D180173-C	表紙と裏表紙のデザイン変更

本書によって、工業所有権その他の権利の実施に対する保証、または実施権を許諾するものではありません。また本書の掲載内容の使用により起因する工業所有権上の諸問題については、当社は一切その責任を負うことができません。

©2014 (2022, 2023) MITSUBISHI ELECTRIC ENGINEERING COMPANY LIMITED ALL RIGHTS RESERVED

## 1. 概要

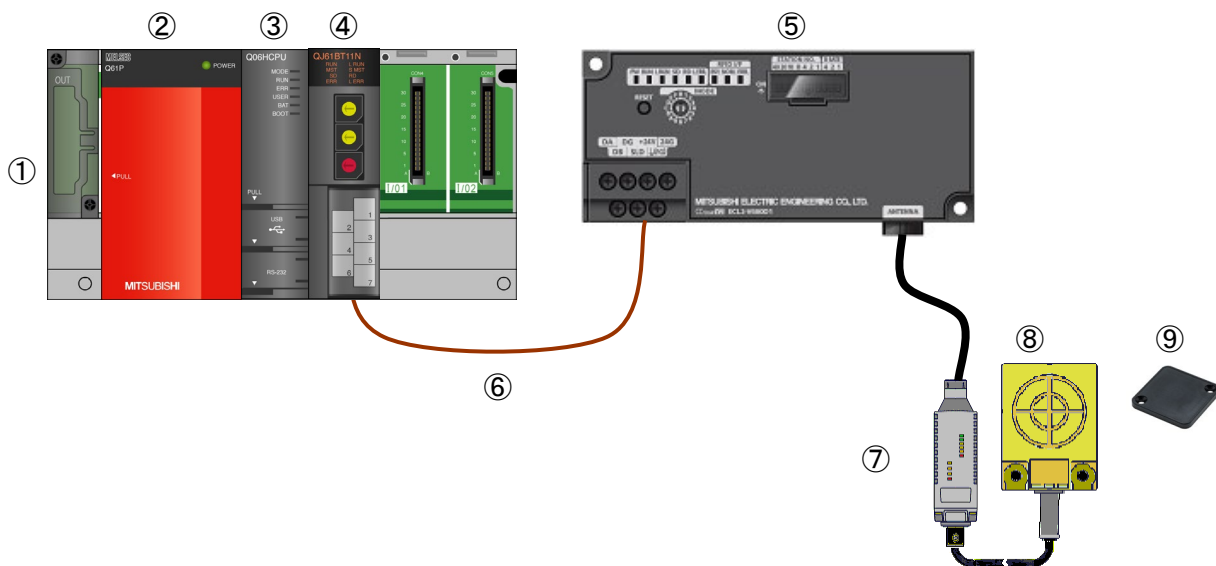
### 1.1 FB ライブラリ概要

本 FB ライブラリは、CC-Link システムを利用して、CC-Link 用オムロン V680 シリーズ対応 RFID インタフェースユニット ECL2-V680D1 を使用するシステムの FB ライブラリです。

### 1.2 FB ライブラリ機能内容

No.	項目	内容
1	P+MEE-ECL2-V680D1_InitDataSet	ユニットのイニシャルデータを設定します。 ※ 電源投入後またはリセット解除後、必ず最初に実行してください。
2	P+MEE-ECL2-V680D1_Read	ID タグからデータを読み出します。
3	P+MEE-ECL2-V680D1_Write	ID タグヘデータを書込みます。
4	P+MEE-ECL2-V680D1_Fill	指定したデータで ID タグを初期化します。
5	P+MEE-ECL2-V680D1_UIDRead	ID タグの UID(個別識別番号)を読み出します。
6	P+MEE-ECL2-V680D1_MeasureNoise	アンテナ周囲のノイズ環境を測定します。
7	P+MEE-ECL2-V680D1_InitDataRead	イニシャルデータを読み出します。
8	P+MEE-ECL2-V680D1_StatusRead	ユニット状態を読み出します。

### 1.3 システム構成例



No.	機器名	説明							
①	シーケンサ	ベースユニット(MELSEC-L シリーズの場合は不要)							
②		電源ユニット							
③		CPU ユニット							
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>シリーズ</th> <th>モデル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">MELSEC-Q シリーズ※1</td> <td>ベーシックモデル QCPU※2</td> </tr> <tr> <td>ハイパフォーマンスモデル QCPU※3</td> </tr> <tr> <td>ユニバーサルモデル QCPU</td> </tr> <tr> <td>MELSEC-L シリーズ</td> <td>LCPU</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 QCPU-A(A モード)使用不可            ※2 シリアル No.の上 5 桁が“04122”以降            ※3 シリアル No.の上 5 桁が“04012”以降</p>	シリーズ	モデル	MELSEC-Q シリーズ※1	ベーシックモデル QCPU※2	ハイパフォーマンスモデル QCPU※3	ユニバーサルモデル QCPU	MELSEC-L シリーズ
シリーズ	モデル								
MELSEC-Q シリーズ※1	ベーシックモデル QCPU※2								
	ハイパフォーマンスモデル QCPU※3								
	ユニバーサルモデル QCPU								
MELSEC-L シリーズ	LCPU								
④	マスタ・ローカルユニット	CC-Link システムマスタ・ローカルユニット							
⑤	ECL2-V680D1	CC-Link 用オムロン V680 シリーズ対応 RFID インタフェースユニット							
⑥	ケーブル	CC-Link ケーブル							
⑦	RFID アンプ	オムロン V680 シリーズアンプ							
⑧	RFID アンテナ	オムロン V680 シリーズアンテナ							
⑨	ID タグ	オムロン V680 シリーズ ID タグ							

RFID インタフェースユニット ECL2-V680D1  
 FB ライブラリ リファレンスマニュアル(MELSEC-Q シリーズ用)  
 50CM-D180173-C

## 1.4 CC-Link システムマスタ局のネットワークパラメータ設定

1.3 項「システム構成例」に基づくマスタ局のネットワークパラメータ設定の内容を説明します。GX Works2 を用いて、以下の項目を設定します。

### 1.4.1 CC-Link システムマスタ局のネットワークパラメータ設定

項目	内容
先頭 I/ONo.	マスタローカルユニットの先頭入出力番号を、16 点単位で設定します。 「0000」を設定します。
種別	局種別を設定します。 「マスタ局」を選択します。
モード設定 *1	CC-Link の動作モードを設定します。 「リモートネット-Ver.1 モード」を選択します。
伝送速度 *2 (MELSEC-L シリーズのみ)	CC-Link の伝送速度を設定します。 「156kbps」を選択します。
接続台数	マスタ局に接続するリモートユニットの台数を設定します。予約局を設定する場合は、予約局を含めた台数を設定します。 「1」を設定します。
リモート入力(RX) リフレッシュデバイス	リモートユニットに割り当てるリモート入力(RX)の先頭デバイス No.を設定します。 「X1000」を設定します。
リモート出力(RY) リフレッシュデバイス	リモートユニットに割り当てるリモート出力(RY)の先頭デバイス No.を設定します。 「Y1000」を設定します。
リモートレジスタ(RW <sub>r</sub> ) リフレッシュデバイス	リモートユニットに割り当てるリモートレジスタ(RW <sub>r</sub> )の先頭デバイス No.を設定します。 「W100」を設定します。
リモートレジスタ(RW <sub>w</sub> ) リフレッシュデバイス	リモートユニットに割り当てるリモートレジスタ(RW <sub>w</sub> )の先頭デバイス No.を設定します。 「W600」を設定します。
特殊リレー(SB) リフレッシュデバイス	特殊リレー(SB)の先頭デバイス No.を設定します。 「SB0」を設定します。
特殊レジスタ(SW) リフレッシュデバイス	特殊レジスタ(SW)の先頭デバイス No.を設定します。 「SW0」を設定します。

\*1 「リモートネット-Ver.1 モード」または「リモートネット-Ver.2 モード」を選択してください。

\*2 L シリーズシーケンサは伝送速度設定をネットワークパラメータ設定で行ってください。

Q シリーズはマスタ・ローカルユニット前面の伝送速度・モード設定スイッチで設定してください。

## Q シリーズシーケンサのネットワークパラメータ

ユニット枚数  枚    ブランク: 設定なし     局情報をCC-Link構成ウィンドウで設定する

	1	2	3
先頭I/ONo.	0000		
動作設定	動作設定		
種別	マスタ局		
データリンク種別	マスタ局CPUパラメータ自動起動		
モード設定	リモートネット-Ver.1モード		
総接続台数	1		
リモート入力(RX)	X1000		
リモート出力(RY)	Y1000		
リモートレジスタ(RWr)	W100		
リモートレジスタ(RWw)	W600		
Ver.2リモート入力(RX)			
Ver.2リモート出力(RY)			
Ver.2リモートレジスタ(RWr)			
Ver.2リモートレジスタ(RWw)			
特殊リレー(SB)	SB0		
特殊レジスタ(SW)	SW0		
リトライ回数	3		
自動復列台数	1		
待機マスタ局番号			
CPUダウン指定	停止		
スキャンモード指定	非同期		
ディレイ時間設定	0		
局情報設定	局情報		
リモートデバイス局イニシャル設定	イニシャル設定		
割込み設定	割込み設定		

必須設定(未設定/ 設定済み)    必要に応じ設定(未設定/ 設定済み)

設定項目の詳細: 異常局に対するフレームリトライの回数を1~7の範囲で入力してください。

表示画面印刷...    表示画面プレビュー    X/N割付確認    クリア    チェック    設定終了    キャンセル

## L シリーズシーケンサのネットワークパラメータ

ユニット枚数  枚    ブランク: 設定なし     局情報をCC-Link構成ウィンドウで設定する

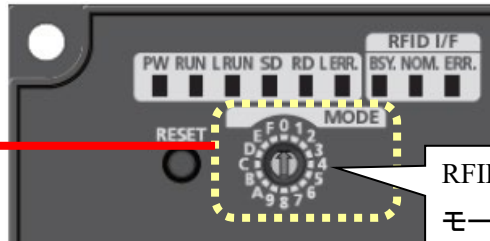
	1	2	3
先頭I/ONo.	0000		
動作設定	動作設定		
種別	マスタ局		
局番	0		
データリンク種別	マスタ局CPUパラメータ自動起動		
モード設定	リモートネット-Ver.1モード		
伝送速度	156kbps		
総接続台数	1		
リモート入力(RX)	X1000		
リモート出力(RY)	Y1000		
リモートレジスタ(RWr)	W100		
リモートレジスタ(RWw)	W600		
Ver.2リモート入力(RX)			
Ver.2リモート出力(RY)			
Ver.2リモートレジスタ(RWr)			
Ver.2リモートレジスタ(RWw)			
特殊リレー(SB)	SB0		
特殊レジスタ(SW)	SW0		
リトライ回数	3		
自動復列台数	1		
待機マスタ局番号			
CPUダウン指定	停止		
スキャンモード指定	非同期		
ディレイ時間設定	0		
局情報設定	局情報		
リモートデバイス局イニシャル設定	イニシャル設定		
割込み設定	割込み設定		

### 1.4.2 CC-Link システムマスタ局の局情報設定

項目	内容
局種別 *1	マスタ局に接続するリモートユニットの局種別を設定します。 「リモートデバイス局」を設定します。
拡張サイクリック設定 *1	RFID インタフェースユニットのモード切換えスイッチの設定値により拡張サイクリック設定が異なります。
占有局数 *1	リモートユニットが占有する局数を設定します。 RFID インタフェースユニットのモード切換えスイッチの設定値により占有局数が異なります。 「4局占有」を選択します。
予約/無効局指定	リモートユニットの予約局/無効局を設定します。 「設定なし」を選択します。

\*1 局情報設定は RFID インタフェースユニットのモード切換えスイッチの設定に合わせてください。

RFID インタフェースユニット	局情報設定			
モード切換えスイッチ設定値	局種別	拡張サイクリック設定	占有局数	リモート局点数
0	リモートデバイス局	—	4局占有	—
4	リモートデバイス局	—	2局占有	—
5	Ver.2 リモートデバイス局	2倍設定	2局占有	96点
6	Ver.2 リモートデバイス局	4倍設定	2局占有	192点
7	Ver.2 リモートデバイス局	8倍設定	2局占有	384点



モード切換えスイッチの設定値が 0, 4 の時の局情報設定

台数/局番	局種別	拡張サイクリック設定	占有局数	リモート局点数	予約/無効局指定	インテリジェント用バッファ指定(ワード)		
						送信	受信	自動
1/1	リモートデバイス局	1倍設定	4局占有	128点	設定なし			

モード切換えスイッチの設定値が 5~7 の時の局情報設定

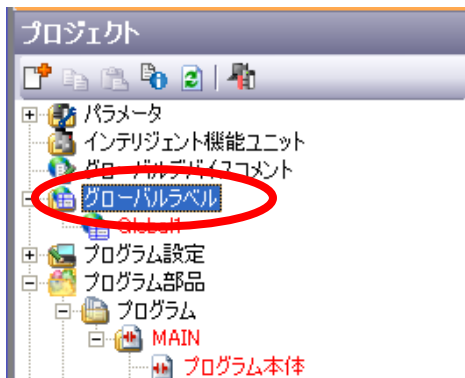
台数/局番	局種別	拡張サイクリック設定	占有局数	リモート局点数	予約/無効局指定	インテリジェント用バッファ指定(ワード)		
						送信	受信	自動
1/1	Ver.2 リモートデバイス局	8倍設定	2局占有	384点	設定なし			



## 1.5 グローバルラベル設定

本 FB を使用する際は、以下のグローバルラベルの設定が必要です。グローバルラベルの設定を説明します。

(1) ナビゲーションウィンドウのプロジェクトタブにある「グローバルラベル」を選択します。



(2) M\_RY リモート出力(RY)の設定を行います。

項目	内容
クラス	「VAR_GLOBAL」を選択します。
ラベル名	「M_RY」を入力します。
データ型	「ビット」を選択します。
デバイス	1.4.1 項にて入力したリモート出力(RY)に「Z9」を付加して入力します。 「Y1000Z9」を入力します。

(3) M\_RWw リモートレジスタ(RWw)の設定を行います。

項目	内容
クラス	「VAR_GLOBAL」を選択します。
ラベル名	「M_RWw」を入力します。
データ型	「ワード[符号付き]」を選択します。
デバイス	1.4.1 項にて入力したリモート出力(RWw)に「Z8」を付加して入力します。 「W600Z8」を入力します。

	クラス	ラベル名	データ型	定数値	デバイス	コメント
1	VAR_GLOBAL	M_RY	ビット	...	Y1000Z9	RYリフレッシュデバイス
2	VAR_GLOBAL	M_RWw	ワード[符号付き]	...	W600Z8	RWwリフレッシュデバイス
3				...		
4				...		

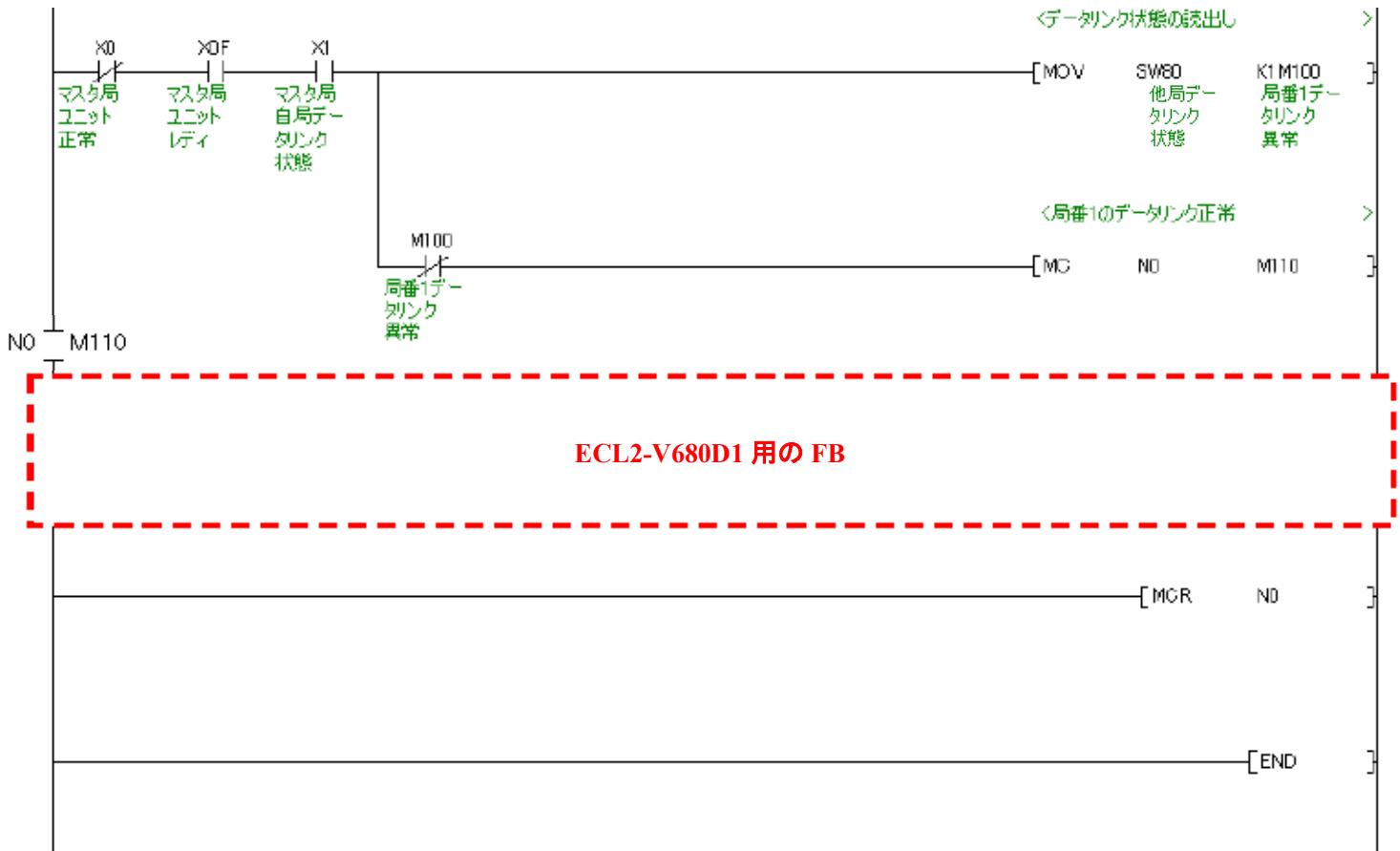
## 1.6 インタロックプログラムの作成

本FBを使用する際は、インタロックプログラムの作成が必要です。以下にインタロックプログラムの例を示します。  
(MC 命令と MCR 命令の間に該当するFBを設定してください。)

インタロックプログラムでは、下記の入力デバイスでインタロックを行ってください。

- ・自局のデータリンク状態(X1)
- ・各局のデータリンク状態(SW80)

例:インタロック例(CC-Link 局番 1)



## 1.7 関連マニュアル

ECL2-V680D1 ユーザーズマニュアル(詳細編)

CC-Link システムマスタ・ローカルユニットユーザーズマニュアル(詳細編)

MELSEC-L CC-Link システムマスタ・ローカルユニットユーザーズマニュアル

## 1.8 お願い

ご使用にあたりましては、必ず対象製品のユーザーズマニュアルをお読みいただきますようお願い申し上げます。

## 2. FB ライブラリ詳細

### 2.1 P+MEE-ECL2-V680D1\_InitDataSet (イニシャルデータ設定)

#### 名称

P+MEE-ECL2-V680D1\_InitDataSet

#### 機能内容

項目	内容																																	
機能概要	ユニットのイニシャルデータを設定します。 イニシャル処理実行時またはイニシャルデータ変更時に実行してください。 ※ 電源投入後またはリセット解除後、必ず最初に実行してください。																																	
シンボル	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="4" style="text-align: center;">P+MEE-ECL2-V680D1_InitDataSet</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: right;">実行命令</td> <td style="border: 1px solid black;">B:FB_EN</td> <td style="border: 1px solid black;">FB_ENO:B</td> <td style="text-align: left;">実行状態</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">マスタユニット装着 XYアドレス</td> <td style="border: 1px solid black;">W:i_Start_IO_No</td> <td style="border: 1px solid black;">FB_OK:B</td> <td style="text-align: left;">完了フラグ</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">CC-Link局番</td> <td style="border: 1px solid black;">W:i_Station_No</td> <td style="border: 1px solid black;">FB_ERROR:B</td> <td style="text-align: left;">異常完了フラグ</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">交信指定</td> <td style="border: 1px solid black;">W:i_Communication</td> <td style="border: 1px solid black;">ERROR_ID:W</td> <td style="text-align: left;">エラーコード</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">交信設定</td> <td style="border: 1px solid black;">W:i_CommSetting</td> <td style="border: 1px solid black;">o_UNIT_ERROR:B</td> <td style="text-align: left;">ユニットエラー</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">処理指定</td> <td style="border: 1px solid black;">W:i_Processing_No</td> <td style="border: 1px solid black;">o_UNIT_ERR_CODE:W</td> <td style="text-align: left;">ユニットエラーコード</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">オート系コマンド待ち時間 設定</td> <td style="border: 1px solid black;">W:i_Wait</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		P+MEE-ECL2-V680D1_InitDataSet				実行命令	B:FB_EN	FB_ENO:B	実行状態	マスタユニット装着 XYアドレス	W:i_Start_IO_No	FB_OK:B	完了フラグ	CC-Link局番	W:i_Station_No	FB_ERROR:B	異常完了フラグ	交信指定	W:i_Communication	ERROR_ID:W	エラーコード	交信設定	W:i_CommSetting	o_UNIT_ERROR:B	ユニットエラー	処理指定	W:i_Processing_No	o_UNIT_ERR_CODE:W	ユニットエラーコード	オート系コマンド待ち時間 設定	W:i_Wait		
P+MEE-ECL2-V680D1_InitDataSet																																		
実行命令	B:FB_EN	FB_ENO:B	実行状態																															
マスタユニット装着 XYアドレス	W:i_Start_IO_No	FB_OK:B	完了フラグ																															
CC-Link局番	W:i_Station_No	FB_ERROR:B	異常完了フラグ																															
交信指定	W:i_Communication	ERROR_ID:W	エラーコード																															
交信設定	W:i_CommSetting	o_UNIT_ERROR:B	ユニットエラー																															
処理指定	W:i_Processing_No	o_UNIT_ERR_CODE:W	ユニットエラーコード																															
オート系コマンド待ち時間 設定	W:i_Wait																																	
対象機器	対象ユニット	ECL2-V680D1																																
	対象 CC-Link システム	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">シリーズ</th> <th style="width: 50%;">モデル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>MELSEC-Q シリーズ</td> <td>QJ61BT11N</td> </tr> <tr> <td>MELSEC-L シリーズ</td> <td>LJ61BT11 L26CPU-BT L26CPU-PBT</td> </tr> </tbody> </table>	シリーズ	モデル	MELSEC-Q シリーズ	QJ61BT11N	MELSEC-L シリーズ	LJ61BT11 L26CPU-BT L26CPU-PBT																										
	シリーズ	モデル																																
MELSEC-Q シリーズ	QJ61BT11N																																	
MELSEC-L シリーズ	LJ61BT11 L26CPU-BT L26CPU-PBT																																	
対象 CPU	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">シリーズ</th> <th style="width: 50%;">モデル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">MELSEC-Q シリーズ※1</td> <td>ベーシックモデル QCPU※2</td> </tr> <tr> <td>ハイパフォーマンスモデル QCPU※3</td> </tr> <tr> <td>ユニバーサルモデル QCPU</td> </tr> <tr> <td>MELSEC-L シリーズ</td> <td>LCPU</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1QCPU-A(A モード)使用不可            ※2 シリアル No. の上 5 桁が“04122”以降            ※3 シリアル No. の上 5 桁が“04012”以降</p>	シリーズ	モデル	MELSEC-Q シリーズ※1	ベーシックモデル QCPU※2	ハイパフォーマンスモデル QCPU※3	ユニバーサルモデル QCPU	MELSEC-L シリーズ	LCPU																									
シリーズ	モデル																																	
MELSEC-Q シリーズ※1	ベーシックモデル QCPU※2																																	
	ハイパフォーマンスモデル QCPU※3																																	
	ユニバーサルモデル QCPU																																	
MELSEC-L シリーズ	LCPU																																	

項目	内容							
対象機器	GX Works2	<table border="1"> <thead> <tr> <th>シリーズ</th> <th>モデル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>MELSEC-Q シリーズ</td> <td>Version1.11M 以降</td> </tr> <tr> <td>MELSEC-L シリーズ</td> <td>Version1.20W 以降</td> </tr> </tbody> </table>	シリーズ	モデル	MELSEC-Q シリーズ	Version1.11M 以降	MELSEC-L シリーズ	Version1.20W 以降
シリーズ	モデル							
MELSEC-Q シリーズ	Version1.11M 以降							
MELSEC-L シリーズ	Version1.20W 以降							
記述言語	ラダー							
ステップ数	986steps (MELSEC-Q シリーズ ハイパフォーマンスモデルの場合) ※ プログラムに組み込んだ FB のステップ数は、使用する CPU モデルや、入出力定義によって異なります。							
機能説明	<p>①FB_EN(実行命令)の ON で、設定した各種イニシャルデータを ECL2-V680D1 に書込みます。書込みが完了すると FB_OK(完了フラグ)が ON します。</p> <p>②エラーの場合は、FB_ERROR(異常完了フラグ)が ON し、FB の処理を中断します。また、ERROR_ID にはエラーコードをセットします。 エラーコードの詳細は、エラーコード一覧を参照してください。</p> <p>③ECL2-V680D1 がエラーとなった場合は、o_UNIT_ERROR(ユニットエラー)が ON し、処理を中断します。また、o_UNIT_ERR_CODE(ユニットエラーコード)にはエラーコードをセットします。 エラーコードの詳細は、ECL2-V680D1 ユーザーズマニュアル(詳細編)を参照してください。</p>							
FB コンパイル方式	マクロ型							

項目	内容
制約事項・注意事項等	<p>① 電源投入後またはリセット解除後、必ず最初に実行してください。</p> <p>② 本 FB は、エラーを復帰する処理は含んでいません。エラー復帰処理については、お客様のシステムや要求動作に合わせて、別途作成してください。</p> <p>③ CC-Link パラメータ設定のリフレッシュデバイスの設定を 1.4 項に従って行ってください。</p> <p>④ グローバルラベルの設定を 1.5 項の内容に従って行ってください。</p> <p>⑤ 割り込みプログラム内で FB を使用することはできません。</p> <p>⑥ 本 FB を複数使用する場合、対象 CC-Link 局番が重複しないように注意してください。</p> <p>⑦ 1 回しか実行されないプログラム(例えば、サブルーチンプログラムや FOR～NEXT)で FB を使用すると、FB_EN(実行命令)の OFF 処理を実行することができず正常な動作ができなくなるため、FB_EN(実行命令)の OFF を実行できるプログラムで使用してください。</p> <p>⑧ 本 FB ではインデックスレジスタ Z5～Z9 を使用しています。割り込みプログラムを使用する場合は、当インデックスレジスタを使用しないでください。</p> <p>⑨ FB_EN(実行命令)ON 中は、i_Start_IO_No(マスタユニット装着 XY アドレス)、i_Station_No(CC-Link 局番)、i_Communication(交信指定)、i_CommSetting(交信設定)、i_Processing_No(処理指定)、i_Wait(オート系コマンド待ち時間設定)の値を変更しないでください。</p> <p>⑩ FB 内部でインデックス修飾を用いて Y 信号を操作しているため、本 FB を複数個使用した場合、コンパイル時に 2 重コイルワーニングが発生することがありますが、使用上特に問題はありません。</p> <p>⑪ CC-Link システム用 FB は 1 枚のマスタ・ローカルユニットしか制御できません。2 枚以上のマスタ・ローカルユニットを FB で制御する場合には「付録 1 2 枚以上のマスタ・ローカルユニットで FB を使用する方法」をご参照ください。</p> <p>⑫ 本 FB の処理が完了しない場合、i_Start_IO_No(マスタユニット装着 XY アドレス)が間違っていないか、または i_Station_No(CC-Link 局番)はネットワークの局番と一致しているか、または RFID インタフェースユニットのリモート出力(RY)を ON していないか確認してください。</p>
FB 動作	パルス型(複数スキャン実行型)

項目	内容	
入出力信号の動き	<p><b>【正常終了の場合】</b></p>	<p><b>【異常終了の場合】</b></p>
関連マニュアル	<p><b>【ユニットエラーの場合】</b></p> <p>n: 局番設定により、マスタユニットに割り付けられたアドレス m: モード切換えスイッチの設定により割り付けられたアドレス</p>	

## エラーコード

### ■エラーコード一覧

エラーコード	内容	処置方法
11(10進数)	i_Station_No(CC-Link 局番)の指定が範囲外です。	CC-Link 局番は 1～64 を指定してください。
14(10進数)	ECL2-V680D1 が ID 命令実行中です。	ID 命令実行が終了してから FB を起動してください。

## 使用ラベル

### ■入力ラベル

名称	変数名	データ型	有効範囲	説明
実行命令	FB_EN	ビット	—	ON:FB を起動する。 OFF:FB を起動しない。
マスタユニット装着 XY アドレス	i_Start_IO_No	ワード	対象の CPU ユニットの入出力点数範囲によります。 詳細範囲は、対象 CPU のユーザーズマニュアルを参照してください。	対象の CC-Link システムマスタ・ローカルユニットが装着されている先頭 XY アドレスを 16 進数で指定します。(例えば X10 の場合、H10 を入力してください)
CC-Link 局番	i_Station_No	ワード	1～64(10進数)	接続する ECL2-V680D1 の局番を入力します。
交信指定	i_Communication	ワード	0:トリガ 1:オート 2:リピートオート 3:FIFOトリガ 4:FIFOリピート	ID タグに対する交信方法を指定します。

名称	変数名	データ型	有効範囲	説明										
交信設定	i_CommSetting	ワード	0000~000F (16進数)	<p>ID タグに対する交信設定を選択します。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ビット</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>ライトベリファイ設定 0: 実行する 1: 実行しない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>ID タグ交信速度設定 0: 標準モード 1: 高速モード</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ライトプロテクト設定 0: 有効 1: 無効</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>リード/ライトデータコード設定 0: ASCII/HEX 変換なし 1: ASCII/HEX 変換あり</td> </tr> </tbody> </table>	ビット	内容	0	ライトベリファイ設定 0: 実行する 1: 実行しない	1	ID タグ交信速度設定 0: 標準モード 1: 高速モード	2	ライトプロテクト設定 0: 有効 1: 無効	3	リード/ライトデータコード設定 0: ASCII/HEX 変換なし 1: ASCII/HEX 変換あり
ビット	内容													
0	ライトベリファイ設定 0: 実行する 1: 実行しない													
1	ID タグ交信速度設定 0: 標準モード 1: 高速モード													
2	ライトプロテクト設定 0: 有効 1: 無効													
3	リード/ライトデータコード設定 0: ASCII/HEX 変換なし 1: ASCII/HEX 変換あり													
処理指定	i_Processing_No	ワード	0,1	<p>ID タグに対するデータ格納順を指定します。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>コマンド</th> <th>処理指定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リード</td> <td rowspan="3">データ格納順 0: 上位→下位 1: 下位→上位</td> </tr> <tr> <td>ライト</td> </tr> <tr> <td>データフィル</td> </tr> </tbody> </table> <p>詳細は、各コマンドの機能説明を参照してください。 上記コマンド以外は、処理指定を使用しません。</p>	コマンド	処理指定	リード	データ格納順 0: 上位→下位 1: 下位→上位	ライト	データフィル				
コマンド	処理指定													
リード	データ格納順 0: 上位→下位 1: 下位→上位													
ライト														
データフィル														



名称	変数名	データ型	有効範囲	説明
オート系コマンド 待ち時間設定	i_Wait	ワード	1~9999, 0 (10進数)	<p>i_Communication(交信指定)がオート系コマンド(オート、リピートオート、FIFO リピート)の場合に、IDタグの検出待ち時間を0.1秒単位で設定します。 (例えば30秒の場合、K300を入力してください。)</p> <p>0または有効範囲外の値を設定した場合はIDタグからの応答があるまで検出待ちをします。</p> <p>各FBでコマンドを実行する時の待ち時間を下図に示します。</p> <p><b>【オート、リピートオート、FIFO リピートの場合】</b></p> <p><b>【リピートオート、FIFO リピートの場合】</b></p> <p>i_Reception(結果受信)ON前に設定した待ち時間が経過した時は、i_Reception(結果受信)ON後にo_UNIT_ERROR(ユニットエラー)がONします。</p>

## ■出カラベル

名称	変数名	データ型	初期値	説明
実行状態	FB_ENO	ビット	OFF	ON:FB 実行中。 OFF:FB 未実行。
完了フラグ	FB_OK	ビット	OFF	ON:FB 正常完了。 OFF:FB 未完了。
異常完了フラグ	FB_ERROR	ビット	OFF	ON:FB 異常完了。 OFF:FB 未完了。
エラーコード	ERROR_ID	ワード	0	FB 内で発生したエラーコードを格納します。
ユニットエラー	o_UNIT_ERROR	ビット	OFF	ON:イニシャルデータ設定値エラー。 OFF:正常。
ユニットエラーコード	o_UNIT_ERR_CODE	ワード	0	RFID インタフェースユニットで発生したエラー詳細を格納します。

## FB のバージョンアップ履歴

バージョン	日付	内容
1.00A	2014/1/31	新規作成

## お願い

本章はファンクションブロックの機能について記載しております。

ユニットやシーケンサ CPU の使用上の制限事項、組み合わせによる制限事項などについては記載しておりません。

ご使用にあたりましては、必ず対象製品のユーザーズマニュアルをお読みいただきますようお願い申し上げます。

## 2.2 P+MEE-ECL2-V680D1\_Read (ID タグのリード)

名称

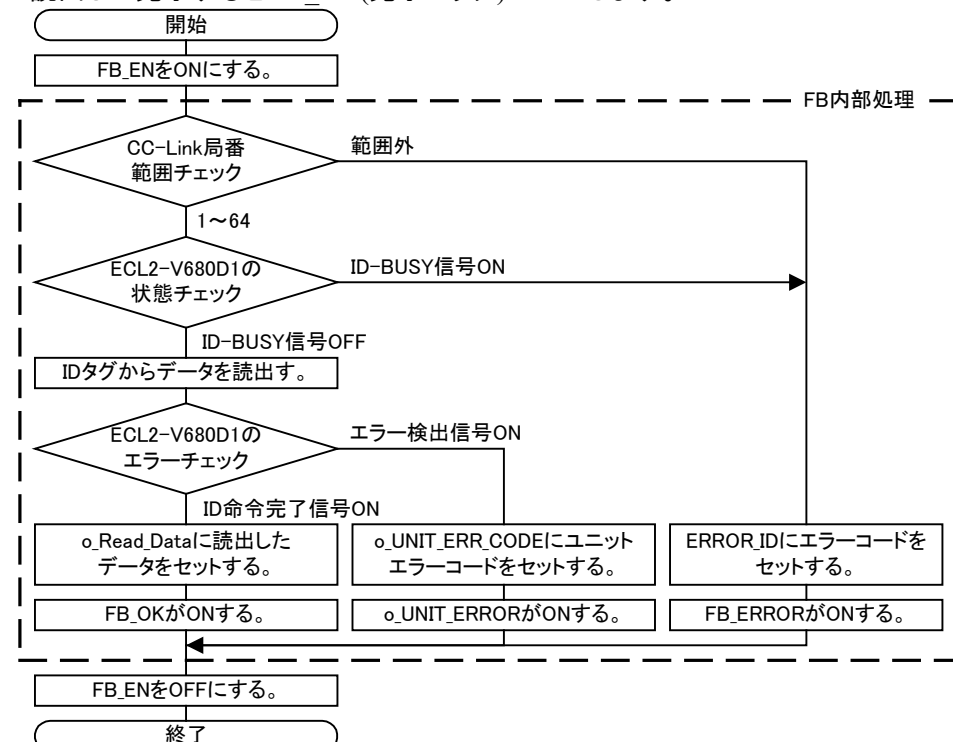
P+MEE-ECL2-V680D1\_Read

機能内容

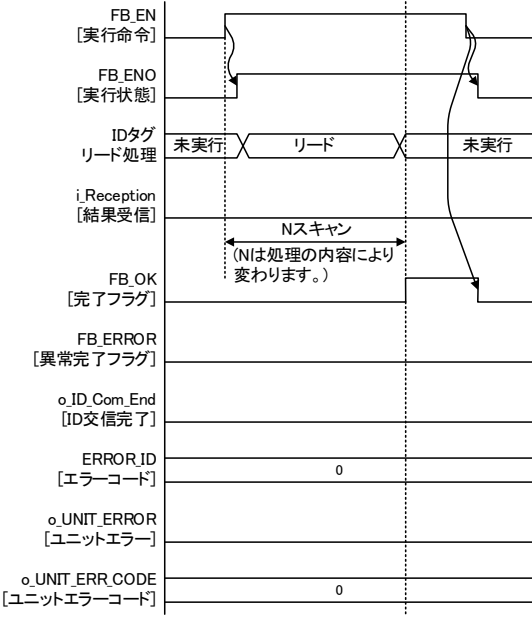
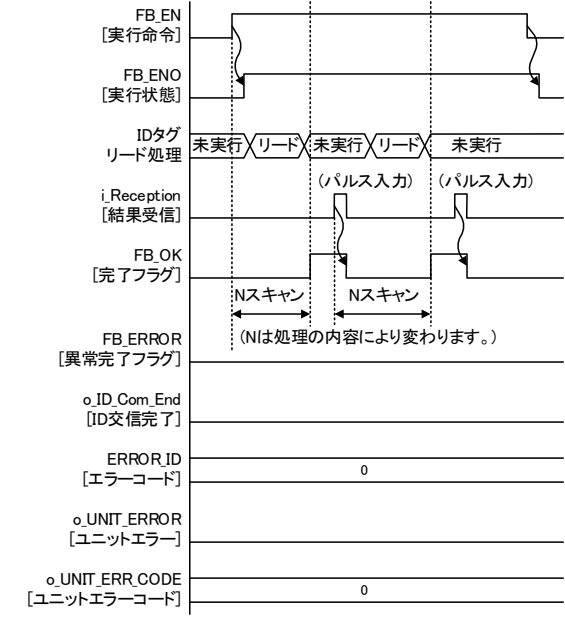
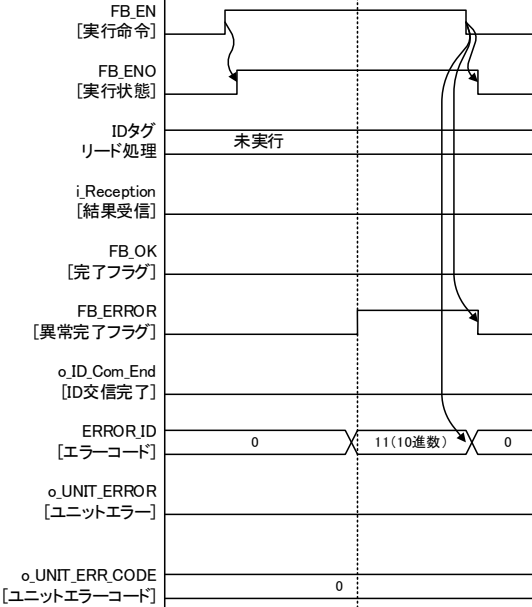
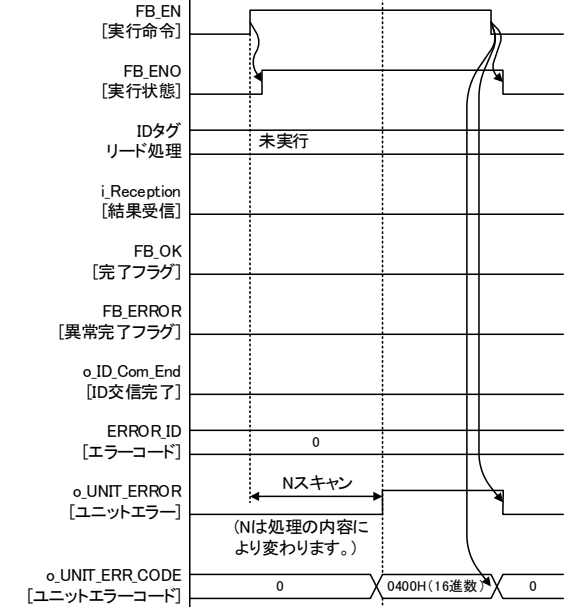
項目	内容																																					
機能概要	ID タグからデータを読み出します。																																					
シンボル	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="4">P+MEE-ECL2-V680D1_Read</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: right;">実行命令</td> <td style="border-left: 1px solid black;">B:FB_EN</td> <td style="border-right: 1px solid black;">FB_ENO:B</td> <td style="text-align: left;">実行状態</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">マスタユニット装着 XYアドレス</td> <td style="border-left: 1px solid black;">W:i_Start_IO_No</td> <td style="border-right: 1px solid black;">FB_OK:B</td> <td style="text-align: left;">完了フラグ</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">CC-Link局番</td> <td style="border-left: 1px solid black;">W:i_Station_No</td> <td style="border-right: 1px solid black;">FB_ERROR:B</td> <td style="text-align: left;">異常完了フラグ</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">先頭アドレス指定</td> <td style="border-left: 1px solid black;">W:i_Address_No</td> <td style="border-right: 1px solid black;">ERROR_ID:W</td> <td style="text-align: left;">エラーコード</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">処理点数指定</td> <td style="border-left: 1px solid black;">W:i_Read_Byte</td> <td style="border-right: 1px solid black;">o_UNIT_ERROR:B</td> <td style="text-align: left;">ユニットエラー</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">結果受信</td> <td style="border-left: 1px solid black;">B:i_Reception</td> <td style="border-right: 1px solid black;">o_UNIT_ERR_CODE:W</td> <td style="text-align: left;">ユニットエラーコード</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="border-right: 1px solid black;">o_Read_Data:W</td> <td style="text-align: left;">読み出しデータ</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="border-right: 1px solid black;">o_ID_Com_End:B</td> <td style="text-align: left;">ID通信完了</td> </tr> </tbody> </table>		P+MEE-ECL2-V680D1_Read				実行命令	B:FB_EN	FB_ENO:B	実行状態	マスタユニット装着 XYアドレス	W:i_Start_IO_No	FB_OK:B	完了フラグ	CC-Link局番	W:i_Station_No	FB_ERROR:B	異常完了フラグ	先頭アドレス指定	W:i_Address_No	ERROR_ID:W	エラーコード	処理点数指定	W:i_Read_Byte	o_UNIT_ERROR:B	ユニットエラー	結果受信	B:i_Reception	o_UNIT_ERR_CODE:W	ユニットエラーコード			o_Read_Data:W	読み出しデータ			o_ID_Com_End:B	ID通信完了
P+MEE-ECL2-V680D1_Read																																						
実行命令	B:FB_EN	FB_ENO:B	実行状態																																			
マスタユニット装着 XYアドレス	W:i_Start_IO_No	FB_OK:B	完了フラグ																																			
CC-Link局番	W:i_Station_No	FB_ERROR:B	異常完了フラグ																																			
先頭アドレス指定	W:i_Address_No	ERROR_ID:W	エラーコード																																			
処理点数指定	W:i_Read_Byte	o_UNIT_ERROR:B	ユニットエラー																																			
結果受信	B:i_Reception	o_UNIT_ERR_CODE:W	ユニットエラーコード																																			
		o_Read_Data:W	読み出しデータ																																			
		o_ID_Com_End:B	ID通信完了																																			
対象機器	対象ユニット	ECL2-V680D1																																				
	対象 CC-Link システム	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>シリーズ</th> <th>モデル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>MELSEC-Q シリーズ</td> <td>QJ61BT11N</td> </tr> <tr> <td>MELSEC-L シリーズ</td> <td>LJ61BT11 L26CPU-BT L26CPU-PBT</td> </tr> </tbody> </table>	シリーズ	モデル	MELSEC-Q シリーズ	QJ61BT11N	MELSEC-L シリーズ	LJ61BT11 L26CPU-BT L26CPU-PBT																														
	シリーズ	モデル																																				
MELSEC-Q シリーズ	QJ61BT11N																																					
MELSEC-L シリーズ	LJ61BT11 L26CPU-BT L26CPU-PBT																																					
対象 CPU	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>シリーズ</th> <th>モデル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">MELSEC-Q シリーズ※1</td> <td>ベーシックモデル QCPU※2</td> </tr> <tr> <td>ハイパフォーマンスモデル QCPU※3</td> </tr> <tr> <td>ユニバーサルモデル QCPU</td> </tr> <tr> <td>MELSEC-L シリーズ</td> <td>LCPU</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1QCPU-A(A モード)使用不可            ※2 シリアル No. の上 5 桁が“04122”以降            ※3 シリアル No. の上 5 桁が“04012”以降</p>	シリーズ	モデル	MELSEC-Q シリーズ※1	ベーシックモデル QCPU※2	ハイパフォーマンスモデル QCPU※3	ユニバーサルモデル QCPU	MELSEC-L シリーズ	LCPU																													
シリーズ	モデル																																					
MELSEC-Q シリーズ※1	ベーシックモデル QCPU※2																																					
	ハイパフォーマンスモデル QCPU※3																																					
	ユニバーサルモデル QCPU																																					
MELSEC-L シリーズ	LCPU																																					

RFID インタフェースユニット ECL2-V680D1  
 FB ライブラリ リファレンスマニュアル(MELSEC-Q シリーズ用)  
 50CM-D180173-C

項目	内容							
対象機器	GX Works2	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="676 197 999 246">シリーズ</th> <th data-bbox="999 197 1477 246">モデル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="676 246 999 295">MELSEC-Q シリーズ</td> <td data-bbox="999 246 1477 295">Version1.11M 以降</td> </tr> <tr> <td data-bbox="676 295 999 344">MELSEC-L シリーズ</td> <td data-bbox="999 295 1477 344">Version1.20W 以降</td> </tr> </tbody> </table>	シリーズ	モデル	MELSEC-Q シリーズ	Version1.11M 以降	MELSEC-L シリーズ	Version1.20W 以降
シリーズ	モデル							
MELSEC-Q シリーズ	Version1.11M 以降							
MELSEC-L シリーズ	Version1.20W 以降							
記述言語	ラダー							
ステップ数	1402steps (MELSEC-Q シリーズ ハイパフォーマンスモデルの場合) ※ プログラムに組み込んだ FB のステップ数は、使用する CPU モデルや、入出力定義によって異なります。							

項目	内容																																								
機能説明	<p>①FB_EN(実行命令)の ON で、ID タグの i_Address_No(先頭アドレス指定)から i_Read_Byte(処理点数指定)で指定したバイト数のデータを読み出します。読み出したデータは、o_Read_Data(読み出しデータ)で指定した先頭デバイスから格納されます。読み出しが完了するとFB_OK(完了フラグ)が ON します。</p>  <pre> graph TD     Start([開始]) --&gt; FB_EN_ON[FB_ENをONにする。]     subgraph FB内部処理         FB_EN_ON --&gt; CC_Link[CC-Link局番 範囲チェック]         CC_Link -- 範囲外 --&gt; FB_EN_OFF[FB_ENをOFFにする。]         CC_Link -- 1~64 --&gt; ECL2_V680D1_1[ECL2-V680D1の 状態チェック]         ECL2_V680D1_1 -- ID-BUSY信号 ON --&gt; FB_EN_OFF         ECL2_V680D1_1 -- ID-BUSY信号 OFF --&gt; Read_Data[IDタグからデータを読み出す。]         Read_Data --&gt; ECL2_V680D1_2[ECL2-V680D1の エラーチェック]         ECL2_V680D1_2 -- エラー検出信号 ON --&gt; Set_Err[エラーコードをセットする。]         ECL2_V680D1_2 -- ID命令完了信号 ON --&gt; Set_Data[o_Read_Dataに読み出した データをセットする。]         Set_Err --&gt; FB_ERR_ON[FB_ERRORがONする。]         Set_Data --&gt; FB_OK_ON[FB_OKがONする。]         Set_Err --&gt; Set_Unit_Err[o_UNIT_ERR_CODEにユニット エラーコードをセットする。]         Set_Unit_Err --&gt; FB_UNIT_ON[o_UNIT_ERRORがONする。]         FB_ERR_ON --&gt; FB_EN_OFF         FB_UNIT_ON --&gt; FB_EN_OFF     end     FB_OK_ON --&gt; FB_EN_OFF     FB_UNIT_ON --&gt; FB_EN_OFF     FB_EN_OFF[FB_ENをOFFにする。] --&gt; End([終了])   </pre> <p>②P+MEE-ECL2-V680D1_InitDataSet(イニシャルデータ設定)で指定した処理指定が 0 の時は上位→下位、1 の時は下位→上位のデータ格納順になります。 (例)</p> <p>0: 上位→下位                                  1: 下位→上位</p> <table border="0" data-bbox="430 1232 1324 1411"> <tr> <td>ID タグの アドレス</td> <td>ID タグの メモリ</td> <td>→</td> <td>CPU ユニットの デバイス</td> <td>ID タグの アドレス</td> <td>ID タグの メモリ</td> <td>→</td> <td>CPU ユニットの デバイス</td> </tr> <tr> <td>0010</td> <td>Data1</td> <td></td> <td>Data1 : Data2</td> <td>0010</td> <td>Data1</td> <td></td> <td>Data2 : Data1</td> </tr> <tr> <td>0011</td> <td>Data2</td> <td></td> <td>Data3 : Data4</td> <td>0011</td> <td>Data2</td> <td></td> <td>Data4 : Data3</td> </tr> <tr> <td>0012</td> <td>Data3</td> <td></td> <td></td> <td>0012</td> <td>Data3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>0013</td> <td>Data4</td> <td></td> <td></td> <td>0013</td> <td>Data4</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>③P+MEE-ECL2-V680D1_InitDataSet(イニシャルデータ設定)で指定した受信指定が 2(リポートオート)、4(FIFO リポート)の時は、i_Reception(結果受信)の ON で、次の ID タグの検出を開始します。</p> <p>④エラーの場合は、FB_ERROR(異常完了フラグ)が ON し、FB の処理を中断します。また、ERROR_ID にはエラーコードをセットします。 エラーコードの詳細は、エラーコード一覧を参照してください。</p> <p>⑤ECL2-V680D1 がエラーとなった場合は、o_UNIT_ERROR(ユニットエラー)が ON し、処理を中断します。また、o_UNIT_ERR_CODE(ユニットエラーコード)にはエラーコードをセットします。 エラーコードの詳細は、ECL2-V680D1 ユーザーズマニュアル(詳細編)を参照してください。</p> <p>⑥読み出し処理中に FB_EN(実行命令)を OFF した場合は FB の処理を中断します。 o_Read_Data(読み出しデータ)には中断するまで読み出したデータが格納されます。</p>	ID タグの アドレス	ID タグの メモリ	→	CPU ユニットの デバイス	ID タグの アドレス	ID タグの メモリ	→	CPU ユニットの デバイス	0010	Data1		Data1 : Data2	0010	Data1		Data2 : Data1	0011	Data2		Data3 : Data4	0011	Data2		Data4 : Data3	0012	Data3			0012	Data3			0013	Data4			0013	Data4		
ID タグの アドレス	ID タグの メモリ	→	CPU ユニットの デバイス	ID タグの アドレス	ID タグの メモリ	→	CPU ユニットの デバイス																																		
0010	Data1		Data1 : Data2	0010	Data1		Data2 : Data1																																		
0011	Data2		Data3 : Data4	0011	Data2		Data4 : Data3																																		
0012	Data3			0012	Data3																																				
0013	Data4			0013	Data4																																				
FB コンパイル方式	マクロ型																																								

項目	内容
制約事項・注意事項等	<p>① 本 FB は、エラーを復帰する処理は含んでいません。エラー復帰処理については、お客様のシステムや要求動作に合わせて、別途作成してください。</p> <p>② CC-Link パラメータ設定のリフレッシュデバイスの設定を 1.4 項に従って行ってください。</p> <p>③ グローバルラベルの設定を 1.5 項の内容に従って行ってください。</p> <p>④ 割込みプログラム内で FB を使用することはできません。</p> <p>⑤ 本 FB を複数使用する場合、対象 CC-Link 局番が重複しないように注意してください。</p> <p>⑥ 1 回しか実行されないプログラム(例えば、サブルーチンプログラムや FOR～NEXT)で FB を使用すると、FB_EN(実行命令)の OFF 処理を実行することができず正常な動作ができなくなるため、FB_EN(実行命令)の OFF を実行できるプログラムで使用してください。</p> <p>⑦ 本 FB ではインデックスレジスタ Z5～Z9 およびデータレジスタ D5000～D5001 を使用しています。割込みプログラムを使用する場合は、当インデックスレジスタおよび当データレジスタを使用しないでください。</p> <p>⑧ ID タグのリードの交信指定、交信設定、処理指定およびオート系コマンド待ち時間設定は、本 FB を実行する前に P+MEE-ECL2-V680D1_InitDataSet(イニシャルデータ設定)で指定してください。</p> <p>⑨ o_Read_Data(読出しデータ)には、読出したデータを格納するエリアの先頭デバイスを必ず指定してください。省略はできません。</p> <p>⑩ FB_EN(実行命令)ON 中は、i_Start_IO_No(マスタユニット装着 XY アドレス)、i_Station_No(CC-Link 局番)、i_Address_No(先頭アドレス指定)、i_Read_Byte(処理点数指定)の値を変更しないでください。</p> <p>⑪ P+MEE-ECL2-V680D1_InitDataSet(イニシャルデータ設定)で指定した交信指定が 0(トリガ)、1(オート)、3(FIFO トリガ)の時、i_Reception(結果受信)は無視されます。</p> <p>⑫ i_Reception(結果受信)にはパルスを入力してください。</p> <p>⑬ FB 内部でインデックス修飾を用いて Y 信号を操作しているため、本 FB を複数個使用した場合、コンパイル時に 2 重コイルワーニングが発生することがありますが、使用上特に問題はありません。</p> <p>⑭ CC-Link システム用 FB は 1 枚のマスタ・ローカルユニットしか制御できません。2 枚以上のマスタ・ローカルユニットを FB で制御する場合には項「付録 1 2 枚以上のマスタ・ローカルユニットで FB を使用する方法」をご参照ください。</p> <p>⑮ 本 FB の処理が完了しない場合、i_Start_IO_No(マスタユニット装着 XY アドレス)が間違っていないか、または i_Station_No(CC-Link 局番)はネットワークの局番と一致しているか、または本 FB を実行する前に P+MEE-ECL2-V680D1_InitDataSet(イニシャルデータ設定)が完了しているか確認ください。</p>
FB 動作	パルス型(複数スキャン実行型)

項目	内容	
入出力信号の動き	<p><b>【正常終了の場合】</b> (トリガ, オート, FIFOトリガ)</p> 	<p><b>【正常終了の場合】</b> (リピートオート, FIFOリピート)</p> 
関連マニュアル	<p><b>【異常終了の場合】</b></p>  <p><b>【ユニットエラーの場合】</b></p> 	

## エラーコード

### ■エラーコード一覧

エラーコード	内容	処置方法
11(10進数)	i_Station_No(CC-Link 局番)の指定が範囲外です。	CC-Link 局番は 1～64 を指定してください。
13(10進数)	i_Read_Byte(処理点数指定)が範囲外です。	<p>【トリガの場合】 処理点数指定は 0001～0800(16進数)を指定してください。</p> <p>【トリガ以外の場合】 1 回の ID 命令で読出し可能なデータ量を指定してください。 詳細範囲は、RFID インタフェースユニットユーザーズマニュアル(詳細編)を参照してください。</p>
14(10進数)	ECL2-V680D1 が ID 命令実行中です。	ID 命令実行が終了してから FB を起動してください。

## 使用ラベル

### ■入カラベル

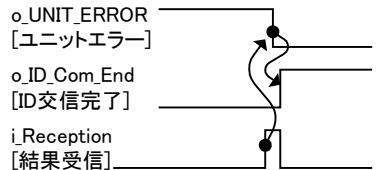
名称	変数名	データ型	有効範囲	説明
実行命令	FB_EN	ビット	—	ON:FB を起動する。 OFF:FB を起動しない。
マスタユニット装着 XY アドレス	i_Start_IO_No	ワード	対象の CPU ユニットの 入出力点数範囲によります。 詳細範囲は、対象 CPU のユーザーズ マニュアルを参照し てください。	対象の CC-Link システムマスタ・ローカルユニットが装着されている先頭 XY アドレスを 16 進数で指定します。(例えば X10 の場合、H10 を入力してください)
CC-Link 局番	i_Station_No	ワード	1～64(10進数)	接続する ECL2-V680D1 の局番を入力します。
先頭アドレス指定	i_Address_No	ワード	0000～FFFF (16進数)	ID タグから読出しを行う先頭アドレスを指定します。



名称	変数名	データ型	有効範囲	説明
処理点数指定	i_Read_Byte	ワード	【トリガの場合】 0001～0800 (16進数) 【トリガ以外の場合】 1回のID命令で読み出し可能なデータ量によります。 詳細範囲は、RFIDインタフェースユニットユーザーズマニュアル(詳細編)を参照してください。	ID タグから読み出しを行う処理バイト数を指定します。
結果受信	i_Reception	ビット	—	複数のIDタグから読み出し処理を行う命令を実行した際、次の結果を受信するためにパルスを入力します。 ON: 次のIDタグの検出を開始します。

#### ■出カラベル

名称	変数名	データ型	初期値	説明
実行状態	FB_ENO	ビット	OFF	ON: FB 実行中。 OFF: FB 未実行。
完了フラグ	FB_OK	ビット	OFF	ON: FB 正常完了。 OFF: FB 未完了。
異常完了フラグ	FB_ERROR	ビット	OFF	ON: FB 異常完了。 OFF: FB 未完了。
エラーコード	ERROR_ID	ワード	0	FB 内で発生したエラーコードを格納します。
ユニットエラー	o_UNIT_ERROR	ビット	OFF	ON: RFID インタフェースユニットでエラー発生。 OFF: 正常。
ユニットエラーコード	o_UNIT_ERR_CODE	ワード	0	RFID インタフェースユニットで発生したエラー詳細を格納します。

名称	変数名	データ型	初期値	説明
読出しデータ	o_Read_Data	ワード	0	読出したデータを格納するエリアの先頭デバイスを指定してください。読出しデータは、i_Read_Byte(処理点数指定)で指定したバイト数のエリアに格納されます。
ID 交信完了	o_ID_Com_End	ビット	OFF	アンテナ未接続などの要因でRFID インタフェースユニット側が交信を打ち切る際、i_Reception(結果受信)ON 後に ON します。  

#### FB のバージョンアップ履歴

バージョン	日付	内容
1.00A	2014/1/31	新規作成

#### お願い

本章はファンクションブロックの機能について記載しております。  
 ユニットやシーケンサ CPU の使用上の制限事項、組み合わせによる制限事項などについては記載しておりません。  
 ご使用にあたりましては、必ず対象製品のユーザーズマニュアルをお読みいただきますようお願い申し上げます。

## 2.3 P+MEE-ECL2-V680D1\_Write (ID タグのライト)

名称

P+MEE-ECL2-V680D1\_Write

機能内容

項目	内容																																	
機能概要	ID タグヘデータを書込みます。																																	
シンボル	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="4" style="text-align: center;">P+MEE-ECL2-V680D1_Write</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: right;">実行命令</td> <td style="border-left: 1px solid black;">B:FB_EN</td> <td style="border-right: 1px solid black;">FB_ENO:B</td> <td style="text-align: left;">実行状態</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">マスタユニット装着 XYアドレス</td> <td style="border-left: 1px solid black;">W:i_Start_IO_No</td> <td style="border-right: 1px solid black;">FB_OK:B</td> <td style="text-align: left;">完了フラグ</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">CC-Link局番</td> <td style="border-left: 1px solid black;">W:i_Station_No</td> <td style="border-right: 1px solid black;">FB_ERROR:B</td> <td style="text-align: left;">異常完了フラグ</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">先頭アドレス指定</td> <td style="border-left: 1px solid black;">W:i_Address_No</td> <td style="border-right: 1px solid black;">ERROR_ID:W</td> <td style="text-align: left;">エラーコード</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">処理点数指定</td> <td style="border-left: 1px solid black;">W:i_Write_Byte</td> <td style="border-right: 1px solid black;">o_UNIT_ERROR:B</td> <td style="text-align: left;">ユニットエラー</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">書込みデータ</td> <td style="border-left: 1px solid black;">W:i_Write_Data</td> <td style="border-right: 1px solid black;">o_UNIT_ERR_CODE:W</td> <td style="text-align: left;">ユニットエラーコード</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">結果受信</td> <td style="border-left: 1px solid black;">B:i_Reception</td> <td style="border-right: 1px solid black;">o_ID_Com_End:B</td> <td style="text-align: left;">ID通信完了</td> </tr> </tbody> </table>		P+MEE-ECL2-V680D1_Write				実行命令	B:FB_EN	FB_ENO:B	実行状態	マスタユニット装着 XYアドレス	W:i_Start_IO_No	FB_OK:B	完了フラグ	CC-Link局番	W:i_Station_No	FB_ERROR:B	異常完了フラグ	先頭アドレス指定	W:i_Address_No	ERROR_ID:W	エラーコード	処理点数指定	W:i_Write_Byte	o_UNIT_ERROR:B	ユニットエラー	書込みデータ	W:i_Write_Data	o_UNIT_ERR_CODE:W	ユニットエラーコード	結果受信	B:i_Reception	o_ID_Com_End:B	ID通信完了
P+MEE-ECL2-V680D1_Write																																		
実行命令	B:FB_EN	FB_ENO:B	実行状態																															
マスタユニット装着 XYアドレス	W:i_Start_IO_No	FB_OK:B	完了フラグ																															
CC-Link局番	W:i_Station_No	FB_ERROR:B	異常完了フラグ																															
先頭アドレス指定	W:i_Address_No	ERROR_ID:W	エラーコード																															
処理点数指定	W:i_Write_Byte	o_UNIT_ERROR:B	ユニットエラー																															
書込みデータ	W:i_Write_Data	o_UNIT_ERR_CODE:W	ユニットエラーコード																															
結果受信	B:i_Reception	o_ID_Com_End:B	ID通信完了																															
対象機器	対象ユニット	ECL2-V680D1																																
	対象 CC-Link システム	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">シリーズ</th> <th style="width: 50%;">モデル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>MELSEC-Q シリーズ</td> <td>QJ61BT11N</td> </tr> <tr> <td>MELSEC-L シリーズ</td> <td>LJ61BT11</td> </tr> <tr> <td></td> <td>L26CPU-BT</td> </tr> <tr> <td></td> <td>L26CPU-PBT</td> </tr> </tbody> </table>	シリーズ	モデル	MELSEC-Q シリーズ	QJ61BT11N	MELSEC-L シリーズ	LJ61BT11		L26CPU-BT		L26CPU-PBT																						
	シリーズ	モデル																																
MELSEC-Q シリーズ	QJ61BT11N																																	
MELSEC-L シリーズ	LJ61BT11																																	
	L26CPU-BT																																	
	L26CPU-PBT																																	
対象 CPU	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">シリーズ</th> <th style="width: 50%;">モデル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">MELSEC-Q シリーズ※1</td> <td>ベーシックモデル QCPU※2</td> </tr> <tr> <td>ハイパフォーマンスモデル QCPU※3</td> </tr> <tr> <td>ユニバーサルモデル QCPU</td> </tr> <tr> <td>MELSEC-L シリーズ</td> <td>LCPU</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1QCPU-A(A モード)使用不可            ※2 シリアル No. の上 5 桁が“04122”以降            ※3 シリアル No. の上 5 桁が“04012”以降</p>	シリーズ	モデル	MELSEC-Q シリーズ※1	ベーシックモデル QCPU※2	ハイパフォーマンスモデル QCPU※3	ユニバーサルモデル QCPU	MELSEC-L シリーズ	LCPU																									
シリーズ	モデル																																	
MELSEC-Q シリーズ※1	ベーシックモデル QCPU※2																																	
	ハイパフォーマンスモデル QCPU※3																																	
	ユニバーサルモデル QCPU																																	
MELSEC-L シリーズ	LCPU																																	

項目	内容							
対象機器	GX Works2	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="676 197 999 246">シリーズ</th> <th data-bbox="999 197 1477 246">モデル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="676 246 999 295">MELSEC-Q シリーズ</td> <td data-bbox="999 246 1477 295">Version1.11M 以降</td> </tr> <tr> <td data-bbox="676 295 999 344">MELSEC-L シリーズ</td> <td data-bbox="999 295 1477 344">Version1.20W 以降</td> </tr> </tbody> </table>	シリーズ	モデル	MELSEC-Q シリーズ	Version1.11M 以降	MELSEC-L シリーズ	Version1.20W 以降
シリーズ	モデル							
MELSEC-Q シリーズ	Version1.11M 以降							
MELSEC-L シリーズ	Version1.20W 以降							
記述言語	ラダー							
ステップ数	1407steps (MELSEC-Q シリーズ ハイパフォーマンスモデルの場合) ※ プログラムに組み込んだ FB のステップ数は、使用する CPU モデルや、入出力定義によって異なります。							

項目	内容																																
機能説明	<p>①FB_EN(実行命令)の ON で、i_Write_Data(書き込みデータ)で指定した先頭デバイスから格納されたデータをIDタグの i_Address_No(先頭アドレス指定)から i_Write_Byte(処理点数指定)で指定されたバイト数書込みます。 書込みが完了するとFB_OK(完了フラグ)が ON します。</p> <p>②P+MEE-ECL2-V680D1_InitDataSet(イニシャルデータ設定)で指定した処理指定が 0 の時は上位→下位、1 の時は下位→上位のデータ格納順になります。 (例)</p> <table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>0: 上位→下位</p> <table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">CPU ユニットの デバイス</th> <th style="text-align: center;">ID タグの アドレス</th> <th style="text-align: center;">メモリ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Data1 : Data2</td> <td style="text-align: center;">0010</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Data1</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Data3 : Data4</td> <td style="text-align: center;">0011</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Data2</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">0012</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Data3</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">0013</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Data4</td> </tr> </tbody> </table> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>1: 下位→上位</p> <table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">CPU ユニットの デバイス</th> <th style="text-align: center;">ID タグの アドレス</th> <th style="text-align: center;">メモリ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Data2 : Data1</td> <td style="text-align: center;">0010</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Data1</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Data4 : Data3</td> <td style="text-align: center;">0011</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Data2</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">0012</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Data3</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">0013</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Data4</td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> </table> <p>③P+MEE-ECL2-V680D1_InitDataSet(イニシャルデータ設定)で指定した交信指定が 2(リポートオート)、4(FIFO リポート)の時は、i_Reception(結果受信)の ON で、次の ID タグの検出を開始します。</p> <p>④エラーの場合は、FB_ERROR(異常完了フラグ)が ON し、FB の処理を中断します。また、ERROR_ID にはエラーコードをセットします。 エラーコードの詳細は、エラーコード一覧を参照してください。</p> <p>⑤ECL2-V680D1 がエラーとなった場合は、o_UNIT_ERROR(ユニットエラー)が ON し、処理を中断します。また、o_UNIT_ERR_CODE(ユニットエラーコード)にはエラーコードをセットします。 エラーコードの詳細は、ECL2-V680D1 ユーザーズマニュアル(詳細編)を参照してください。</p> <p>⑥書き込み処理中にFB_EN(実行命令)を OFF した場合は FB の処理を中断します。 ID タグヘータ書き込み中であれば中断するまでのデータが書込まれます。</p>	<p>0: 上位→下位</p> <table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">CPU ユニットの デバイス</th> <th style="text-align: center;">ID タグの アドレス</th> <th style="text-align: center;">メモリ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Data1 : Data2</td> <td style="text-align: center;">0010</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Data1</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Data3 : Data4</td> <td style="text-align: center;">0011</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Data2</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">0012</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Data3</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">0013</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Data4</td> </tr> </tbody> </table>	CPU ユニットの デバイス	ID タグの アドレス	メモリ	Data1 : Data2	0010	Data1	Data3 : Data4	0011	Data2		0012	Data3		0013	Data4	<p>1: 下位→上位</p> <table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">CPU ユニットの デバイス</th> <th style="text-align: center;">ID タグの アドレス</th> <th style="text-align: center;">メモリ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Data2 : Data1</td> <td style="text-align: center;">0010</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Data1</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Data4 : Data3</td> <td style="text-align: center;">0011</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Data2</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">0012</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Data3</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">0013</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Data4</td> </tr> </tbody> </table>	CPU ユニットの デバイス	ID タグの アドレス	メモリ	Data2 : Data1	0010	Data1	Data4 : Data3	0011	Data2		0012	Data3		0013	Data4
<p>0: 上位→下位</p> <table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">CPU ユニットの デバイス</th> <th style="text-align: center;">ID タグの アドレス</th> <th style="text-align: center;">メモリ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Data1 : Data2</td> <td style="text-align: center;">0010</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Data1</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Data3 : Data4</td> <td style="text-align: center;">0011</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Data2</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">0012</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Data3</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">0013</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Data4</td> </tr> </tbody> </table>	CPU ユニットの デバイス	ID タグの アドレス	メモリ	Data1 : Data2	0010	Data1	Data3 : Data4	0011	Data2		0012	Data3		0013	Data4	<p>1: 下位→上位</p> <table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">CPU ユニットの デバイス</th> <th style="text-align: center;">ID タグの アドレス</th> <th style="text-align: center;">メモリ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Data2 : Data1</td> <td style="text-align: center;">0010</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Data1</td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Data4 : Data3</td> <td style="text-align: center;">0011</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Data2</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">0012</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Data3</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">0013</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Data4</td> </tr> </tbody> </table>	CPU ユニットの デバイス	ID タグの アドレス	メモリ	Data2 : Data1	0010	Data1	Data4 : Data3	0011	Data2		0012	Data3		0013	Data4		
CPU ユニットの デバイス	ID タグの アドレス	メモリ																															
Data1 : Data2	0010	Data1																															
Data3 : Data4	0011	Data2																															
	0012	Data3																															
	0013	Data4																															
CPU ユニットの デバイス	ID タグの アドレス	メモリ																															
Data2 : Data1	0010	Data1																															
Data4 : Data3	0011	Data2																															
	0012	Data3																															
	0013	Data4																															
FB コンパイル方式	マクロ型																																

項目	内容
制約事項・注意事項等	<p>① 本 FB は、エラーを復帰する処理は含んでいません。エラー復帰処理については、お客様のシステムや要求動作に合わせて、別途作成してください。</p> <p>② CC-Link パラメータ設定のリフレッシュデバイスの設定を 1.4 項に従って行ってください。</p> <p>③ グローバルラベルの設定を 1.5 項の内容に従って行ってください。</p> <p>④ 割込みプログラム内で FB を使用することはできません。</p> <p>⑤ 本 FB を複数使用する場合、対象 CC-Link 局番が重複しないように注意してください。</p> <p>⑥ 1 回しか実行されないプログラム(例えば、サブルーチンプログラムや FOR～NEXT)で FB を使用すると、FB_EN(実行命令)の OFF 処理を実行することができず正常な動作ができなくなるため、FB_EN(実行命令)の OFF を実行できるプログラムで使用してください。</p> <p>⑦ 本 FB ではインデックスレジスタ Z5～Z9 およびデータレジスタ D5000～D5001 を使用していません。割込みプログラムを使用する場合は、当インデックスレジスタおよび当データレジスタを使用しないでください。</p> <p>⑧ ID タグのライトの交信指定、交信設定、処理指定およびオート系コマンド待ち時間設定は、本 FB を実行する前に P+MEE-ECL2-V680D1_InitDataSet(イニシャルデータ設定)で指定してください。</p> <p>⑨ i_Write_Data(書込みデータ)には、書込むデータを格納したエリアの先頭デバイスを必ず指定してください。省略はできません。</p> <p>⑩ FB_EN(実行命令)ON 中は、i_Start_IO_No(マスタユニット装着 XY アドレス)、i_Station_No(CC-Link 局番)、i_Address_No(先頭アドレス指定)、i_Write_Byte(処理点数指定)、i_Write_Data(書込みデータ)の値を変更しないでください。</p> <p>⑪ P+MEE-ECL2-V680D1_InitDataSet(イニシャルデータ設定)で指定した交信指定が 0(トリガ)、1(オート)、3(FIFO トリガ)の時、i_Reception(結果受信)は無視されます。</p> <p>⑫ i_Reception(結果受信)にはパルスを入力してください。</p> <p>⑬ FB 内部でインデックス修飾を用いて Y 信号を操作しているため、本 FB を複数個使用した場合、コンパイル時に 2 重コイルワーニングが発生することがありますが、使用上特に問題はありません。</p> <p>⑭ CC-Link システム用 FB は 1 枚のマスタ・ローカルユニットしか制御できません。2 枚以上のマスタ・ローカルユニットを FB で制御する場合には項「付録 1 2 枚以上のマスタ・ローカルユニットで FB を使用する方法」をご参照ください。</p> <p>⑮ 本 FB の処理が完了しない場合、i_Start_IO_No(マスタユニット装着 XY アドレス)が間違っていないか、または i_Station_No(CC-Link 局番)はネットワークの局番と一致しているか、または本 FB を実行する前に P+MEE-ECL2-V680D1_InitDataSet(イニシャルデータ設定)が完了しているか確認ください。</p>
FB 動作	パルス型(複数スキャン実行型)

項目	内容	
入出力信号の動き	<p><b>【正常終了の場合】</b> (トリガ, オート, FIFOトリガ)</p>	<p><b>【正常終了の場合】</b> (リピートオート, FIFOリピート)</p>
関連マニュアル	<p>ECL2-V680D1 ユーザーズマニュアル(詳細編)  CC-Link システムマスタ・ローカルユニットユーザーズマニュアル(詳細編)  MELSEC-L CC-Link システムマスタ・ローカルユニットユーザーズマニュアル</p>	

## エラーコード

### ■エラーコード一覧

エラーコード	内容	処置方法
11(10進数)	i_Station_No(CC-Link 局番)の指定が範囲外です。	CC-Link 局番は 1～64 を指定してください。
13(10進数)	i_Write_Byte(処理点数指定)が範囲外です。	<p>【トリガの場合】</p> 処理点数指定は 0001～0800(16進数)を指定してください。 <p>【トリガ以外の場合】</p> 1 回の ID 命令で書込み可能なデータ量を指定してください。           詳細範囲は、RFID インタフェースユニットユーザーズマニュアル(詳細編)を参照してください。
14(10進数)	ECL2-V680D1 が ID 命令実行中です。	ID 命令実行が終了してから FB を起動してください。

## 使用ラベル

### ■入カラベル

名称	変数名	データ型	有効範囲	説明
実行命令	FB_EN	ビット	—	ON:FB を起動する。 OFF:FB を起動しない。
マスタユニット装着 XY アドレス	i_Start_IO_No	ワード	対象の CPU ユニットの 入出力点数範囲によります。 詳細範囲は、対象 CPU のユーザーズ マニュアルを参照し てください。	対象の CC-Link システムマスタ・ローカルユニットが装着されている先頭 XY アドレスを 16 進数で指定します。(例えば X10 の場合、H10 を入力してください)
CC-Link 局番	i_Station_No	ワード	1～64(10進数)	接続する ECL2-V680D1 の局番を入力します。
先頭アドレス指定	i_Address_No	ワード	0000～FFFF (16進数)	ID タグへ書込みを行う先頭アドレスを指定します。



名称	変数名	データ型	有効範囲	説明
処理点数指定	i_Write_Byte	ワード	【トリガの場合】 0001～0800 (16進数) 【トリガ以外の場合】 1回のID命令で書き込み可能なデータ量によります。 詳細範囲は、RFIDインタフェースユニットユーザーズマニュアル(詳細編)を参照してください。	IDタグへ書き込みを行う処理バイト数を指定します。
書き込みデータ	i_Write_Data	ワード	0000～FFFF (16進数)	書き込むデータを格納したエリアの先頭デバイスを指定してください。 書き込みデータは、i_Write_Byte(処理点数指定)で指定したバイト数のデータを書き込みます。
結果受信	i_Reception	ビット	—	複数のIDタグへ書き込み処理を行う命令を実行した際、次の結果を受信するためにパルスを入力します。 ON: 次のIDタグの検出を開始します。

#### ■出カラベル

名称	変数名	データ型	初期値	説明
実行状態	FB_ENO	ビット	OFF	ON:FB 実行中。 OFF:FB 未実行。
完了フラグ	FB_OK	ビット	OFF	ON:FB 正常完了。 OFF:FB 未完了。
異常完了フラグ	FB_ERROR	ビット	OFF	ON:FB 異常完了。 OFF:FB 未完了。
エラーコード	ERROR_ID	ワード	0	FB 内で発生したエラーコードを格納します。

名称	変数名	データ型	初期値	説明
ユニットエラー	o_UNIT_ERROR	ビット	OFF	ON:RFID インタフェースユニット でエラー発生。 OFF:正常。
ユニットエラーコード	o_UNIT_ERR_CODE	ワード	0	RFID インタフェースユニットで発生したエラー詳細を格納します。
ID 交信完了	o_ID_Com_End	ビット	OFF	アンテナ未接続などの要因でRFID インタフェースユニット側が交信を打ち切る際、i_Reception (結果受信)ON 後に ON します。  

#### FB のバージョンアップ履歴

バージョン	日付	内容
1.00A	2014/1/31	新規作成

#### お願い

本章はファンクションブロックの機能について記載しております。  
 ユニットやシーケンサ CPU の使用上の制限事項、組み合わせによる制限事項などについては記載しておりません。  
 ご使用にあたりましては、必ず対象製品のユーザーズマニュアルをお読みいただきますようお願い申し上げます。

## 2.4 P+MEE-ECL2-V680D1\_Fill (ID タグのデータフィル)

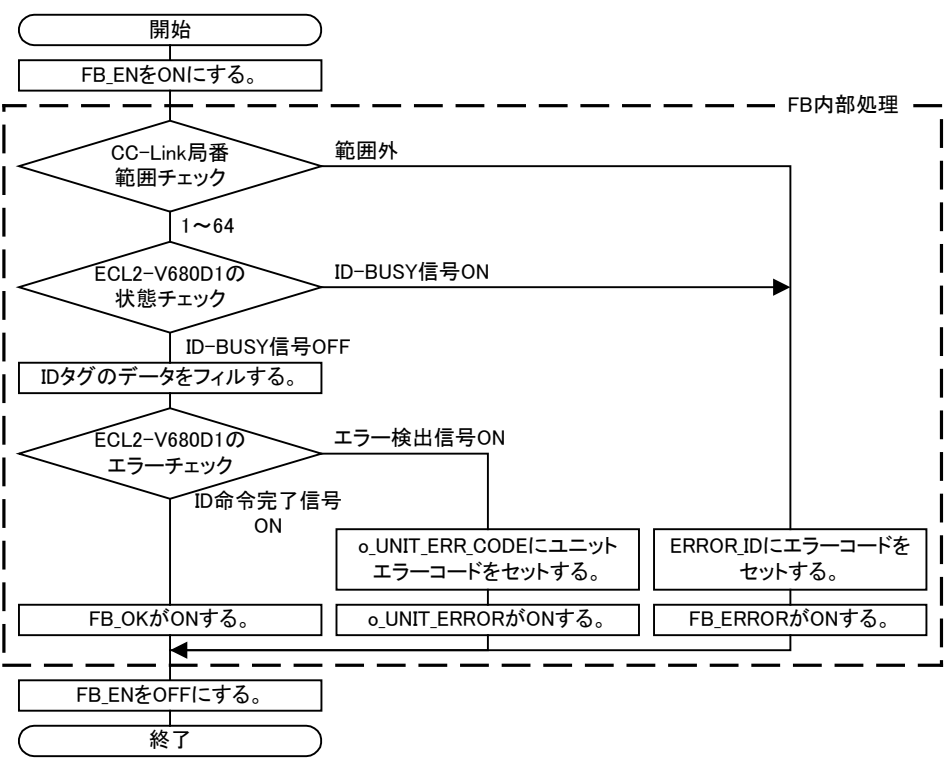
名称

P+MEE-ECL2-V680D1\_Fill

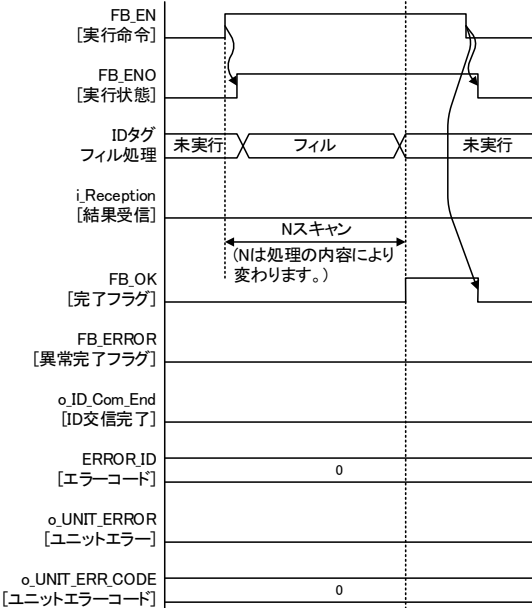
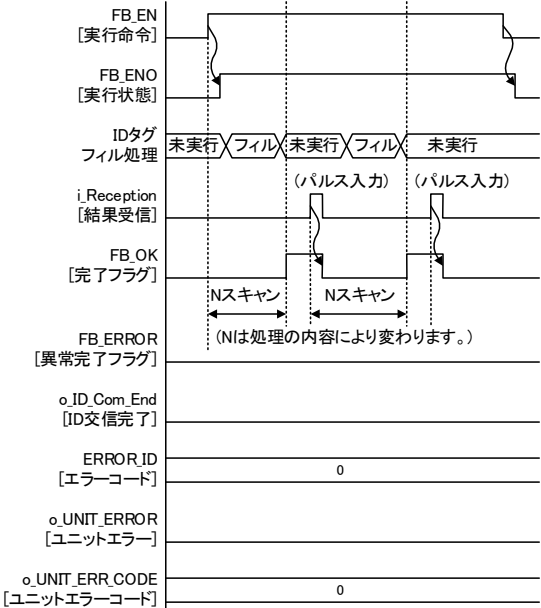
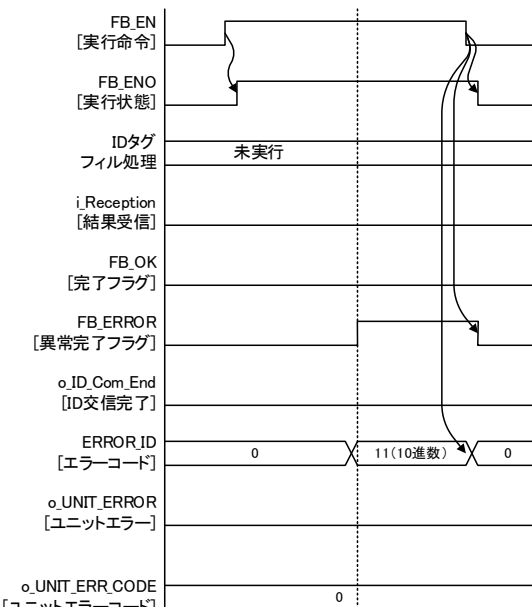
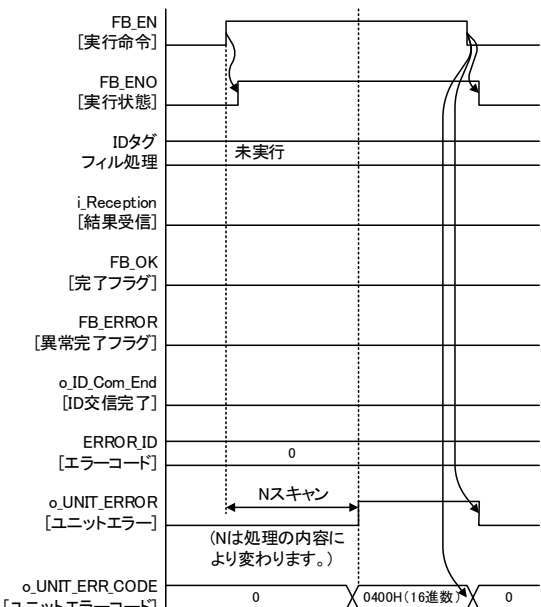
機能内容

項目	内容																																	
機能概要	指定したデータで ID タグを初期化します。																																	
シンボル	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="4" style="text-align: center;">P+MEE-ECL2-V680D1_Fill</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: right;">実行命令</td> <td style="border: 1px solid black;">B:FB_EN</td> <td style="border: 1px solid black;">FB_ENO:B</td> <td style="text-align: left;">実行状態</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">マスタユニット装着 XYアドレス</td> <td style="border: 1px solid black;">W:i_Start_IO_No</td> <td style="border: 1px solid black;">FB_OK:B</td> <td style="text-align: left;">完了フラグ</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">CC-Link局番</td> <td style="border: 1px solid black;">W:i_Station_No</td> <td style="border: 1px solid black;">FB_ERROR:B</td> <td style="text-align: left;">異常完了フラグ</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">先頭アドレス指定</td> <td style="border: 1px solid black;">W:i_Address_No</td> <td style="border: 1px solid black;">ERROR_ID:W</td> <td style="text-align: left;">エラーコード</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">処理点数指定</td> <td style="border: 1px solid black;">W:i_Fill_Byte</td> <td style="border: 1px solid black;">o_UNIT_ERROR:B</td> <td style="text-align: left;">ユニットエラー</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">フィルデータ</td> <td style="border: 1px solid black;">W:i_Fill_Data</td> <td style="border: 1px solid black;">o_UNIT_ERR_CODE:W</td> <td style="text-align: left;">ユニットエラーコード</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">結果受信</td> <td style="border: 1px solid black;">B:i_Reception</td> <td style="border: 1px solid black;">o_ID_Com_End:B</td> <td style="text-align: left;">ID交信完了</td> </tr> </tbody> </table>		P+MEE-ECL2-V680D1_Fill				実行命令	B:FB_EN	FB_ENO:B	実行状態	マスタユニット装着 XYアドレス	W:i_Start_IO_No	FB_OK:B	完了フラグ	CC-Link局番	W:i_Station_No	FB_ERROR:B	異常完了フラグ	先頭アドレス指定	W:i_Address_No	ERROR_ID:W	エラーコード	処理点数指定	W:i_Fill_Byte	o_UNIT_ERROR:B	ユニットエラー	フィルデータ	W:i_Fill_Data	o_UNIT_ERR_CODE:W	ユニットエラーコード	結果受信	B:i_Reception	o_ID_Com_End:B	ID交信完了
P+MEE-ECL2-V680D1_Fill																																		
実行命令	B:FB_EN	FB_ENO:B	実行状態																															
マスタユニット装着 XYアドレス	W:i_Start_IO_No	FB_OK:B	完了フラグ																															
CC-Link局番	W:i_Station_No	FB_ERROR:B	異常完了フラグ																															
先頭アドレス指定	W:i_Address_No	ERROR_ID:W	エラーコード																															
処理点数指定	W:i_Fill_Byte	o_UNIT_ERROR:B	ユニットエラー																															
フィルデータ	W:i_Fill_Data	o_UNIT_ERR_CODE:W	ユニットエラーコード																															
結果受信	B:i_Reception	o_ID_Com_End:B	ID交信完了																															
対象機器	対象ユニット	ECL2-V680D1																																
	対象 CC-Link システム	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">シリーズ</th> <th style="width: 50%;">モデル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>MELSEC-Q シリーズ</td> <td>QJ61BT11N</td> </tr> <tr> <td>MELSEC-L シリーズ</td> <td>LJ61BT11</td> </tr> <tr> <td></td> <td>L26CPU-BT</td> </tr> <tr> <td></td> <td>L26CPU-PBT</td> </tr> </tbody> </table>	シリーズ	モデル	MELSEC-Q シリーズ	QJ61BT11N	MELSEC-L シリーズ	LJ61BT11		L26CPU-BT		L26CPU-PBT																						
	シリーズ	モデル																																
MELSEC-Q シリーズ	QJ61BT11N																																	
MELSEC-L シリーズ	LJ61BT11																																	
	L26CPU-BT																																	
	L26CPU-PBT																																	
対象 CPU	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">シリーズ</th> <th style="width: 50%;">モデル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">MELSEC-Q シリーズ※1</td> <td>ベーシックモデル QCPU※2</td> </tr> <tr> <td>ハイパフォーマンスモデル QCPU※3</td> </tr> <tr> <td>ユニバーサルモデル QCPU</td> </tr> <tr> <td>MELSEC-L シリーズ</td> <td>LCPU</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1QCPU-A(A モード)使用不可            ※2 シリアル No. の上 5 桁が“04122”以降            ※3 シリアル No. の上 5 桁が“04012”以降</p>	シリーズ	モデル	MELSEC-Q シリーズ※1	ベーシックモデル QCPU※2	ハイパフォーマンスモデル QCPU※3	ユニバーサルモデル QCPU	MELSEC-L シリーズ	LCPU																									
シリーズ	モデル																																	
MELSEC-Q シリーズ※1	ベーシックモデル QCPU※2																																	
	ハイパフォーマンスモデル QCPU※3																																	
	ユニバーサルモデル QCPU																																	
MELSEC-L シリーズ	LCPU																																	

項目	内容							
対象機器	GX Works2	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="676 197 999 246">シリーズ</th> <th data-bbox="999 197 1477 246">モデル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="676 246 999 295">MELSEC-Q シリーズ</td> <td data-bbox="999 246 1477 295">Version1.11M 以降</td> </tr> <tr> <td data-bbox="676 295 999 344">MELSEC-L シリーズ</td> <td data-bbox="999 295 1477 344">Version1.20W 以降</td> </tr> </tbody> </table>	シリーズ	モデル	MELSEC-Q シリーズ	Version1.11M 以降	MELSEC-L シリーズ	Version1.20W 以降
シリーズ	モデル							
MELSEC-Q シリーズ	Version1.11M 以降							
MELSEC-L シリーズ	Version1.20W 以降							
記述言語	ラダー							
ステップ数	1192steps (MELSEC-Q シリーズ ハイパフォーマンスモデルの場合) ※ プログラムに組み込んだ FB のステップ数は、使用する CPU モデルや、入出力定義によって異なります。							

項目	内容																														
機能説明	<p>①FB_EN(実行命令)の ON で、ID タグの i_Address_No(先頭アドレス指定)から i_Fill_Byte(処理点数指定)で指定されたバイト数を i_Fill_Data(フィルデータ)でフィルします。フィルが完了すると FB_OK(完了フラグ)が ON します。</p>  <p>②P+MEE-ECL2-V680D1_InitDataSet(イニシャルデータ設定)で指定した処理指定が 0 の時は上位→下位、1 の時は下位→上位のデータ格納順になります。 (例)</p> <p>0: 上位→下位</p> <table border="1" data-bbox="406 1243 877 1444"> <thead> <tr> <th>フィルデータ</th> <th>アドレス</th> <th>ID タグのメモリ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Data1   Data2</td> <td>0010</td> <td>Data1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0011</td> <td>Data2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0012</td> <td>Data1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0013</td> <td>Data2</td> </tr> </tbody> </table> <p>1: 下位→上位</p> <table border="1" data-bbox="965 1243 1436 1444"> <thead> <tr> <th>フィルデータ</th> <th>アドレス</th> <th>ID タグのメモリ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Data2   Data1</td> <td>0010</td> <td>Data1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0011</td> <td>Data2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0012</td> <td>Data1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0013</td> <td>Data2</td> </tr> </tbody> </table> <p>③P+MEE-ECL2-V680D1_InitDataSet(イニシャルデータ設定)で指定した交信指定が 2(リポートオート)、4(FIFO リポート)の時は、i_Reception(結果受信)の ON で、次の ID タグの検出を開始します。</p> <p>④エラーの場合は、FB_ERROR(異常完了フラグ)が ON し、FB の処理を中断します。また、ERROR_ID にはエラーコードをセットします。 エラーコードの詳細は、エラーコード一覧を参照してください。</p> <p>⑤ECL2-V680D1 がエラーとなった場合は、o_UNIT_ERROR(ユニットエラー)が ON し、処理を中断します。また、o_UNIT_ERR_CODE(ユニットエラーコード)にはエラーコードをセットします。 エラーコードの詳細は、ECL2-V680D1 ユーザーズマニュアル(詳細編)を参照してください。</p> <p>⑥フィル処理中に FB_EN(実行命令)を OFF した場合は FB の処理を中断します。 ID タグヘデータ書き込み中であれば最後まで書込まれます。</p>	フィルデータ	アドレス	ID タグのメモリ	Data1   Data2	0010	Data1		0011	Data2		0012	Data1		0013	Data2	フィルデータ	アドレス	ID タグのメモリ	Data2   Data1	0010	Data1		0011	Data2		0012	Data1		0013	Data2
フィルデータ	アドレス	ID タグのメモリ																													
Data1   Data2	0010	Data1																													
	0011	Data2																													
	0012	Data1																													
	0013	Data2																													
フィルデータ	アドレス	ID タグのメモリ																													
Data2   Data1	0010	Data1																													
	0011	Data2																													
	0012	Data1																													
	0013	Data2																													
FB コンパイル方式	マクロ型																														

項目	内容
制約事項・注意事項等	<p>① 本 FB は、エラーを復帰する処理は含んでいません。エラー復帰処理については、お客様のシステムや要求動作に合わせて、別途作成してください。</p> <p>② CC-Link パラメータ設定のリフレッシュデバイスの設定を 1.4 項に従って行ってください。</p> <p>③ グローバルラベルの設定を 1.5 項の内容に従って行ってください。</p> <p>④ 割り込みプログラム内で FB を使用することはできません。</p> <p>⑤ 本 FB を複数使用する場合、対象 CC-Link 局番が重複しないように注意してください。</p> <p>⑥ 1 回しか実行されないプログラム(例えば、サブルーチンプログラムや FOR～NEXT)で FB を使用すると、FB_EN(実行命令)の OFF 処理を実行することができず正常な動作ができなくなるため、FB_EN(実行命令)の OFF を実行できるプログラムで使用してください。</p> <p>⑦ 本 FB ではインデックスレジスタ Z5～Z9 を使用しています。割り込みプログラムを使用する場合は、当インデックスレジスタを使用しないでください。</p> <p>⑧ ID タグのデータフィルの交信指定、交信設定、処理指定およびオート系コマンド待ち時間設定は、本 FB を実行する前に P+MEE-ECL2-V680D1_InitDataSet(イニシャルデータ設定)で指定してください。</p> <p>⑨ FB_EN(実行命令)ON 中は、i_Start_IO_No(マスタユニット装着 XY アドレス)、i_Station_No(CC-Link 局番)、i_Address_No(先頭アドレス指定)、i_Fill_Byte(処理点数指定)、i_Fill_Data(フィルデータ)の値を変更しないでください。</p> <p>⑩ P+MEE-ECL2-V680D1_InitDataSet(イニシャルデータ設定)で指定した交信指定が 0(トリガ)、1(オート)、3(FIFO トリガ)の時、i_Reception(結果受信)は無視されます。</p> <p>⑪ データフィルでは、ID タグの全データ初期化を行うために、ライトプロテクト機能は動作しません。</p> <p>⑫ i_Reception(結果受信)にはパルスを入力してください。</p> <p>⑬ FB 内部でインデックス修飾を用いて Y 信号を操作しているため、本 FB を複数個使用した場合、コンパイル時に 2 重コイルワーニングが発生することがありますが、使用上特に問題はありません。</p> <p>⑭ CC-Link システム用 FB は 1 枚のマスタ・ローカルユニットしか制御できません。2 枚以上のマスタ・ローカルユニットを FB で制御する場合には項「付録 1 2 枚以上のマスタ・ローカルユニットで FB を使用する方法」をご参照ください。</p> <p>⑮ 本 FB の処理が完了しない場合、i_Start_IO_No(マスタユニット装着 XY アドレス)が間違っていないか、または i_Station_No(CC-Link 局番)はネットワークの局番と一致しているか、または本 FB を実行する前に P+MEE-ECL2-V680D1_InitDataSet(イニシャルデータ設定)が完了しているか確認ください。</p>
FB 動作	パルス型(複数スキャン実行型)

項目	内容	
入出力信号の動き	<p><b>【正常終了の場合】</b> (トリガ, オート, FIFOトリガ)</p>  <p><b>【正常終了の場合】</b> (リピートオート, FIFOリピート)</p>  <p><b>【異常終了の場合】</b></p>  <p><b>【ユニットエラーの場合】</b></p> 	
関連マニュアル	<p>ECL2-V680D1 ユーザーズマニュアル(詳細編)</p> <p>CC-Link システムマスタ・ローカルユニットユーザーズマニュアル(詳細編)</p> <p>MELSEC-L CC-Link システムマスタ・ローカルユニットユーザーズマニュアル</p>	

## エラーコード

### ■エラーコード一覧

エラーコード	内容	処置方法
11(10進数)	i_Station_No(CC-Link 局番)の指定が範囲外です。	CC-Link 局番は 1～64 を指定してください。
14(10進数)	ECL2-V680D1 が ID 命令実行中です。	ID 命令実行が終了してから FB を起動してください。

## 使用ラベル

### ■入力ラベル

名称	変数名	データ型	有効範囲	説明
実行命令	FB_EN	ビット	—	ON:FB を起動する。 OFF:FB を起動しない。
マスタユニット装着 XY アドレス	i_Start_IO_No	ワード	対象の CPU ユニットの 入出力点数範囲によります。 詳細範囲は、対象 CPU のユーザーズ マニュアルを参照し てください。	対象の CC-Link システムマス タ・ローカルユニットが装着さ れている先頭 XY アドレスを 16 進数で指定します。(例えば X10 の場合、H10 を入力してく ださい)
CC-Link 局番	i_Station_No	ワード	1～64(10進数)	接続する ECL2-V680D1 の局 番を入力します。
先頭アドレス指定	i_Address_No	ワード	0000～FFFF (16進数)	ID タグヘフィルを行う先頭アド レスを指定します。
処理点数指定	i_Fill_Byte	ワード	0001～0800, 0 (16進数) 対象 ID タグのメモ リ容量によります。 詳細範囲は、RFID インタフェースユニ ットユーザーズマニ ュアル(詳細編)を 参照してください。	ID タグヘフィルを行う処理パイ ト数を指定します。 0:ID タグの全データをフィルし ます。



名称	変数名	データ型	有効範囲	説明
フィルデータ	i_Fill_Data	ワード	0000~FFFF (16進数)	フィルするデータを指定してください。 フィルは、i_Fill_Byte(処理点数指定)で指定したバイト数のデータを書込みます。
結果受信	i_Reception	ビット	—	複数の ID タグへフィル処理を行う命令を実行した際、次の結果を受信するためにパルスを入力します。 ON: 次の ID タグの検出を開始します。

#### ■出カラベル

名称	変数名	データ型	初期値	説明
実行状態	FB_ENO	ビット	OFF	ON: FB 実行中。 OFF: FB 未実行。
完了フラグ	FB_OK	ビット	OFF	ON: FB 正常完了。 OFF: FB 未完了。
異常完了フラグ	FB_ERROR	ビット	OFF	ON: FB 異常完了。 OFF: FB 未完了。
エラーコード	ERROR_ID	ワード	0	FB 内で発生したエラーコードを格納します。
ユニットエラー	o_UNIT_ERROR	ビット	OFF	ON: RFID インタフェースユニットでエラー発生。 OFF: 正常。
ユニットエラーコード	o_UNIT_ERR_CODE	ワード	0	RFID インタフェースユニットで発生したエラー詳細を格納します。
ID 交信完了	o_ID_Com_End	ビット	OFF	アンテナ未接続などの要因で RFID インタフェースユニット側が交信を打ち切る際、i_Reception (結果受信)ON 後に ON します。  

## FB のバージョンアップ履歴

バージョン	日付	内容
1.00A	2014/1/31	新規作成

## お願い

本章はファンクションブロックの機能について記載しております。  
ユニットやシーケンサ CPU の使用上の制限事項、組み合わせによる制限事項などについては記載しておりません。  
ご使用にあたりましては、必ず対象製品のユーザーズマニュアルをお読みいただきますようお願い申し上げます。

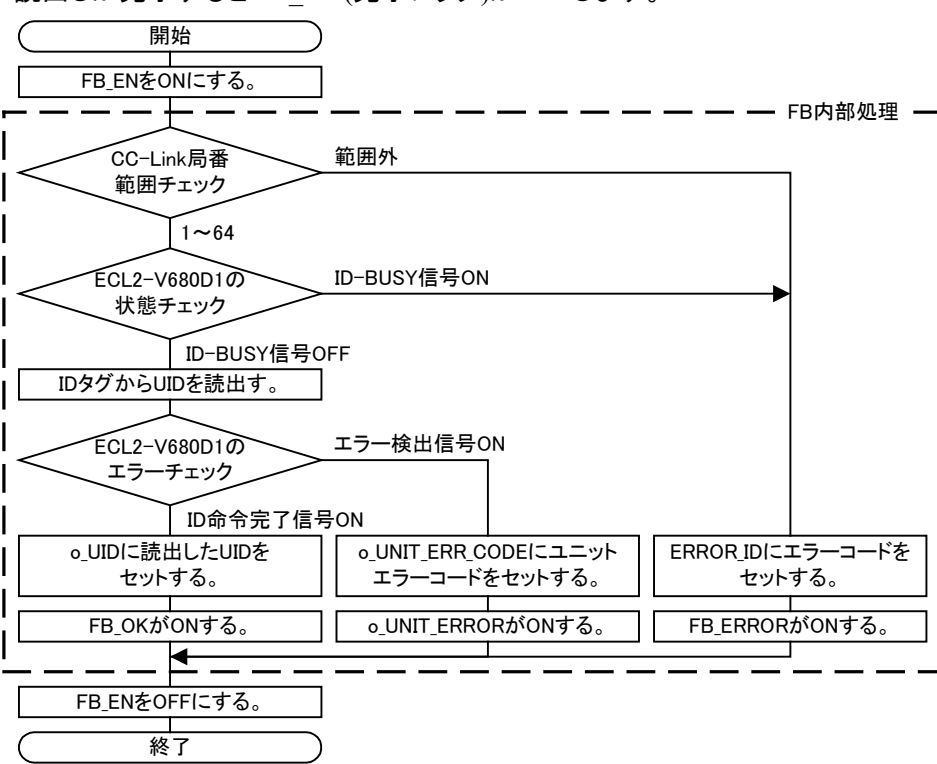
## 2.5 P+MEE-ECL2-V680D1\_UIDRead (ID タグの UID リード)

### 名称

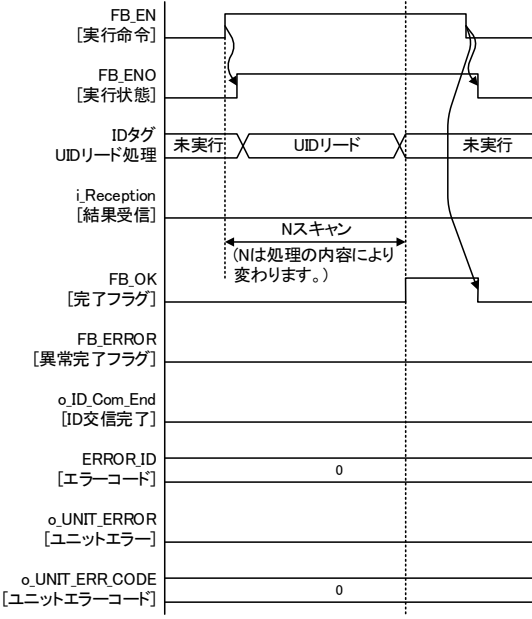
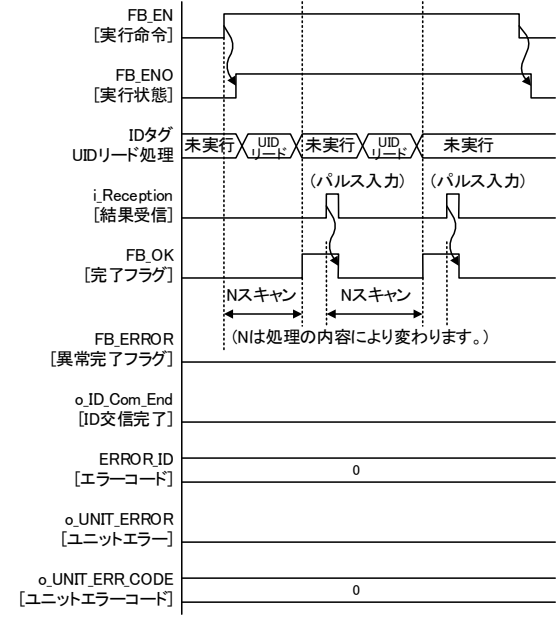
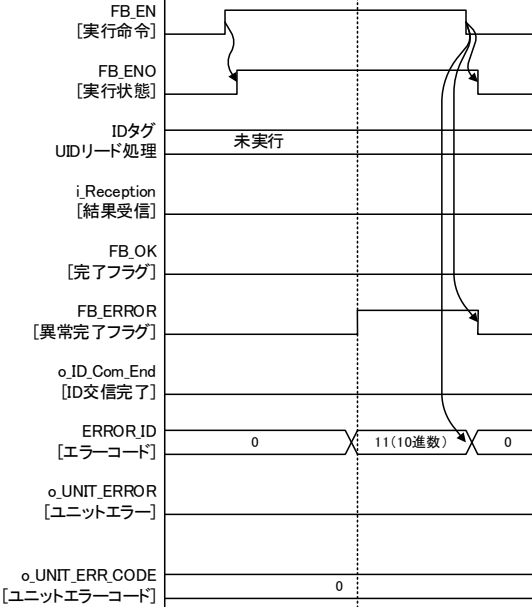
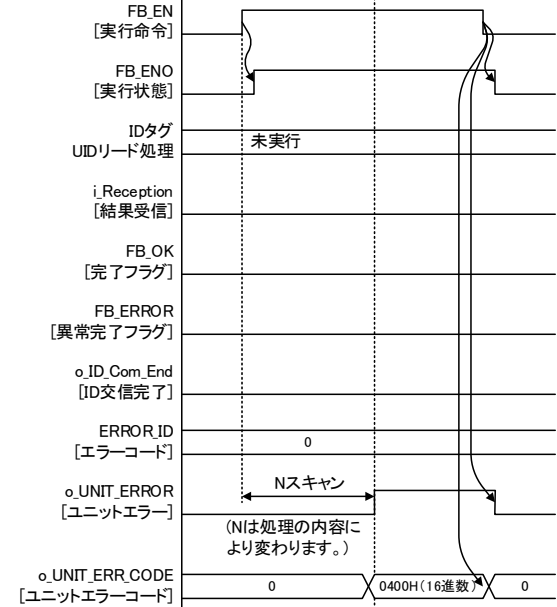
P+MEE-ECL2-V680D1\_UIDRead

### 機能内容

項目	内容																																					
機能概要	ID タグの UID(個別識別番号)を読み出します。																																					
シンボル	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="4">P+MEE-ECL2-V680D1_UIDRead</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: right;">実行命令</td> <td style="border-left: 1px solid black;">B:FB_EN</td> <td style="border-right: 1px solid black;">FB_ENO:B</td> <td>実行状態</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">マスタユニット装着 XYアドレス</td> <td style="border-left: 1px solid black;">W:i_Start_IO_No</td> <td style="border-right: 1px solid black;">FB_OK:B</td> <td>完了フラグ</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">CC-Link局番</td> <td style="border-left: 1px solid black;">W:i_Station_No</td> <td style="border-right: 1px solid black;">FB_ERROR:B</td> <td>異常完了フラグ</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">結果受信</td> <td style="border-left: 1px solid black;">B:i_Reception</td> <td style="border-right: 1px solid black;">ERROR_ID:W</td> <td>エラーコード</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="border-right: 1px solid black;">o_UNIT_ERROR:B</td> <td>ユニットエラー</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="border-right: 1px solid black;">o_UNIT_ERR_CODE:W</td> <td>ユニットエラーコード</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="border-right: 1px solid black;">o_UID:W</td> <td>IDタグUID</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="border-right: 1px solid black;">o_ID_Com_End:B</td> <td>ID送信完了</td> </tr> </tbody> </table>		P+MEE-ECL2-V680D1_UIDRead				実行命令	B:FB_EN	FB_ENO:B	実行状態	マスタユニット装着 XYアドレス	W:i_Start_IO_No	FB_OK:B	完了フラグ	CC-Link局番	W:i_Station_No	FB_ERROR:B	異常完了フラグ	結果受信	B:i_Reception	ERROR_ID:W	エラーコード			o_UNIT_ERROR:B	ユニットエラー			o_UNIT_ERR_CODE:W	ユニットエラーコード			o_UID:W	IDタグUID			o_ID_Com_End:B	ID送信完了
P+MEE-ECL2-V680D1_UIDRead																																						
実行命令	B:FB_EN	FB_ENO:B	実行状態																																			
マスタユニット装着 XYアドレス	W:i_Start_IO_No	FB_OK:B	完了フラグ																																			
CC-Link局番	W:i_Station_No	FB_ERROR:B	異常完了フラグ																																			
結果受信	B:i_Reception	ERROR_ID:W	エラーコード																																			
		o_UNIT_ERROR:B	ユニットエラー																																			
		o_UNIT_ERR_CODE:W	ユニットエラーコード																																			
		o_UID:W	IDタグUID																																			
		o_ID_Com_End:B	ID送信完了																																			
対象機器	対象ユニット	ECL2-V680D1																																				
	対象 CC-Link システム	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>シリーズ</th> <th>モデル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>MELSEC-Q シリーズ</td> <td>QJ61BT11N</td> </tr> <tr> <td>MELSEC-L シリーズ</td> <td>LJ61BT11 L26CPU-BT L26CPU-PBT</td> </tr> </tbody> </table>	シリーズ	モデル	MELSEC-Q シリーズ	QJ61BT11N	MELSEC-L シリーズ	LJ61BT11 L26CPU-BT L26CPU-PBT																														
	シリーズ	モデル																																				
MELSEC-Q シリーズ	QJ61BT11N																																					
MELSEC-L シリーズ	LJ61BT11 L26CPU-BT L26CPU-PBT																																					
対象 CPU	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>シリーズ</th> <th>モデル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">MELSEC-Q シリーズ※1</td> <td>ベーシックモデル QCPU※2</td> </tr> <tr> <td>ハイパフォーマンスモデル QCPU※3</td> </tr> <tr> <td>ユニバーサルモデル QCPU</td> </tr> <tr> <td>MELSEC-L シリーズ</td> <td>LCPU</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1QCPU-A(A モード)使用不可            ※2 シリアル No. の上 5 桁が“04122”以降            ※3 シリアル No. の上 5 桁が“04012”以降</p>	シリーズ	モデル	MELSEC-Q シリーズ※1	ベーシックモデル QCPU※2	ハイパフォーマンスモデル QCPU※3	ユニバーサルモデル QCPU	MELSEC-L シリーズ	LCPU																													
シリーズ	モデル																																					
MELSEC-Q シリーズ※1	ベーシックモデル QCPU※2																																					
	ハイパフォーマンスモデル QCPU※3																																					
	ユニバーサルモデル QCPU																																					
MELSEC-L シリーズ	LCPU																																					

項目	内容							
対象機器	GX Works2	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="671 197 1002 246">シリーズ</th> <th data-bbox="1002 197 1511 246">モデル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="671 246 1002 295">MELSEC-Q シリーズ</td> <td data-bbox="1002 246 1511 295">Version1.11M 以降</td> </tr> <tr> <td data-bbox="671 295 1002 344">MELSEC-L シリーズ</td> <td data-bbox="1002 295 1511 344">Version1.20W 以降</td> </tr> </tbody> </table>	シリーズ	モデル	MELSEC-Q シリーズ	Version1.11M 以降	MELSEC-L シリーズ	Version1.20W 以降
シリーズ	モデル							
MELSEC-Q シリーズ	Version1.11M 以降							
MELSEC-L シリーズ	Version1.20W 以降							
記述言語	ラダー							
ステップ数	1193steps (MELSEC-Q シリーズ ハイパフォーマンスモデルの場合) ※ プログラムに組み込んだ FB のステップ数は、使用する CPU モデルや、入出力定義によって異なります。							
機能説明	<p>①FB_EN(実行命令)のONで、IDタグのUIDを読み出します。読み出したUIDはo_UID(IDタグUID)で指定した先頭デバイスから格納されます。 読み出しが完了するとFB_OK(完了フラグ)がONします。</p>  <p>②P+MEE-ECL2-V680D1_InitDataSet(イニシャルデータ設定)で指定した通信指定が2(リポートオート)、4(FIFO リポート)の時は、i_Reception(結果受信)のONで、次のIDタグの検出を開始します。</p> <p>③エラーの場合は、FB_ERROR(異常完了フラグ)がONし、FBの処理を中断します。また、ERROR_IDにはエラーコードをセットします。 エラーコードの詳細は、エラーコード一覧を参照してください。</p> <p>④ECL2-V680D1がエラーとなった場合は、o_UNIT_ERROR(ユニットエラー)がONし、処理を中断します。また、o_UNIT_ERR_CODE(ユニットエラーコード)にはエラーコードをセットします。 エラーコードの詳細は、ECL2-V680D1 ユーザーズマニュアル(詳細編)を参照してください。</p> <p>⑤読み出し処理中にFB_EN(実行命令)をOFFした場合はFBの処理を中断します。o_UID(IDタグUID)には読み出したデータは格納されません。</p>							
FB コンパイル方式	マクロ型							

項目	内容
制約事項・注意事項等	<p>① 本 FB は、エラーを復帰する処理は含んでいません。エラー復帰処理については、お客様のシステムや要求動作に合わせて、別途作成してください。</p> <p>② CC-Link パラメータ設定のリフレッシュデバイスの設定を 1.4 項に従って行ってください。</p> <p>③ グローバルラベルの設定を 1.5 項の内容に従って行ってください。</p> <p>④ 割込みプログラム内で FB を使用することはできません。</p> <p>⑤ 本 FB を複数使用する場合、対象 CC-Link 局番が重複しないように注意してください。</p> <p>⑥ 1 回しか実行されないプログラム(例えば、サブルーチンプログラムや FOR~NEXT)で FB を使用すると、FB_EN(実行命令)の OFF 処理を実行することができず正常な動作ができなくなるため、FB_EN(実行命令)の OFF を実行できるプログラムで使用してください。</p> <p>⑦ 本 FB ではインデックスレジスタ Z5~Z9 を使用しています。割込みプログラムを使用する場合は、当インデックスレジスタを使用しないでください。</p> <p>⑧ ID タグの UID リードの発信指定、発信設定、処理指定およびオート系コマンド待ち時間設定は、本 FB を実行する前に P+MEE-ECL2-V680D1_InitDataSet(イニシャルデータ設定)で指定してください。</p> <p>⑨ o_UID(ID タグ UID)には、読出した UID を格納するエリアの先頭デバイスを必ず指定してください。省略はできません。</p> <p>⑩ FB_EN(実行命令)ON 中は、i_Start_IO_No(マスタユニット装着 XY アドレス)、i_Station_No(CC-Link 局番)の値を変更しないでください。</p> <p>⑪ P+MEE-ECL2-V680D1_InitDataSet(イニシャルデータ設定)で指定した発信指定が 0(トリガ)、1(オート)、3(FIFO トリガ)の時、i_Reception(結果受信)は無視されます。</p> <p>⑫ i_Reception(結果受信)にはパルスを入力してください。</p> <p>⑬ FB 内部でインデックス修飾を用いて Y 信号を操作しているため、本 FB を複数個使用した場合、コンパイル時に 2 重コイルワーニングが発生することがありますが、使用上特に問題はありません。</p> <p>⑭ CC-Link システム用 FB は 1 枚のマスタ・ローカルユニットしか制御できません。2 枚以上のマスタ・ローカルユニットを FB で制御する場合には項「付録 1 2 枚以上のマスタ・ローカルユニットで FB を使用する方法」をご参照ください。</p> <p>⑮ 本 FB の処理が完了しない場合、i_Start_IO_No(マスタユニット装着 XY アドレス)が間違っていないか、または i_Station_No(CC-Link 局番)はネットワークの局番と一致しているか、または本 FB を実行する前に P+MEE-ECL2-V680D1_InitDataSet(イニシャルデータ設定)が完了しているか確認ください。</p>
FB 動作	パルス型(複数スキャン実行型)

項目	内容	
入出力信号の動き	<p><b>【正常終了の場合】</b> (トリガ, オート, FIFOトリガ)</p>  <p><b>【正常終了の場合】</b> (リピートオート, FIFOリピート)</p>  <p><b>【異常終了の場合】</b></p>  <p><b>【ユニットエラーの場合】</b></p> 	
関連マニュアル	<p>ECL2-V680D1 ユーザーズマニュアル(詳細編)</p> <p>CC-Link システムマスタ・ローカルユニットユーザーズマニュアル(詳細編)</p> <p>MELSEC-L CC-Link システムマスタ・ローカルユニットユーザーズマニュアル</p>	

## エラーコード

### ■エラーコード一覧

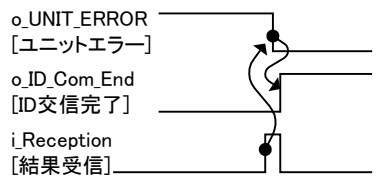
エラーコード	内容	処置方法
11(10進数)	i_Station_No(CC-Link 局番)の指定が範囲外です。	CC-Link 局番は 1～64 を指定してください。
14(10進数)	ECL2-V680D1 が ID 命令実行中です。	ID 命令実行が終了してから FB を起動してください。

## 使用ラベル

### ■入カラベル

名称	変数名	データ型	有効範囲	説明
実行命令	FB_EN	ビット	—	ON:FB を起動する。 OFF:FB を起動しない。
マスタユニット装着 XY アドレス	i_Start_IO_No	ワード	対象の CPU ユニットの入出力点数範囲によります。 詳細範囲は、対象 CPU のユーザズマニュアルを参照してください。	対象の CC-Link システムマスタ・ローカルユニットが装着されている先頭 XY アドレスを 16 進数で指定します。(例えば X10 の場合、H10 を入力してください)
CC-Link 局番	i_Station_No	ワード	1～64(10進数)	接続する ECL2-V680D1 の局番を入力します。
結果受信	i_Reception	ビット	—	複数の ID タグから UID の読み出し処理を行う命令を実行した際、次の結果を受信するためにパルスを入力します。 ON:次の ID タグの検出を開始します。

## ■出カラベル

名称	変数名	データ型	初期値	説明
実行状態	FB_ENO	ビット	OFF	ON:FB 実行中。 OFF:FB 未実行。
完了フラグ	FB_OK	ビット	OFF	ON:FB 正常完了。 OFF:FB 未完了。
異常完了フラグ	FB_ERROR	ビット	OFF	ON:FB 異常完了。 OFF:FB 未完了。
エラーコード	ERROR_ID	ワード	0	FB 内で発生したエラーコードを格納します。
ユニットエラー	o_UNIT_ERROR	ビット	OFF	ON:RFID インタフェースユニットでエラー発生。 OFF:正常。
ユニットエラーコード	o_UNIT_ERR_CODE	ワード	0	RFID インタフェースユニットで発生したエラー詳細を格納します。
ID タグ UID	o_UID	ワード	0	ID タグの UID を格納します。 UID は 4 ワードに格納されます。 UID を格納するエリアの先頭デバイスを必ず指定してください。
ID 交信完了	o_ID_Com_End	ビット	OFF	アンテナ未接続などの要因で RFID インタフェースユニット側が交信を打ち切る際、i_Reception (結果受信)ON 後に ON します。  

## FB のバージョンアップ履歴

バージョン	日付	内容
1.00A	2014/1/31	新規作成

## お願い

本章はファンクションブロックの機能について記載しております。  
 ユニットやシーケンサ CPU の使用上の制限事項、組み合わせによる制限事項などについては記載しておりません。  
 ご使用にあたりましては、必ず対象製品のユーザーズマニュアルをお読みいただきますようお願い申し上げます。

RFID インタフェースユニット ECL2-V680D1  
 FB ライブラリ リファレンスマニュアル(MELSEC-Q シリーズ用)  
 50CM-D180173-C



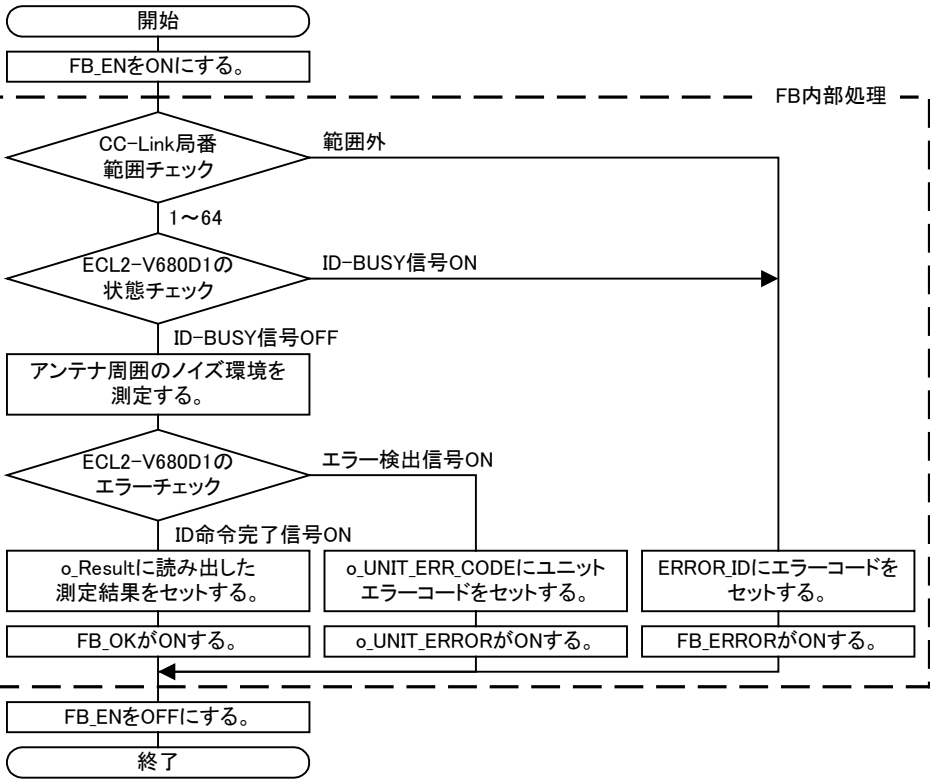
## 2.6 P+MEE-ECL2-V680D1\_MeasureNoise (ノイズ測定)

名称

P+MEE-ECL2-V680D1\_MeasureNoise

機能内容

項目	内容																									
機能概要	アンテナ周囲のノイズ環境を測定します。																									
シンボル	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="3">P+MEE-ECL2-V680D1_MeasureNoise</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 30%;">実行命令</td> <td style="width: 40%;">B:FB_EN</td> <td style="width: 30%;">FB_ENO:B 実行状態</td> </tr> <tr> <td>マスタユニット装着 XYアドレス</td> <td>W:i_Start_IO_No</td> <td>FB_OK:B 完了フラグ</td> </tr> <tr> <td>CC-Link局番</td> <td>W:i_Station_No</td> <td>FB_ERROR:B 異常完了フラグ</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>ERROR_ID:W エラーコード</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>o_UNIT_ERROR:B ユニットエラー</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>o_UNIT_ERR_CODE:W ユニットエラーコード</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>o_Result:W 測定結果</td> </tr> </tbody> </table>		P+MEE-ECL2-V680D1_MeasureNoise			実行命令	B:FB_EN	FB_ENO:B 実行状態	マスタユニット装着 XYアドレス	W:i_Start_IO_No	FB_OK:B 完了フラグ	CC-Link局番	W:i_Station_No	FB_ERROR:B 異常完了フラグ			ERROR_ID:W エラーコード			o_UNIT_ERROR:B ユニットエラー			o_UNIT_ERR_CODE:W ユニットエラーコード			o_Result:W 測定結果
P+MEE-ECL2-V680D1_MeasureNoise																										
実行命令	B:FB_EN	FB_ENO:B 実行状態																								
マスタユニット装着 XYアドレス	W:i_Start_IO_No	FB_OK:B 完了フラグ																								
CC-Link局番	W:i_Station_No	FB_ERROR:B 異常完了フラグ																								
		ERROR_ID:W エラーコード																								
		o_UNIT_ERROR:B ユニットエラー																								
		o_UNIT_ERR_CODE:W ユニットエラーコード																								
		o_Result:W 測定結果																								
対象機器	対象ユニット	ECL2-V680D1																								
	対象 CC-Link システム	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>シリーズ</th> <th>モデル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>MELSEC-Q シリーズ</td> <td>QJ61BT11N</td> </tr> <tr> <td>MELSEC-L シリーズ</td> <td>LJ61BT11</td> </tr> <tr> <td></td> <td>L26CPU-BT</td> </tr> <tr> <td></td> <td>L26CPU-PBT</td> </tr> </tbody> </table>	シリーズ	モデル	MELSEC-Q シリーズ	QJ61BT11N	MELSEC-L シリーズ	LJ61BT11		L26CPU-BT		L26CPU-PBT														
	シリーズ	モデル																								
MELSEC-Q シリーズ	QJ61BT11N																									
MELSEC-L シリーズ	LJ61BT11																									
	L26CPU-BT																									
	L26CPU-PBT																									
対象 CPU	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>シリーズ</th> <th>モデル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">MELSEC-Q シリーズ※1</td> <td>ベーシックモデル QCPU※2</td> </tr> <tr> <td>ハイパフォーマンスモデル QCPU※3</td> </tr> <tr> <td>ユニバーサルモデル QCPU</td> </tr> <tr> <td>MELSEC-L シリーズ</td> <td>LCPU</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 QCPU-A(A モード)使用不可            ※2 シリアル No. の上 5 桁が“04122”以降            ※3 シリアル No. の上 5 桁が“04012”以降</p>	シリーズ	モデル	MELSEC-Q シリーズ※1	ベーシックモデル QCPU※2	ハイパフォーマンスモデル QCPU※3	ユニバーサルモデル QCPU	MELSEC-L シリーズ	LCPU																	
シリーズ	モデル																									
MELSEC-Q シリーズ※1	ベーシックモデル QCPU※2																									
	ハイパフォーマンスモデル QCPU※3																									
	ユニバーサルモデル QCPU																									
MELSEC-L シリーズ	LCPU																									

項目	内容							
対象機器	GX Works2	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="671 197 999 248">シリーズ</th> <th data-bbox="999 197 1511 248">モデル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="671 248 999 300">MELSEC-Q シリーズ</td> <td data-bbox="999 248 1511 300">Version1.11M 以降</td> </tr> <tr> <td data-bbox="671 300 999 351">MELSEC-L シリーズ</td> <td data-bbox="999 300 1511 351">Version1.20W 以降</td> </tr> </tbody> </table>	シリーズ	モデル	MELSEC-Q シリーズ	Version1.11M 以降	MELSEC-L シリーズ	Version1.20W 以降
シリーズ	モデル							
MELSEC-Q シリーズ	Version1.11M 以降							
MELSEC-L シリーズ	Version1.20W 以降							
記述言語	ラダー							
ステップ数	940steps (MELSEC-Q シリーズ ハイパフォーマンスモデルの場合) ※ プログラムに組み込んだ FB のステップ数は、使用する CPU モデルや、入出力定義によって異なります。							
機能説明	<p>①FB_EN(実行命令)の ON で、アンテナ周囲のノイズ環境を測定します。測定結果は o_Result(測定結果)で指定した先頭デバイスから格納されます。 測定が完了すると FB_OK(完了フラグ)が ON します。</p>  <p>②エラーの場合は、FB_ERROR(異常完了フラグ)が ON し、FB の処理を中断します。また、ERROR_ID にはエラーコードをセットします。 エラーコードの詳細は、エラーコード一覧を参照してください。</p> <p>③ECL2-V680D1 がエラーとなった場合は、o_UNIT_ERROR(ユニットエラー)が ON し、処理を中断します。また、o_UNIT_ERR_CODE(ユニットエラーコード)にはエラーコードをセットします。 エラーコードの詳細は、ECL2-V680D1 ユーザーズマニュアル(詳細編)を参照してください。</p> <p>④ノイズ測定中に FB_EN(実行命令)を OFF した場合は FB の処理を中断します。 o_Result(測定結果)にはデータは格納されません。</p>							
FB コンパイル方式	マクロ型							

項目	内容
制約事項・注意事項等	<p>① 本 FB は、エラーを復帰する処理は含んでいません。エラー復帰処理については、お客様のシステムや要求動作に合わせて、別途作成してください。</p> <p>② CC-Link パラメータ設定のリフレッシュデバイスの設定を 1.4 項に従って行ってください。</p> <p>③ グローバルラベルの設定を 1.5 項の内容に従って行ってください。</p> <p>④ 割込みプログラム内で FB を使用することはできません。</p> <p>⑤ 本 FB を複数使用する場合、対象 CC-Link 局番が重複しないように注意してください。</p> <p>⑥ 1 回しか実行されないプログラム(例えば、サブルーチンプログラムや FOR~NEXT)で FB を使用すると、FB_EN(実行命令)の OFF 処理を実行することができず正常な動作ができなくなるため、FB_EN(実行命令)の OFF を実行できるプログラムで使用してください。</p> <p>⑦ 本 FB ではインデックスレジスタ Z5~Z9 を使用しています。割込みプログラムを使用する場合は、当インデックスレジスタを使用しないでください。</p> <p>⑧ o_Result(測定結果)には、ノイズ測定結果を格納するエリアの先頭デバイスを必ず指定してください。省略はできません。</p> <p>⑨ FB_EN(実行命令)ON 中は、i_Start_IO_No(マスタユニット装着 XY アドレス)、i_Station_No(CC-Link 局番)の値を変更しないでください。</p> <p>⑩ FB 内部でインデックス修飾を用いて Y 信号を操作しているため、本 FB を複数個使用した場合、コンパイル時に 2 重コイルワーニングが発生することがありますが、使用上特に問題はありません。</p> <p>⑪ CC-Link システム用 FB は 1 枚のマスタ・ローカルユニットしか制御できません。2 枚以上のマスタ・ローカルユニットを FB で制御する場合には項「付録 1 2 枚以上のマスタ・ローカルユニットで FB を使用する方法」をご参照ください。</p> <p>⑫ 本 FB の処理が完了しない場合、i_Start_IO_No(マスタユニット装着 XY アドレス)が間違っていないか、または i_Station_No(CC-Link 局番)はネットワークの局番と一致しているか、または本 FB を実行する前に P+MEE-ECL2-V680D1_InitDataSet(イニシャルデータ設定)が完了しているか確認ください。</p>
FB 動作	パルス型(複数スキャン実行型)

項目	内容	
入出力信号の動き	<p><b>【正常終了の場合】</b></p>	<p><b>【異常終了の場合】</b></p>
	<p><b>【ユニットエラーの場合】</b></p>	
	関連マニュアル	ECL2-V680D1 ユーザーズマニュアル(詳細編) CC-Link システムマスタ・ローカルユニットユーザーズマニュアル(詳細編) MELSEC-L CC-Link システムマスタ・ローカルユニットユーザーズマニュアル

## エラーコード

### ■エラーコード一覧

エラーコード	内容	処置方法
11(10進数)	i_Station_No(CC-Link 局番)の指定が範囲外です。	CC-Link 局番は 1~64 を指定してください。
14(10進数)	ECL2-V680D1 が ID 命令実行中です。	ID 命令実行が終了してから FB を起動してください。

## 使用ラベル

### ■入カラベル

名称	変数名	データ型	有効範囲	説明
実行命令	FB_EN	ビット	—	ON:FB を起動する。 OFF:FB を起動しない。
マスタユニット装着 XY アドレス	i_Start_IO_No	ワード	対象の CPU ユニットの入出力点数範囲によります。 詳細範囲は、対象 CPU のユーザーズマニュアルを参照してください。	対象の CC-Link システムマスタ・ローカルユニットが装着されている先頭 XY アドレスを 16 進数で指定します。(例えば X10 の場合、H10 を入力してください)
CC-Link 局番	i_Station_No	ワード	1~64(10 進数)	接続する ECL2-V680D1 の局番を入力します。

### ■出カラベル

名称	変数名	データ型	初期値	説明
実行状態	FB_ENO	ビット	OFF	ON:FB 実行中。 OFF:FB 未実行。
完了フラグ	FB_OK	ビット	OFF	ON:FB 正常完了。 OFF:FB 未完了。
異常完了フラグ	FB_ERROR	ビット	OFF	ON:FB 異常完了。 OFF:FB 未完了。
エラーコード	ERROR_ID	ワード	0	FB 内で発生したエラーコードを格納します。
ユニットエラー	o_UNIT_ERROR	ビット	OFF	ON:RFID インタフェースユニットでエラー発生。 OFF:正常。
ユニットエラーコード	o_UNIT_ERR_CODE	ワード	0	RFID インタフェースユニットで発生したエラー詳細を格納します。

名称	変数名	データ型	初期値	説明
測定結果	o_Result	ワード	0	ノイズ測定の測定結果を3ワードに格納します。 格納エリア +0 平均値 0~99(10進数) +1 最大値 0~99(10進数) +2 最小値 0~99(10進数) 測定結果を格納するエリアの先頭デバイスを必ず指定してください。

### FB のバージョンアップ履歴

バージョン	日付	内容
1.00A	2014/1/31	新規作成

### お願い

本章はファンクションブロックの機能について記載しております。  
 ユニットやシーケンサ CPU の使用上の制限事項、組み合わせによる制限事項などについては記載しておりません。  
 ご使用にあたりましては、必ず対象製品のユーザーズマニュアルをお読みいただきますようお願い申し上げます。

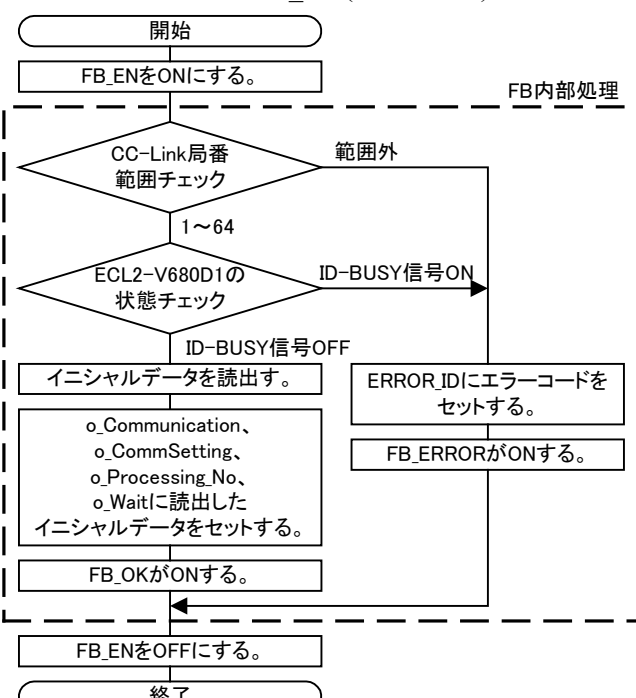
## 2.7 P+MEE-ECL2-V680D1\_InitDataRead (イニシャルデータリード)

名称

P+MEE-ECL2-V680D1\_InitDataRead

機能内容

項目	内容																												
機能概要	イニシャルデータを読み出します。																												
シンボル	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">P+MEE-ECL2-V680D1_InitDataRead</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実行命令</td> <td>B:FB_EN</td> <td>FB_ENO:B 実行状態</td> </tr> <tr> <td>マスタユニット装着 XYアドレス</td> <td>W:i_Start_IO_No</td> <td>FB_OK:B 完了フラグ</td> </tr> <tr> <td>CC-Link局番</td> <td>W:i_Station_No</td> <td>FB_ERROR:B 異常完了フラグ</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>ERROR_ID:W エラーコード</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>o_Communication:W 通信指定</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>o_CommSetting:W 通信設定</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>o_Processing_No:W 処理指定</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>o_Wait:W オート系コメント待ち時間 設定</td> </tr> </tbody> </table>		P+MEE-ECL2-V680D1_InitDataRead			実行命令	B:FB_EN	FB_ENO:B 実行状態	マスタユニット装着 XYアドレス	W:i_Start_IO_No	FB_OK:B 完了フラグ	CC-Link局番	W:i_Station_No	FB_ERROR:B 異常完了フラグ			ERROR_ID:W エラーコード			o_Communication:W 通信指定			o_CommSetting:W 通信設定			o_Processing_No:W 処理指定			o_Wait:W オート系コメント待ち時間 設定
P+MEE-ECL2-V680D1_InitDataRead																													
実行命令	B:FB_EN	FB_ENO:B 実行状態																											
マスタユニット装着 XYアドレス	W:i_Start_IO_No	FB_OK:B 完了フラグ																											
CC-Link局番	W:i_Station_No	FB_ERROR:B 異常完了フラグ																											
		ERROR_ID:W エラーコード																											
		o_Communication:W 通信指定																											
		o_CommSetting:W 通信設定																											
		o_Processing_No:W 処理指定																											
		o_Wait:W オート系コメント待ち時間 設定																											
対象機器	対象ユニット	ECL2-V680D1																											
	対象 CC-Link システム	<table border="1"> <thead> <tr> <th>シリーズ</th> <th>モデル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>MELSEC-Q シリーズ</td> <td>QJ61BT11N</td> </tr> <tr> <td>MELSEC-L シリーズ</td> <td>LJ61BT11</td> </tr> <tr> <td></td> <td>L26CPU-BT</td> </tr> <tr> <td></td> <td>L26CPU-PBT</td> </tr> </tbody> </table>	シリーズ	モデル	MELSEC-Q シリーズ	QJ61BT11N	MELSEC-L シリーズ	LJ61BT11		L26CPU-BT		L26CPU-PBT																	
	シリーズ	モデル																											
MELSEC-Q シリーズ	QJ61BT11N																												
MELSEC-L シリーズ	LJ61BT11																												
	L26CPU-BT																												
	L26CPU-PBT																												
対象 CPU	<table border="1"> <thead> <tr> <th>シリーズ</th> <th>モデル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">MELSEC-Q シリーズ※1</td> <td>ベーシックモデル QCPU※2</td> </tr> <tr> <td>ハイパフォーマンスモデル QCPU※3</td> </tr> <tr> <td>ユニバーサルモデル QCPU</td> </tr> <tr> <td>MELSEC-L シリーズ</td> <td>LCPU</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1QCPU-A(A モード)使用不可          ※2 シリアル No. の上 5 桁が“04122”以降          ※3 シリアル No. の上 5 桁が“04012”以降</p>	シリーズ	モデル	MELSEC-Q シリーズ※1	ベーシックモデル QCPU※2	ハイパフォーマンスモデル QCPU※3	ユニバーサルモデル QCPU	MELSEC-L シリーズ	LCPU																				
シリーズ	モデル																												
MELSEC-Q シリーズ※1	ベーシックモデル QCPU※2																												
	ハイパフォーマンスモデル QCPU※3																												
	ユニバーサルモデル QCPU																												
MELSEC-L シリーズ	LCPU																												

項目	内容							
対象機器	GX Works2	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="670 190 999 248">シリーズ</th> <th data-bbox="999 190 1514 248">モデル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="670 248 999 297">MELSEC-Q シリーズ</td> <td data-bbox="999 248 1514 297">Version1.11M 以降</td> </tr> <tr> <td data-bbox="670 297 999 347">MELSEC-L シリーズ</td> <td data-bbox="999 297 1514 347">Version1.20W 以降</td> </tr> </tbody> </table>	シリーズ	モデル	MELSEC-Q シリーズ	Version1.11M 以降	MELSEC-L シリーズ	Version1.20W 以降
シリーズ	モデル							
MELSEC-Q シリーズ	Version1.11M 以降							
MELSEC-L シリーズ	Version1.20W 以降							
記述言語	ラダー							
ステップ数	896steps (MELSEC-Q シリーズ ハイパフォーマンスモデルの場合) ※ プログラムに組み込んだ FB のステップ数は、使用する CPU モデルや、入出力定義によって異なります。							
機能説明	<p>①FB_EN(実行命令)の ON で、イニシャルデータを読みします。読出したデータは o_Communication(交信指定)、o_CommSetting(交信設定)、o_Processing_No(処理指定)、o_Wait(オート系コマンド待ち時間設定)にセットします。読出しが完了するとFB_OK(完了フラグ)が ON します。</p>  <p>②エラーの場合は、FB_ERROR(異常完了フラグ)が ON し、FB の処理を中断します。また、ERROR_ID にはエラーコードをセットします。 エラーコードの詳細は、エラーコード一覧を参照してください。</p>							
FB コンパイル方式	マクロ型							



項目	内容
制約事項・注意事項等	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 本 FB は、エラーを復帰する処理は含んでいません。エラー復帰処理については、お客様のシステムや要求動作に合わせて、別途作成してください。</li> <li>② CC-Link パラメータ設定のリフレッシュデバイスの設定を 1.4 項に従って行ってください。</li> <li>③ グローバルラベルの設定を 1.5 項の内容に従って行ってください。</li> <li>④ 割り込みプログラム内で FB を使用することはできません。</li> <li>⑤ 本 FB を複数使用する場合、対象 CC-Link 局番が重複しないように注意してください。</li> <li>⑥ 1 回しか実行されないプログラム(例えば、サブルーチンプログラムや FOR~NEXT)で FB を使用すると、FB_EN(実行命令)の OFF 処理を実行することができず正常な動作ができなくなるため、FB_EN(実行命令)の OFF を実行できるプログラムで使用してください。</li> <li>⑦ 本 FB ではインデックスレジスタ Z5~Z9 を使用しています。割り込みプログラムを使用する場合は、当インデックスレジスタを使用しないでください。</li> <li>⑧ FB_EN(実行命令)ON 中は、i_Start_IO_No(マスタユニット装着 XY アドレス)、i_Station_No(CC-Link 局番)の値を変更しないでください。</li> <li>⑨ FB 内部でインデックス修飾を用いて Y 信号を操作しているため、本 FB を複数個使用した場合、コンパイル時に 2 重コイルワーニングが発生することがありますが、使用上特に問題はありません。</li> <li>⑩ CC-Link システム用 FB は 1 枚のマスタ・ローカルユニットしか制御できません。2 枚以上のマスタ・ローカルユニットを FB で制御する場合には項「付録 1 2 枚以上のマスタ・ローカルユニットで FB を使用する方法」をご参照ください。</li> <li>⑪ 本 FB の処理が完了しない場合、i_Start_IO_No(マスタユニット装着 XY アドレス)が間違っていないか、または i_Station_No(CC-Link 局番)はネットワークの局番と一致しているか、または本 FB を実行する前に P+MEE-ECL2-V680D1_InitDataSet(イニシャルデータ設定)が完了しているか確認ください。</li> </ol>
FB 動作	パルス型(複数スキャン実行型)
入出力信号の動き	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> <p><b>【正常終了の場合】</b></p> </div> <div style="width: 45%;"> <p><b>【異常終了の場合】</b></p> </div> </div>
関連マニュアル	ECL2-V680D1 ユーザーズマニュアル(詳細編) CC-Link システムマスタ・ローカルユニットユーザーズマニュアル(詳細編) MELSEC-L CC-Link システムマスタ・ローカルユニットユーザーズマニュアル

## エラーコード

### ■エラーコード一覧

エラーコード	内容	処置方法
11(10進数)	i_Station_No(CC-Link 局番)の指定が範囲外です。	CC-Link 局番は 1～64 を指定してください。
14(10進数)	ECL2-V680D1 が ID 命令実行中です。	ID 命令実行が終了してから FB を起動してください。

## 使用ラベル

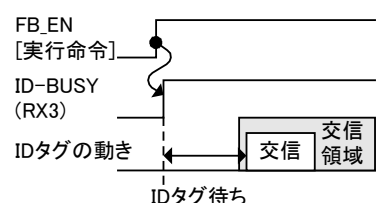
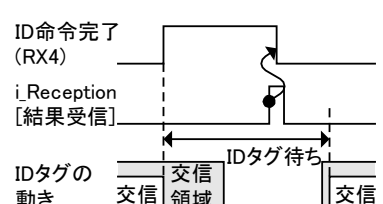
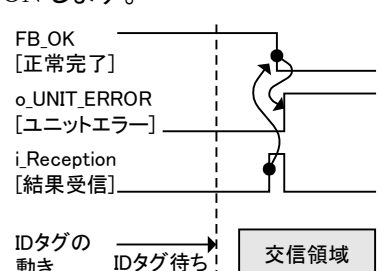
### ■入カラベル

名称	変数名	データ型	有効範囲	説明
実行命令	FB_EN	ビット	—	ON:FB を起動する。 OFF:FB を起動しない。
マスタユニット装着 XY アドレス	i_Start_IO_No	ワード	対象の CPU ユニットの入出力点数範囲によります。詳細範囲は、対象 CPU のユーザーマニュアルを参照してください。	対象の CC-Link システムマスター・ローカルユニットが装着されている先頭 XY アドレスを 16 進数で指定します。(例えば X10 の場合、H10 を入力してください)
CC-Link 局番	i_Station_No	ワード	1～64(10進数)	接続する ECL2-V680D1 の局番を入力します。

### ■出カラベル

名称	変数名	データ型	初期値	説明
実行状態	FB_ENO	ビット	OFF	ON:FB 実行中。 OFF:FB 未実行。
完了フラグ	FB_OK	ビット	OFF	ON:FB 正常完了。 OFF:FB 未完了。
異常完了フラグ	FB_ERROR	ビット	OFF	ON:FB 異常完了。 OFF:FB 未完了。
エラーコード	ERROR_ID	ワード	0	FB 内で発生したエラーコードを格納します。

名称	変数名	データ型	初期値	説明										
交信指定	o_Communication	ワード	0	ID タグに対する交信方法が格納されます。 0:トリガ 1:オート 2:リピートオート 3:FIFOトリガ 4:FIFOリピート										
交信設定	o_CommSetting	ワード	0	ID タグに対するの交信設定が格納されます。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>ビット</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>ライトベリファイ設定 0:実行する 1:実行しない</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>ID タグ交信速度設定 0:標準モード 1:高速モード</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ライトプロテクト設定 0:有効 1:無効</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>リード/ライトデータコード設定 0:ASCII/HEX 変換なし 1:ASCII/HEX 変換あり</td> </tr> </tbody> </table> ビット 4~15 は 0。	ビット	内容	0	ライトベリファイ設定 0:実行する 1:実行しない	1	ID タグ交信速度設定 0:標準モード 1:高速モード	2	ライトプロテクト設定 0:有効 1:無効	3	リード/ライトデータコード設定 0:ASCII/HEX 変換なし 1:ASCII/HEX 変換あり
ビット	内容													
0	ライトベリファイ設定 0:実行する 1:実行しない													
1	ID タグ交信速度設定 0:標準モード 1:高速モード													
2	ライトプロテクト設定 0:有効 1:無効													
3	リード/ライトデータコード設定 0:ASCII/HEX 変換なし 1:ASCII/HEX 変換あり													
処理指定	o_Processing_No	ワード	0	ID タグに対するコマンドのデータ処理方法が格納されます。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>コマンド</th> <th>処理指定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リード</td> <td rowspan="3">データ格納順 0:上位→下位 1:下位→上位</td> </tr> <tr> <td>ライト</td> </tr> <tr> <td>データフィル</td> </tr> </tbody> </table> 詳細は、各コマンドの機能説明を参照してください。 上記コマンド以外は、処理指定を使用しません。	コマンド	処理指定	リード	データ格納順 0:上位→下位 1:下位→上位	ライト	データフィル				
コマンド	処理指定													
リード	データ格納順 0:上位→下位 1:下位→上位													
ライト														
データフィル														

名称	変数名	データ型	初期値	説明
オート系コマンド 待ち時間設定	o_Wait	ワード	0	<p>交信指定がオート系コマンド(オート、リピートオート、FIFO リピート)の場合の、ID タグの検出待ち時間が0.1 秒単位で格納されます。 (例えば 30 秒の場合、K300 が格納されます。)</p> <p>ID タグからの応答があるまで検出待ちの場合は 0 が格納されます。 各 FB でコマンドを実行する時の待ち時間を下図に示します。</p> <p>【オート、リピートオート、FIFO リピートの場合】</p>  <p>【リピートオート、FIFO リピートの場合】</p>  <p>i_Reception(結果受信)ON 前に設定した待ち時間が経過した時は、i_Reception(結果受信)ON 後に o_UNIT_ERROR(ユニットエラー)が ON します。</p> 

#### FB のバージョンアップ履歴

バージョン	日付	内容
1.00A	2014/1/31	新規作成

## お願い

本章はファンクションブロックの機能について記載しております。  
ユニットやシーケンサ CPU の使用上の制限事項、組み合わせによる制限事項などについては記載しておりません。  
ご使用にあたりましては、必ず対象製品のユーザーズマニュアルをお読みいただきますようお願い申し上げます。

## 2.8 P+MEE-ECL2-V680D1\_StatusRead (ユニット状態読出し)

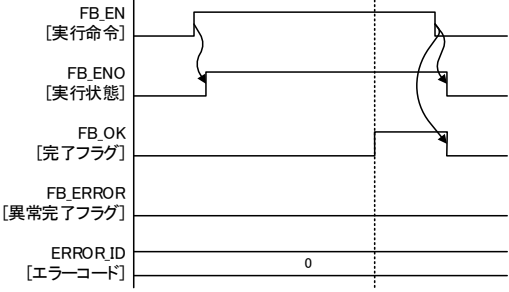
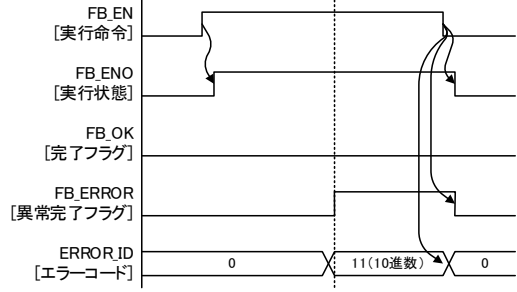
### 名称

P+MEE-ECL2-V680D1\_StatusRead

### 機能内容

項目	内容																			
機能概要	ユニット状態を読み出します。																			
シンボル	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="3">P+MEE-ECL2-V680D1_StatusRead</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: right;">実行命令</td> <td>B:FB_EN</td> <td>FB_ENO:B 実行状態</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">マスタユニット装着 XYアドレス</td> <td>W:i_Start_IO_No</td> <td>FB_OK:B 完了フラグ</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">CC-Link局番</td> <td>W:i_Station_No</td> <td>FB_ERROR:B 異常完了フラグ</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>ERROR_ID:W エラーコード</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>o_Unit_State:W ユニット状態</td> </tr> </tbody> </table>		P+MEE-ECL2-V680D1_StatusRead			実行命令	B:FB_EN	FB_ENO:B 実行状態	マスタユニット装着 XYアドレス	W:i_Start_IO_No	FB_OK:B 完了フラグ	CC-Link局番	W:i_Station_No	FB_ERROR:B 異常完了フラグ			ERROR_ID:W エラーコード			o_Unit_State:W ユニット状態
P+MEE-ECL2-V680D1_StatusRead																				
実行命令	B:FB_EN	FB_ENO:B 実行状態																		
マスタユニット装着 XYアドレス	W:i_Start_IO_No	FB_OK:B 完了フラグ																		
CC-Link局番	W:i_Station_No	FB_ERROR:B 異常完了フラグ																		
		ERROR_ID:W エラーコード																		
		o_Unit_State:W ユニット状態																		
対象機器	対象ユニット	ECL2-V680D1																		
	対象 CC-Link システム	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>シリーズ</th> <th>モデル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>MELSEC-Q シリーズ</td> <td>QJ61BT11N</td> </tr> <tr> <td>MELSEC-L シリーズ</td> <td>LJ61BT11 L26CPU-BT L26CPU-PBT</td> </tr> </tbody> </table>	シリーズ	モデル	MELSEC-Q シリーズ	QJ61BT11N	MELSEC-L シリーズ	LJ61BT11 L26CPU-BT L26CPU-PBT												
	シリーズ	モデル																		
	MELSEC-Q シリーズ	QJ61BT11N																		
MELSEC-L シリーズ	LJ61BT11 L26CPU-BT L26CPU-PBT																			
対象 CPU	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>シリーズ</th> <th>モデル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">MELSEC-Q シリーズ※1</td> <td>ベーシックモデル QCPU※2</td> </tr> <tr> <td>ハイパフォーマンスモデル QCPU※3</td> </tr> <tr> <td>ユニバーサルモデル QCPU</td> </tr> <tr> <td>MELSEC-L シリーズ</td> <td>LCPU</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1QCPU-A(A モード)使用不可            ※2 シリアル No. の上 5 桁が“04122”以降            ※3 シリアル No. の上 5 桁が“04012”以降</p>	シリーズ	モデル	MELSEC-Q シリーズ※1	ベーシックモデル QCPU※2	ハイパフォーマンスモデル QCPU※3	ユニバーサルモデル QCPU	MELSEC-L シリーズ	LCPU											
シリーズ	モデル																			
MELSEC-Q シリーズ※1	ベーシックモデル QCPU※2																			
	ハイパフォーマンスモデル QCPU※3																			
	ユニバーサルモデル QCPU																			
MELSEC-L シリーズ	LCPU																			
GX Works2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>シリーズ</th> <th>モデル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>MELSEC-Q シリーズ</td> <td>Version1.11M 以降</td> </tr> <tr> <td>MELSEC-L シリーズ</td> <td>Version1.20W 以降</td> </tr> </tbody> </table>	シリーズ	モデル	MELSEC-Q シリーズ	Version1.11M 以降	MELSEC-L シリーズ	Version1.20W 以降													
シリーズ	モデル																			
MELSEC-Q シリーズ	Version1.11M 以降																			
MELSEC-L シリーズ	Version1.20W 以降																			
記述言語	ラダー																			

項目	内容
ステップ数	742steps(MELSEC-Q シリーズ ハイパフォーマンスモデルの場合) ※ プログラムに組み込んだ FB のステップ数は、使用する CPU モデルや、入出力定義によって異なります。
機能説明	<p>①FB_EN(実行命令)の ON で、ユニット状態を読出します。読出したユニット状態は o_Unit_State(ユニット状態)にセットします。            読出しが完了するとFB_OK(完了フラグ)が ON します。</p> <div data-bbox="383 459 1029 963" style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <pre>           graph TD             Start([開始]) --&gt; FB_EN_ON[FB_ENをONにする。]             FB_EN_ON --&gt; CC_Link{CC-Link局番 範囲チェック}             CC_Link -- 範囲外 --&gt; Error_Set[ERROR_IDにエラーコードを セットする。]             Error_Set --&gt; FB_Error_ON[FB_ERRORがONする。]             Error_Set --&gt; FB_EN_OFF[FB_ENをOFFにする。]             CC_Link -- 1~64 --&gt; Read_Unit[ユニット状態を読出す。]             Read_Unit --&gt; Set_Unit[o_Unit_Stateに読出した ユニット状態をセットする。]             Set_Unit --&gt; FB_OK_ON[FB_OKがONする。]             FB_OK_ON --&gt; FB_EN_OFF             FB_EN_OFF --&gt; End([終了])           </pre> </div> <p>②本 FB は FB_EN(実行命令)の ON で 1 回のみ動作します。            ③エラーの場合は、FB_ERROR(異常完了フラグ)が ON し、FB の処理を中断します。また、ERROR_ID にはエラーコードをセットします。            エラーコードの詳細は、エラーコード一覧を参照してください。</p>
FB コンパイル方式	マクロ型

項目	内容
制約事項・注意事項等	<p>① 本 FB は、エラーを復帰する処理は含んでいません。エラー復帰処理については、お客様のシステムや要求動作に合わせて、別途作成してください。</p> <p>② CC-Link パラメータ設定のリフレッシュデバイスの設定を 1.4 項に従って行ってください。</p> <p>③ グローバルラベルの設定を 1.5 項の内容に従って行ってください。</p> <p>④ 割り込みプログラム内で FB を使用することはできません。</p> <p>⑤ 本 FB を複数使用する場合、対象 CC-Link 局番が重複しないように注意してください。</p> <p>⑥ 1 回しか実行されないプログラム(例えば、サブルーチンプログラムや FOR~NEXT)で FB を使用すると、FB_EN(実行命令)の OFF 処理を実行することができず正常な動作ができなくなるため、FB_EN(実行命令)の OFF を実行できるプログラムで使用してください。</p> <p>⑦ 本 FB ではインデックスレジスタ Z5~Z9 を使用しています。割り込みプログラムを使用する場合は、当インデックスレジスタを使用しないでください。</p> <p>⑧ FB_EN(実行命令)ON 中は、i_Start_IO_No(マスタユニット装着 XY アドレス)、i_Station_No(CC-Link 局番)の値を変更しないでください。</p> <p>⑨ FB 内部でインデックス修飾を用いて Y 信号を操作しているため、本 FB を複数個使用した場合、コンパイル時に 2 重コイルワーニングが発生することがありますが、使用上特に問題はありません。</p> <p>⑩ CC-Link システム用 FB は 1 枚のマスタ・ローカルユニットしか制御できません。2 枚以上のマスタ・ローカルユニットを FB で制御する場合には項「付録 1 2 枚以上のマスタ・ローカルユニットで FB を使用する方法」をご参照ください。</p> <p>⑪ 本 FB の処理が完了しない場合、i_Start_IO_No(マスタユニット装着 XY アドレス)が間違っていないか、または i_Station_No(CC-Link 局番)はネットワークの局番と一致しているか、または本 FB を実行する前に P+MEE-ECL2-V680D1_InitDataSet(イニシャルデータ設定)が完了しているか確認ください。</p>
FB 動作	パルス型(複数スキャン実行型)
入出力信号の動き	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> <p><b>【正常終了の場合】</b></p>  </div> <div style="width: 45%;"> <p><b>【異常終了の場合】</b></p>  </div> </div>
関連マニュアル	<p>ECL2-V680D1 ユーザーズマニュアル(詳細編)</p> <p>CC-Link システムマスタ・ローカルユニットユーザーズマニュアル(詳細編)</p> <p>MELSEC-L CC-Link システムマスタ・ローカルユニットユーザーズマニュアル</p>



## エラーコード

### ■エラーコード一覧

エラーコード	内容	処置方法
11(10進数)	i_Station_No(CC-Link 局番)の指定が範囲外です。	CC-Link 局番は 1～64 を指定してください。

## 使用ラベル

### ■入カラベル

名称	変数名	データ型	有効範囲	説明
実行命令	FB_EN	ビット	—	ON:FB を起動する。 OFF:FB を起動しない。
マスタユニット装着 XY アドレス	i_Start_IO_No	ワード	対象の CPU ユニットの 入出力点数範囲によります。 詳細範囲は、対象 CPU のユーザーズ マニュアルを参照し てください。	対象の CC-Link システムマスタ・ローカルユニットが装着されている先頭XYアドレスを16進数で指定します。(例えば X10 の場合、H10 を入力してください)
CC-Link 局番	i_Station_No	ワード	1～64(10進数)	接続する ECL2-V680D1 の局番を入力します。

### ■出カラベル

名称	変数名	データ型	初期値	説明
実行状態	FB_ENO	ビット	OFF	ON:FB 実行中。 OFF:FB 未実行。
完了フラグ	FB_OK	ビット	OFF	ON:FB 正常完了。 OFF:FB 未完了。
異常完了フラグ	FB_ERROR	ビット	OFF	ON:FB 異常完了。 OFF:FB 未完了。
エラーコード	ERROR_ID	ワード	0	FB 内で発生したエラーコードを格納します。

名称	変数名	データ型	初期値	説明
ユニット状態	o_Unit_State	ワード	0	RFID インタフェースユニットの状態を確認できます。 <u>ビット0:アンテナエラー</u> 0:正常、もしくはアンテナ未接続。 1:設定アンテナと異なるアンテナが接続されています。 <u>ビット1:未使用</u> <u>ビット2:テストモード</u> 0:RUN モード中。 1:テストモード中。 <u>ビット3~15:未使用</u>

#### FB のバージョンアップ履歴

バージョン	日付	内容
1.00A	2014/1/31	新規作成

#### お願い

本章はファンクションブロックの機能について記載しております。  
ユニットやシーケンサ CPU の使用上の制限事項、組み合わせによる制限事項などについては記載しておりません。  
ご使用にあたりましては、必ず対象製品のユーザーズマニュアルをお読みいただきますようお願い申し上げます。

## 付録1. 2枚以上のマスタ・ローカルユニットでFBを使用する方法

CC-Link マスタ・ローカルユニットを2枚以上使用し、2枚目以降のCC-Link マスタ・ローカルユニットでFBを使用する場合、以下の手順にてMELSOFT LibraryのCC-Link マスタ・ローカルユニット用FBから2枚目以降用のFBを作成する必要があります。

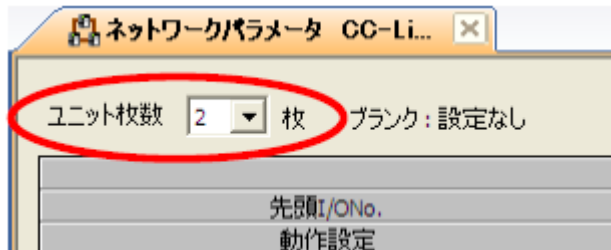
2枚目以降用のFBの作成には4つの作業が必要で、概要を以下に列挙します。

- 1) ネットワークパラメータの入力
- 2) グローバルラベルの設定
- 3) 2枚目用FBを作成するためのMELSOFT Libraryをコピー
- 4) 2枚目用FBを作成するためのデバイス置換

## 付録1.1 ネットワークパラメータの入力

### ① 2 枚目用のネットワークパラメータを入力してください

ネットワークパラメータ設定画面の左上にある「ユニット枚数」を 2 に設定します。



項目	内容
先頭 I/ONo.	マスターローカルユニットの先頭入出力番号を、16 点単位で設定します。 「0020」を設定します。
種別	局種別を設定します。 「マスター局」を選択します。
モード設定 *1	CC-Link の動作モードを設定します。 「リモートネット-Ver.1 モード」を選択します。
伝送速度 *2 (MELSEC-L シリーズのみ)	CC-Link の伝送速度を設定します。 「156kbps」を選択します。
接続台数	マスター局に接続するリモートユニットの台数を設定します。予約局を設定する場合は、予約局を含めた台数を設定します。 「1」を設定します。
リモート入力(RX) リフレッシュデバイス	リモートユニットに割り当てるリモート入力(RX)の先頭デバイス No.を設定します。 「X1200」を設定します。
リモート出力(RY) リフレッシュデバイス	リモートユニットに割り当てるリモート出力(RY)の先頭デバイス No.を設定します。 「Y1200」を設定します。
リモートレジスタ(RW <sub>r</sub> ) リフレッシュデバイス	リモートユニットに割り当てるリモートレジスタ(RW <sub>r</sub> )の先頭デバイス No.を設定します。 「W200」を設定します。
リモートレジスタ(RW <sub>w</sub> ) リフレッシュデバイス	リモートユニットに割り当てるリモートレジスタ(RW <sub>w</sub> )の先頭デバイス No.を設定します。 「W700」を設定します。
特殊リレー(SB) リフレッシュデバイス	特殊リレー(SB)の先頭デバイス No.を設定します。 「SB200」を設定します。
特殊レジスタ(SW) リフレッシュデバイス	特殊レジスタ(SW)の先頭デバイス No.を設定します。 「SW200」を設定します。

\*1 「リモートネット-Ver.1 モード」または「リモートネット-Ver.2 モード」を選択してください。

\*2 L シリーズシーケンサは伝送速度設定をネットワークパラメータ設定で行ってください。

Q シリーズはマスターローカルユニット前面の伝送速度・モード設定スイッチで設定してください。

## Q シリーズシーケンサのネットワークパラメータ

ユニット枚数  枚    ブランク: 設定なし     局情報をCC-Link構成ウィンドウで設定する

	1	2
先頭I/ONo.	0000	0020
動作設定	動作設定	動作設定
種別	マスタ局	マスタ局
データリンク種別	マスタ局CPU/パラメータ自動起動	マスタ局CPU/パラメータ自動起動
モード設定	リモートネット-Ver.1モード	リモートネット-Ver.1モード
総接続台数		1
リモート入力(RX)	X100	X1200
リモート出力(RY)	Y100	Y1200
リモートレジスタ(RWr)	W100	W200
リモートレジスタ(RWw)	W600	W700
Ver.2リモート入力(RX)		
Ver.2リモート出力(RY)		
Ver.2リモートレジスタ(RWr)		
Ver.2リモートレジスタ(RWw)		
特殊リレー(SB)	SB0	SB200
特殊レジスタ(SW)	SW0	SW200
リトライ回数	3	3
自動復列台数	1	1
待機マスタ局番号		
CPUダウン指定	停止	停止
スキャンモード指定	非同期	非同期
デレイ時間設定	0	0
局情報設定	局情報	局情報
リモートデバイス局イニシャル設定	イニシャル設定	イニシャル設定
割込み設定	割込み設定	割込み設定

## L シリーズシーケンサのネットワークパラメータ

ユニット枚数  枚    ブランク: 設定なし     局情報をCC-Link構成ウィンドウで設定する

	1	2
先頭I/ONo.	0000	0020
動作設定	動作設定	動作設定
種別	マスタ局	マスタ局
局番	0	0
データリンク種別	マスタ局CPU/パラメータ自動起動	マスタ局CPU/パラメータ自動起動
モード設定	リモートネット-Ver.1モード	リモートネット-Ver.1モード
伝送速度	156kbps	156kbps
総接続台数		1
リモート入力(RX)	X100	X1200
リモート出力(RY)	Y100	Y1200
リモートレジスタ(RWr)	W100	W200
リモートレジスタ(RWw)	W600	W700
Ver.2リモート入力(RX)		
Ver.2リモート出力(RY)		
Ver.2リモートレジスタ(RWr)		
Ver.2リモートレジスタ(RWw)		
特殊リレー(SB)	SB0	SB200
特殊レジスタ(SW)	SW0	SW200
リトライ回数	3	3
自動復列台数	1	1
待機マスタ局番号		
CPUダウン指定	停止	停止
スキャンモード指定	非同期	非同期
デレイ時間設定	0	0
局情報設定	局情報	局情報
リモートデバイス局イニシャル設定	イニシャル設定	イニシャル設定
割込み設定	割込み設定	割込み設定

② 2 枚目用のネットワーク構成設定を入力してください

項目	内容
局種別 *1	マスタ局に接続するリモートユニットの局種別を設定します。 「リモートデバイス局」を設定します。
拡張サイクリック設定 *1	RFID インタフェースユニットのモード切換えスイッチの設定値により拡張サイクリック設定が異なります。
占有局数 *1	リモートユニットが占有する局数を設定します。 RFID インタフェースユニットのモード切換えスイッチの設定値により占有局数が異なります。 「4 局占有」を選択します。
予約/無効局指定	リモートユニットの予約局/無効局を設定します。 「設定なし」を選択します。

\*1 局情報設定は RFID インタフェースユニットのモード切換えスイッチの設定に合わせてください。

モード切換えスイッチの設定値が 0, 4 の時の局情報設定

台数/局番	局種別	拡張サイクリック 設定	占有 局数	リモート局 点数	予約/無効局 指定	インテリジェント用バッファ指定(ワード)		
						送信	受信	自動
1/1	リモートデバイス局	1倍設定	4局占有	128点	設定なし			

モード切換えスイッチの設定値が 5~7 の時の局情報設定

台数/局番	局種別	拡張サイクリック 設定	占有 局数	リモート局 点数	予約/無効局 指定	インテリジェント用バッファ指定(ワード)		
						送信	受信	自動
1/1	Ver.2リモートデバイス局	8倍設定	2局占有	384点	設定なし			

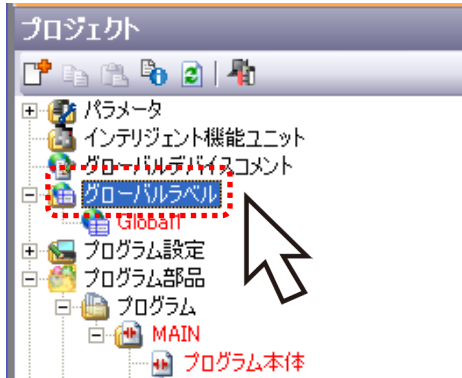
## 付録1.2 グローバルラベルの設定

2枚目で使用するグローバルラベルを入力します。

1枚目で使用するラベル名と2枚目で使用するラベル名が同一にならないように定義します。

以下では2枚目のグローバルラベルの設定を説明します。

(1)ナビゲーションウィンドウのプロジェクトタブにある「グローバルラベル」を選択します。



(2)M\_RY2 リモート出力(RY)の設定を行います。

項目	内容
クラス	「VAR_GLOBAL」を選択します。
ラベル名	「M_RY2」を入力します。
データ型	「ビット」を選択します。
デバイス	付録 1.1 にて入力したリモート出力(RY)に「Z9」を付加して入力します。 「Y1200Z9」を入力します。

(3)M\_RWw2 リモートレジスタ(RWw)の設定を行います。

項目	内容
クラス	「VAR_GLOBAL」を選択します。
ラベル名	「M_RWw2」を入力します。
データ型	「ワード[符号付き]」を選択します。
デバイス	付録 1.1 にて入力したリモート出力(RWw)に「Z8」を付加して入力します。 「W700Z8」を入力します。

グローバルラベル設定

ネットワークパラメータ CC-Li...			
リモート入力(RX)		X1000	X1200
リモート出力(RY)		Y1000	Y1200
リモートレジスタ(RWr)		W100	W200
リモートレジスタ(RWw)		W600	W700

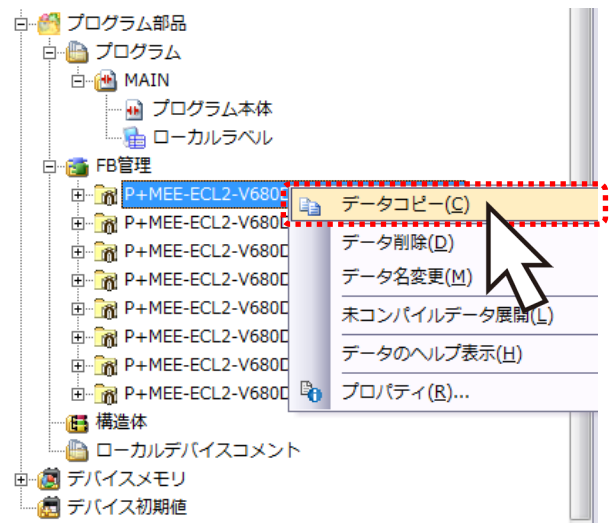
グローバルラベル設定 Glo...						
	クラス	ラベル名	データ型	定数値	デバイス	
1	VAR_GLOBAL	M_RY	ビット	...	Y1 000Z9	
2	VAR_GLOBAL	M_RWw	ワード[符号付き]	...	W6 00Z8	
3	VAR_GLOBAL	M_RY2	ビット	...	Y1 200Z9	
4	VAR_GLOBAL	M_RWw2	ワード[符号付き]	...	W7 00Z8	



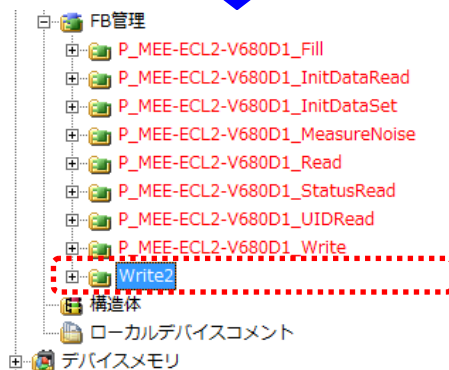
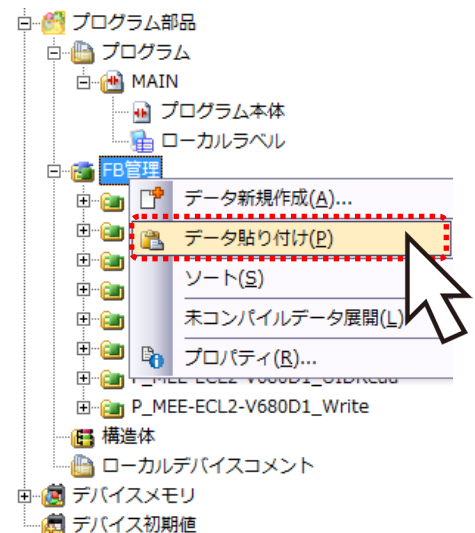
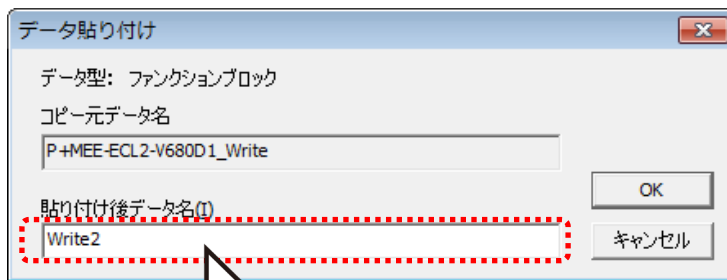


## 付録1.3 2 枚目用 FB を作成するための MELSOFT Library をコピー

(1)ナビゲーションウィンドウのプロジェクトタブにある、2 枚目用に必要な FB を選択して、データコピーします。



(2)ナビゲーションウィンドウのプロジェクトタブにある、【FB 管理】に、先にコピーした FB をデータ貼り付けすると、貼り付け後の FB 名称を入力する画面が表示されるので、貼り付け後の FB 名称を入力します。(例: Write2)

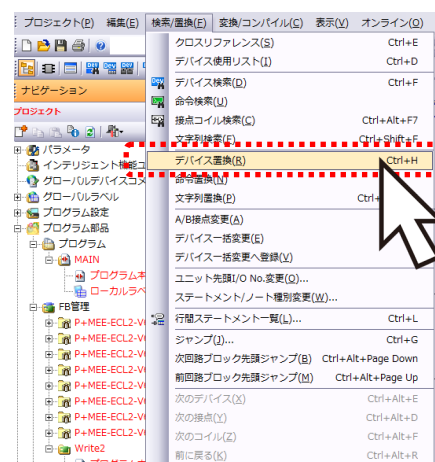
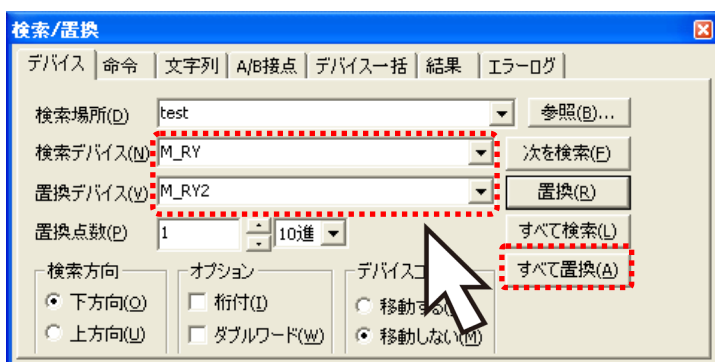
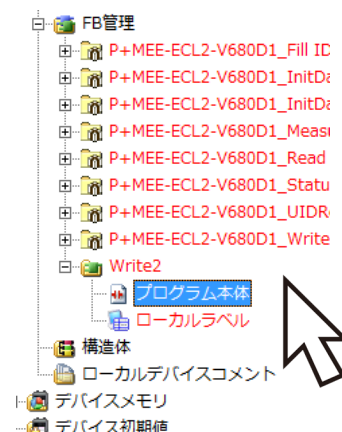


### 【ポイント】

※P+. . . の“+”という文字は入力することができません。

## 付録1.4 2 枚目用 FB を作成するためのデバイス置換

コピーした FB の M\_RY と M\_RWw をデバイス一括置換します。  
追加した FB の「プログラム本体」を開き、メニューの「検索/置換(E)」を選択、「デバイス置換(R)」を選択し、「検索/置換」画面を表示します。  
検索場所を「(現在のウインドウ)」検索デバイスを「M\_RY」置換デバイスを「M\_RY2」に指定し、デバイス一括置換します。  
また、「M\_RWw」も同様に「M\_RWw2」にデバイス一括置換してください。



以上で 2 枚目の CC-Link マスタ・ローカル用 FB の使用が可能になります。

### 【ポイント】

- ① 2 枚目の CC-Link マスタ・ローカルユニットで使用する FB が複数ある場合には (2)と(3)の手順を繰り返してください。
- ② 3 枚以上の CC-Link マスタ・ローカルユニットで FB を使用する場合には、設定する「グローバルラベル名」・FB のデータ貼り付けする際の「貼り付け後データ名」、デバイスを置換する際の「置換デバイス」を 1 枚目、2 枚目と重複しないよう設定してください。

### 【注意事項】

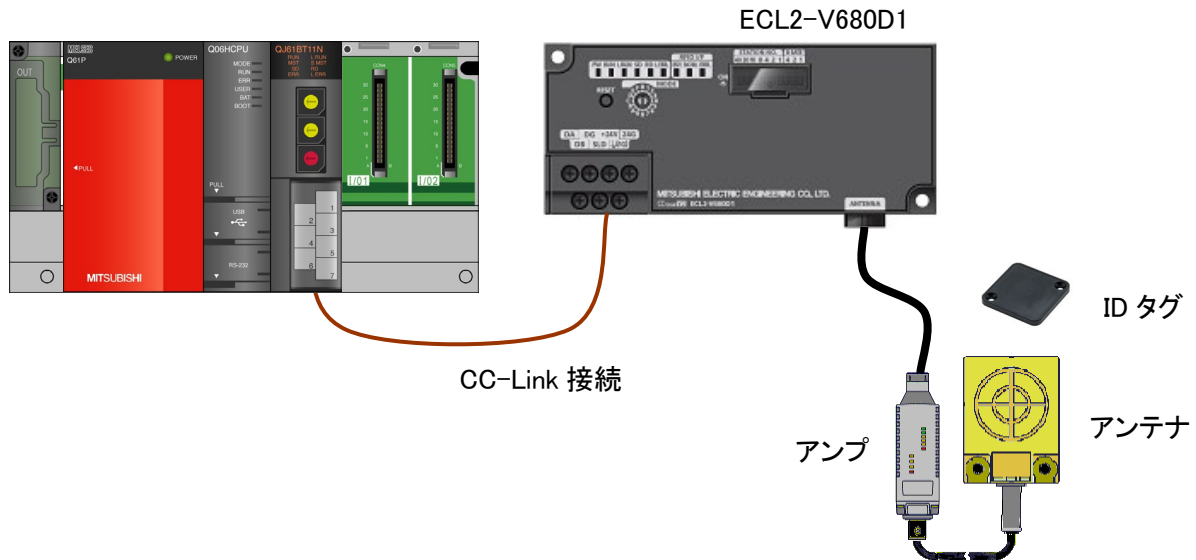
MELSOFT Library のバージョンアップがあった時、MELSOFT Library の FB は再度、インポートを行うことでバージョンアップを行うことができますが、今回の手順で作成した 2 枚目以降用 FB は再度インポートを行っても、バージョンアップを行うことができません。

そのため、今回の手順で作成した FB をバージョンアップする場合には、MELSOFT Library のバージョンアップ後、再度、この作業を行うことで、バージョンアップを行います。

## 付録2. FB ライブラリ使用例

CC-Link システムを利用して、ID タグヘデータ書込みする場合の使用例です。

### (1)システム構成



### (2)デバイス使用一覧

#### ■外部入力(指令)

デバイス	FB 名称	用途(ON 時の内容)
M1000	P+MEE-ECL2-V680D1_InitDataSet	イニシャルデータ設定指令
M1002		イニシャルデータ設定指令保持
M1010	P+MEE-ECL2-V680D1_Read	ID タグのリード指令
M1011		ID タグのリード結果受信
M1012		ID タグのリード指令保持
M1020	P+MEE-ECL2-V680D1_Write	ID タグのライト指令
M1021		ID タグのライト結果受信
M1022		ID タグのライト指令保持
M1030	P+MEE-ECL2-V680D1_Fill	ID タグのデータフィル指令
M1031		ID タグのデータフィル結果受信
M1032		ID タグのデータフィル指令保持
M1040	P+MEE-ECL2-V680D1_UIDRead	ID タグの UID リード指令
M1041		ID タグの UID リード結果受信
M1042		ID タグの UID リード指令保持

RFID インタフェースユニット ECL2-V680D1  
 FB ライブラリ リファレンスマニュアル(MELSEC-Q シリーズ用)  
 50CM-D180173-C

デバイス	FB 名称	用途(ON 時の内容)
M1050	P+MEE-ECL2-V680D1_MeasureNoise	ノイズ測定指令
M1051		ノイズ測定指令保持
M1060	P+MEE-ECL2-V680D1_InitDataRead	イニシャルデータリード指令
M1061		イニシャルデータリード指令保持
M1070	P+MEE-ECL2-V680D1_StatusRead	ユニット状態読出し指令
M1071		ユニット状態読出し指令保持
M1200	P+MEE-ECL2-V680D1_InitDataSet P+MEE-ECL2-V680D1_Read P+MEE-ECL2-V680D1_Write P+MEE-ECL2-V680D1_Fill P+MEE-ECL2-V680D1_UIDRead P+MEE-ECL2-V680D1_MeasureNoise P+MEE-ECL2-V680D1_InitDataRead P+MEE-ECL2-V680D1_StatusRead	インターロック用接点 (2 個以上の FB が同時に実行されないようにします。)

#### ■外部入力(データ)

デバイス	FB 名称	用途(ON 時の内容)
D2300～ D2303	P+MEE-ECL2-V680D1_Write	ID タグに書込むデータを指定します。(最大 61 ワード)

#### ■外部出力(確認)

デバイス	FB 名称	用途(ON 時の内容)
D1000	P+MEE-ECL2-V680D1_InitDataSet	イニシャルデータ設定時、FB エラーコード格納
D1001		イニシャルデータ設定時、ユニットエラーコード格納
M1003		イニシャルデータ設定時、FB 実行中
M1004		イニシャルデータ設定時、FB 正常完了
M1005		イニシャルデータ設定時、FB 異常完了
M1006		イニシャルデータ設定時、ユニットエラー
D1010	P+MEE-ECL2-V680D1_Read	ID タグのリード時、FB エラーコード格納
D1011		ID タグのリード時、ユニットエラーコード格納
D1200～ D1203		ID タグから読出したデータを格納します。(最大 61 ワード)
M1013		ID タグのリード時、FB 実行中
M1014		ID タグのリード時、FB 正常完了
M1015		ID タグのリード時、FB 異常完了
M1016		ID タグのリード時、ユニットエラー
M1017		ID タグのリード時、ID 送信完了

デバイス	FB 名称	用途(ON 時の内容)	
D1020	P+MEE-ECL2-V680D1_Write	ID タグのライト時、FB エラーコード格納	
D1021		ID タグのライト時、ユニットエラーコード格納	
M1023		ID タグのライト時、FB 実行中	
M1024		ID タグのライト時、FB 正常完了	
M1025		ID タグのライト時、FB 異常完了	
M1026		ID タグのライト時、ユニットエラー	
M1027		ID タグのライト時、ID 送信完了	
D1030		P+MEE-ECL2-V680D1_Fill	ID タグのデータフィル時、FB エラーコード格納
D1031	ID タグのデータフィル時、ユニットエラーコード格納		
M1033	ID タグのデータフィル時、FB 実行中		
M1034	ID タグのデータフィル時、FB 正常完了		
M1035	ID タグのデータフィル時、FB 異常完了		
M1036	ID タグのデータフィル時、ユニットエラー		
M1037	ID タグのデータフィル時、ID 送信完了		
D1040	P+MEE-ECL2-V680D1_UIDRead		ID タグの UID リード時、FB エラーコード格納
D1041		ID タグの UID リード時、ユニットエラーコード格納	
D1042～ D1045		ID タグの UID リード時、ID タグ UID 格納 (4 ワード)	
M1043		ID タグの UID リード時、FB 実行中	
M1044		ID タグの UID リード時、FB 正常完了	
M1045		ID タグの UID リード時、FB 異常完了	
M1046		ID タグの UID リード時、ユニットエラー	
M1047		ID タグの UID リード時、ID 送信完了	
D1050		P+MEE-ECL2-V680D1_MeasureNoise	ノイズ測定時、FB エラーコード格納
D1051			ノイズ測定時、ユニットエラーコード格納
D1052～ D1054	ノイズ測定時、測定結果格納 (3 ワード)		
M1052	ノイズ測定時、FB 実行中		
M1053	ノイズ測定時、FB 正常完了		
M1054	ノイズ測定時、FB 異常完了		
M1055	ノイズ測定時、ユニットエラー		
D1060	P+MEE-ECL2-V680D1_InitDataRead		イニシャルデータリード時、FB エラーコード格納
D1061		イニシャルデータリード時、送信指定格納	
D1062		イニシャルデータリード時、送信設定格納	
D1063		イニシャルデータリード時、処理指定格納	
D1064		イニシャルデータリード時、オート系コマンド待ち時間設定格納	

デバイス	FB 名称	用途(ON 時の内容)
M1062		イニシャルデータリード時、FB 実行中
M1063		イニシャルデータリード時、FB 正常完了
M1064		イニシャルデータリード時、FB 異常完了
D1070	P+MEE-ECL2-V680D1_StatusRead	ユニット状態読出し時、FB エラーコード格納
D1071		ユニット状態読出し時、ユニット状態格納
M1072		ユニット状態読出し時、FB 実行中
M1073		ユニット状態読出し時、FB 正常完了
M1074		ユニット状態読出し時、FB 異常完了

## ■共通設定

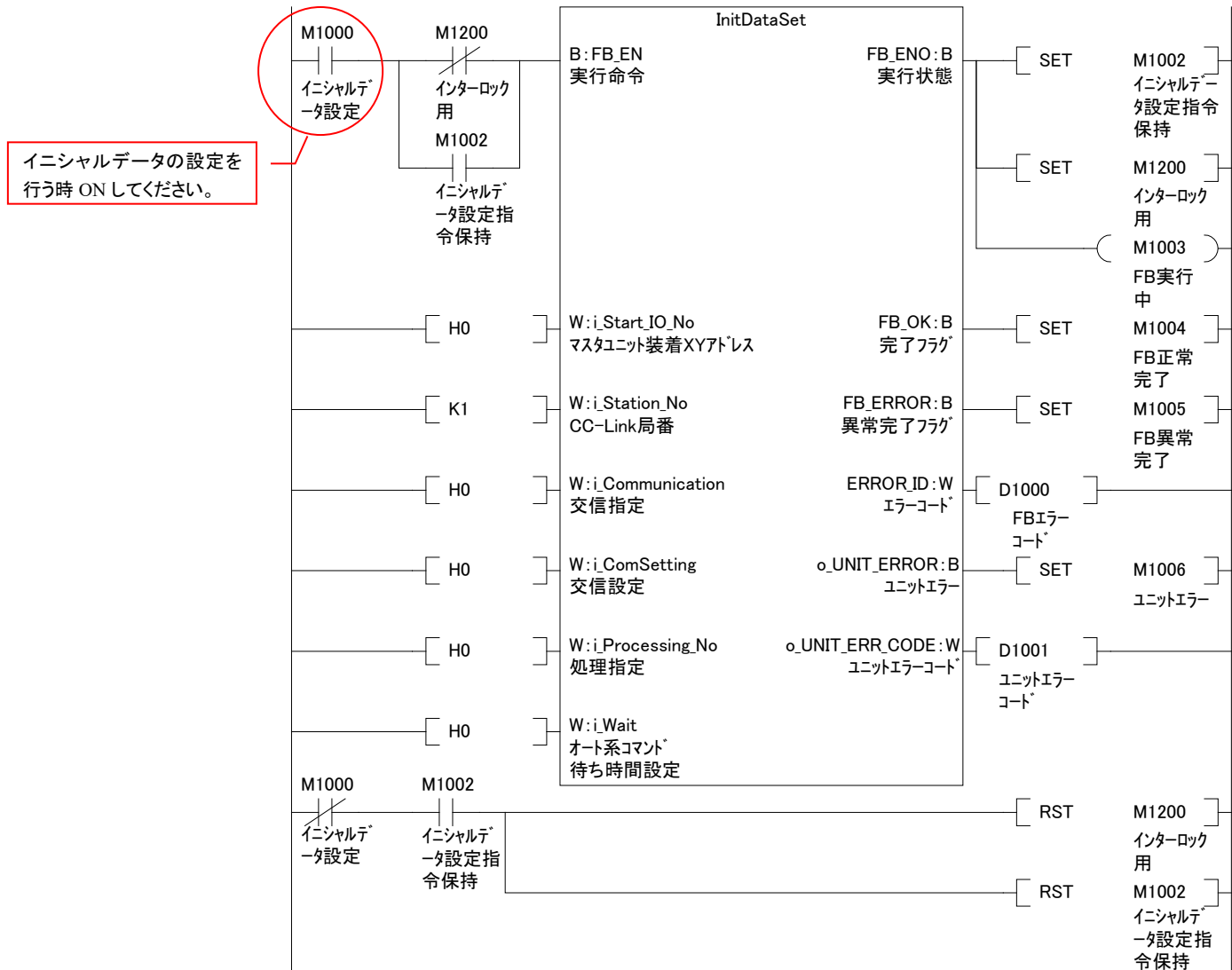
入出力項目	値	説明
マスタユニット装着 XY アドレス	H0	通信を行う CC-Link システムマスタ・ローカルユニットが装着されている先頭 XY アドレスを指定します。
CC-Link 局番	K1	接続する RFID システムの局番を入力します。
オート系コマンド待ち時間設定	K0	本使用例では、i_Communication(交信指定)が 2(リピートオート)の場合に、ID タグの検出待ち時間を 0.1 秒単位で指定します。本使用例では、ID タグからの応答があるまで処理を継続します。

(5) プログラム

(a) P+MEE-ECL2-V680D1\_InitDataSet (イニシャルデータ設定)

次の条件のイニシャルデータの設定を行います。

- ・マスタユニット装着 XY アドレス……………0
- ・CC-Link 局番……………1
- ・交信指定……………0 (トリガ)
- ・交信設定……………0 (ライトベリファイ設定 : 実行する  
ID タグ交信速度設定 : 標準モード  
ライトプロテクト設定 : 有効  
リード/ライトデータコード設定 : ASCII/HEX 変換なし)
- ・処理指定……………0
- ・オート系コマンド待ち時間設定……………0 (ID タグから応答があるまで検出待ちをします。)

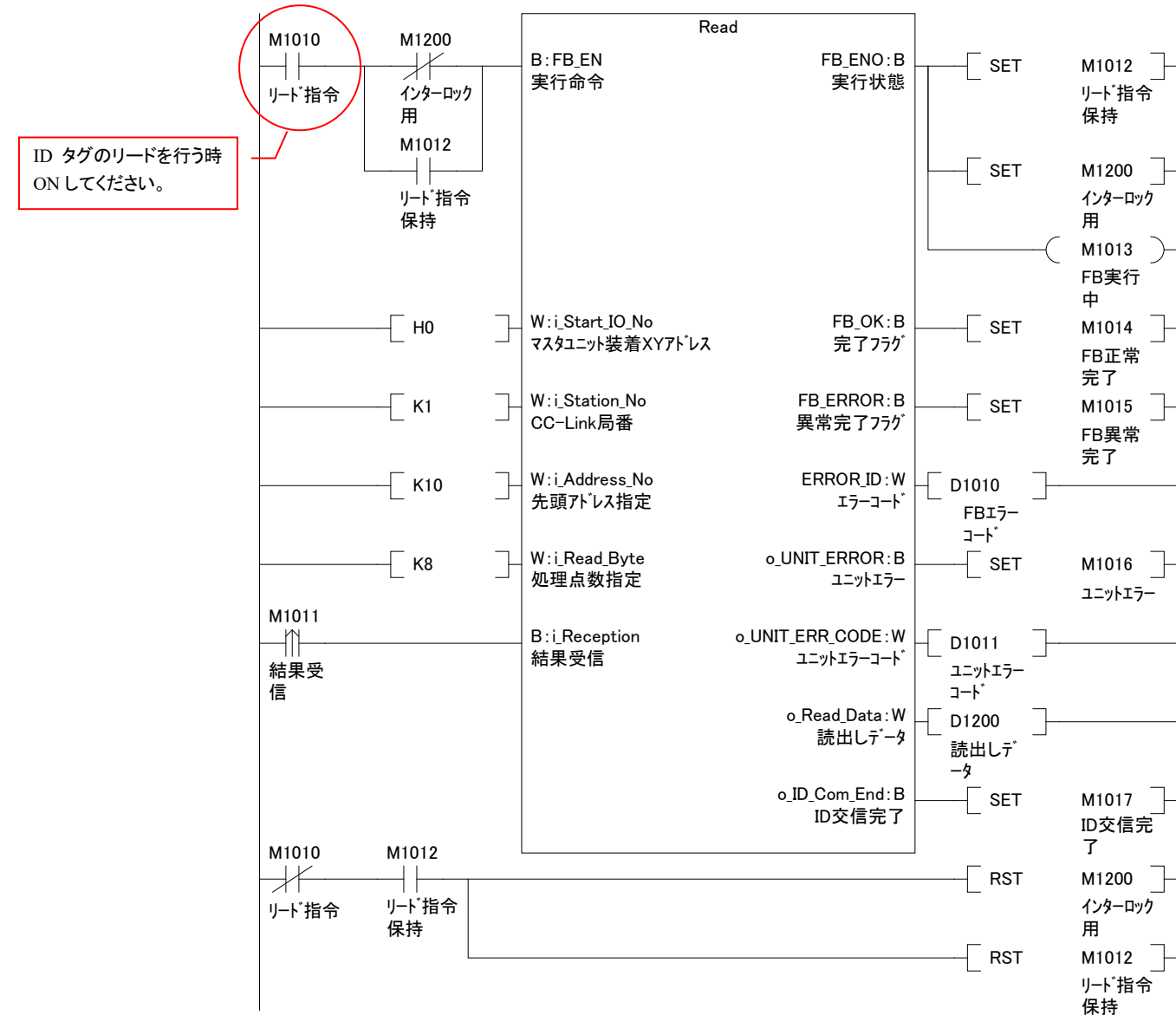




(b) P+MEE-ECL2-V680D1\_Read (ID タグのリード)

次の条件の ID タグのリードを行います。

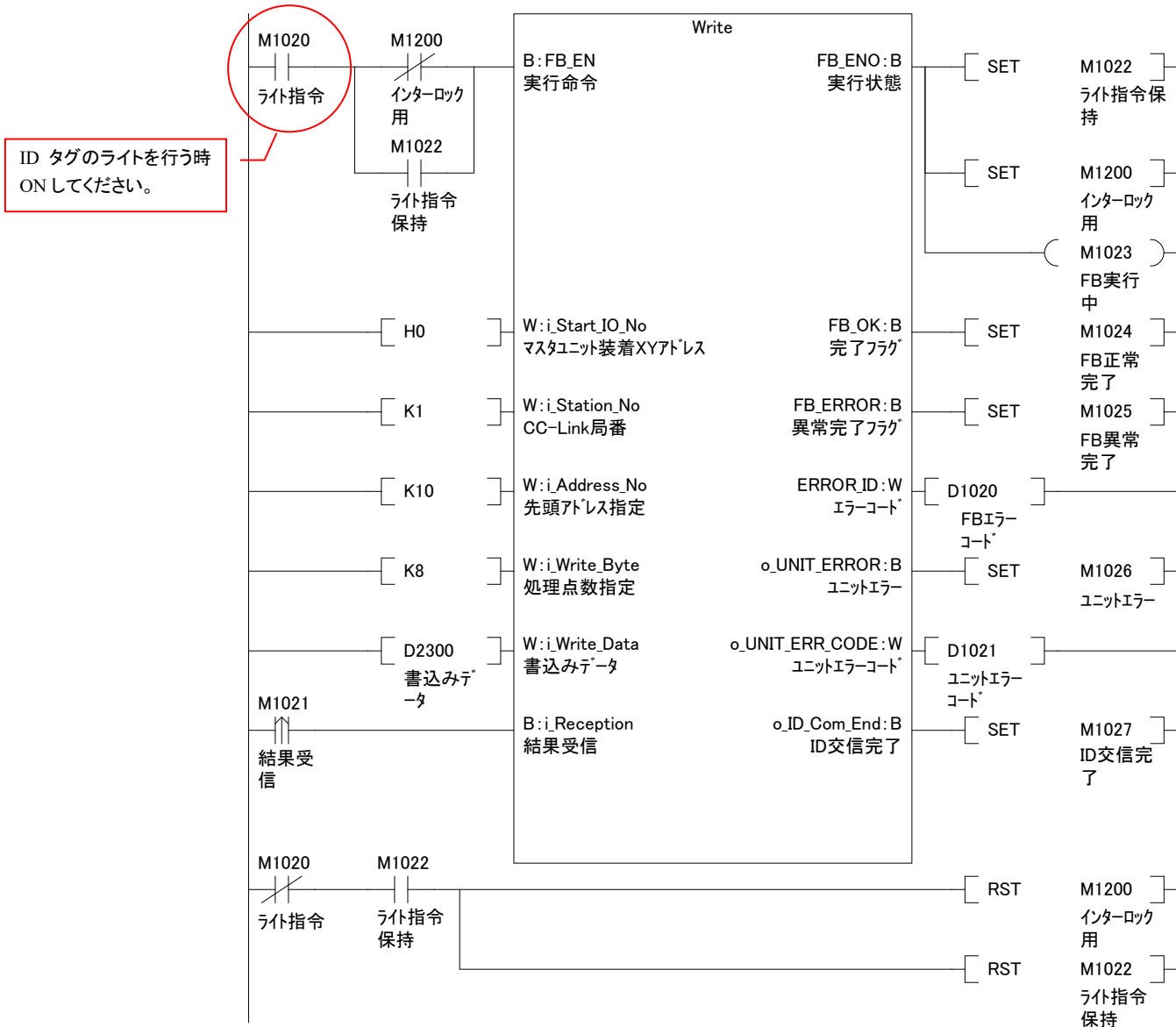
- ・マスタユニット装着 XY アドレス……………0
- ・CC-Link 局番……………1
- ・先頭アドレス指定……………10
- ・処理点数指定……………8 (8 バイト)



(c) P+MEE-ECL2-V680D1\_Write (ID タグのライト)

次の条件の ID タグのライトを行います。

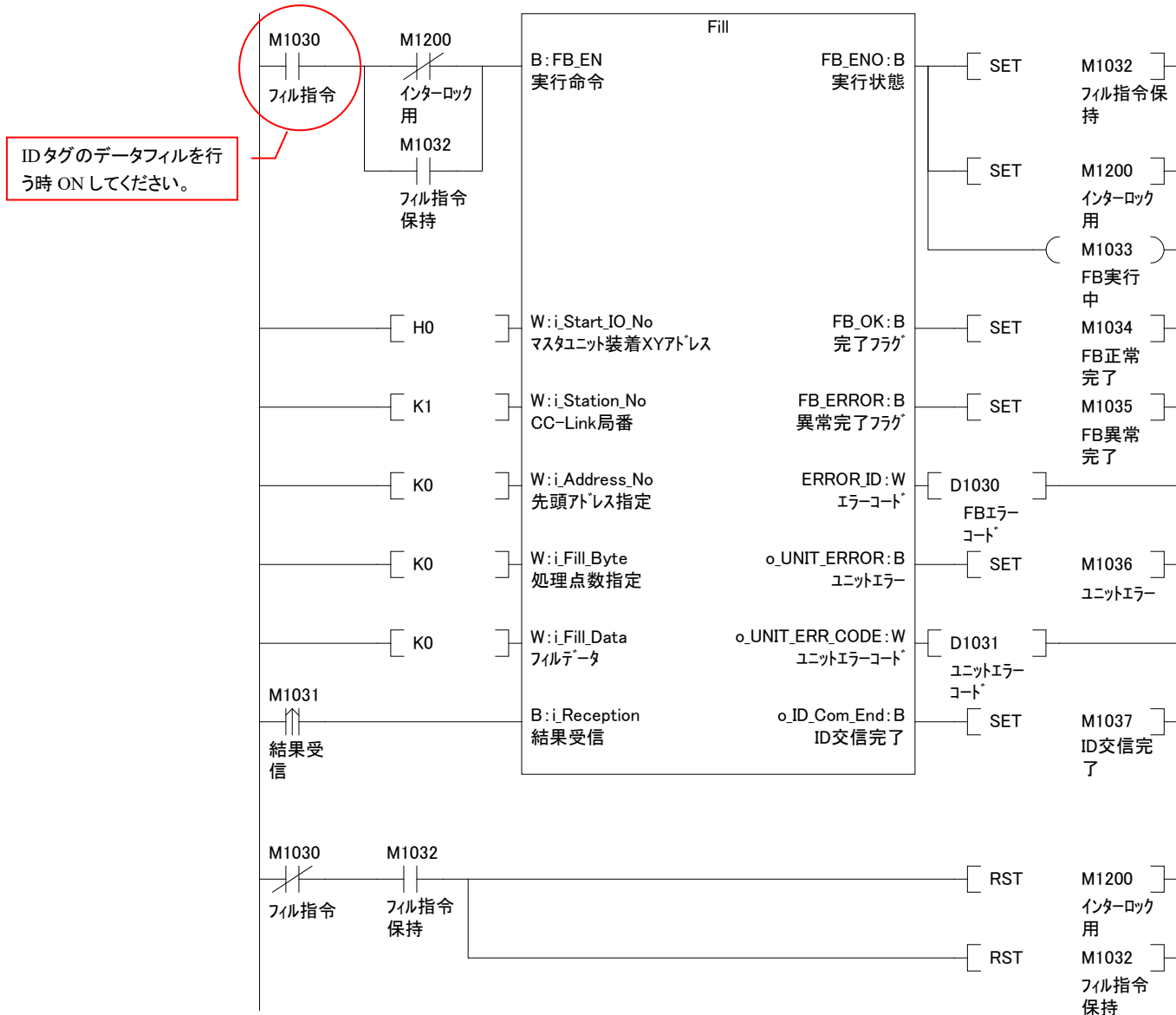
- ・マスタユニット装着 XY アドレス……………0
- ・CC-Link 局番……………1
- ・先頭アドレス指定……………10
- ・処理点数指定……………8 (8 バイト)
- ・書込みデータ……………D2300~D2303



(d) P+MEE-ECL2-V680D1\_Fill (ID タグのデータフィル)

次の条件の ID タグのデータフィルを行います。

- ・マスタユニット装着 XY アドレス……………0
- ・CC-Link 局番……………1
- ・先頭アドレス指定……………0
- ・処理点数指定……………0 (全データ指定)
- ・フィルデータ……………0

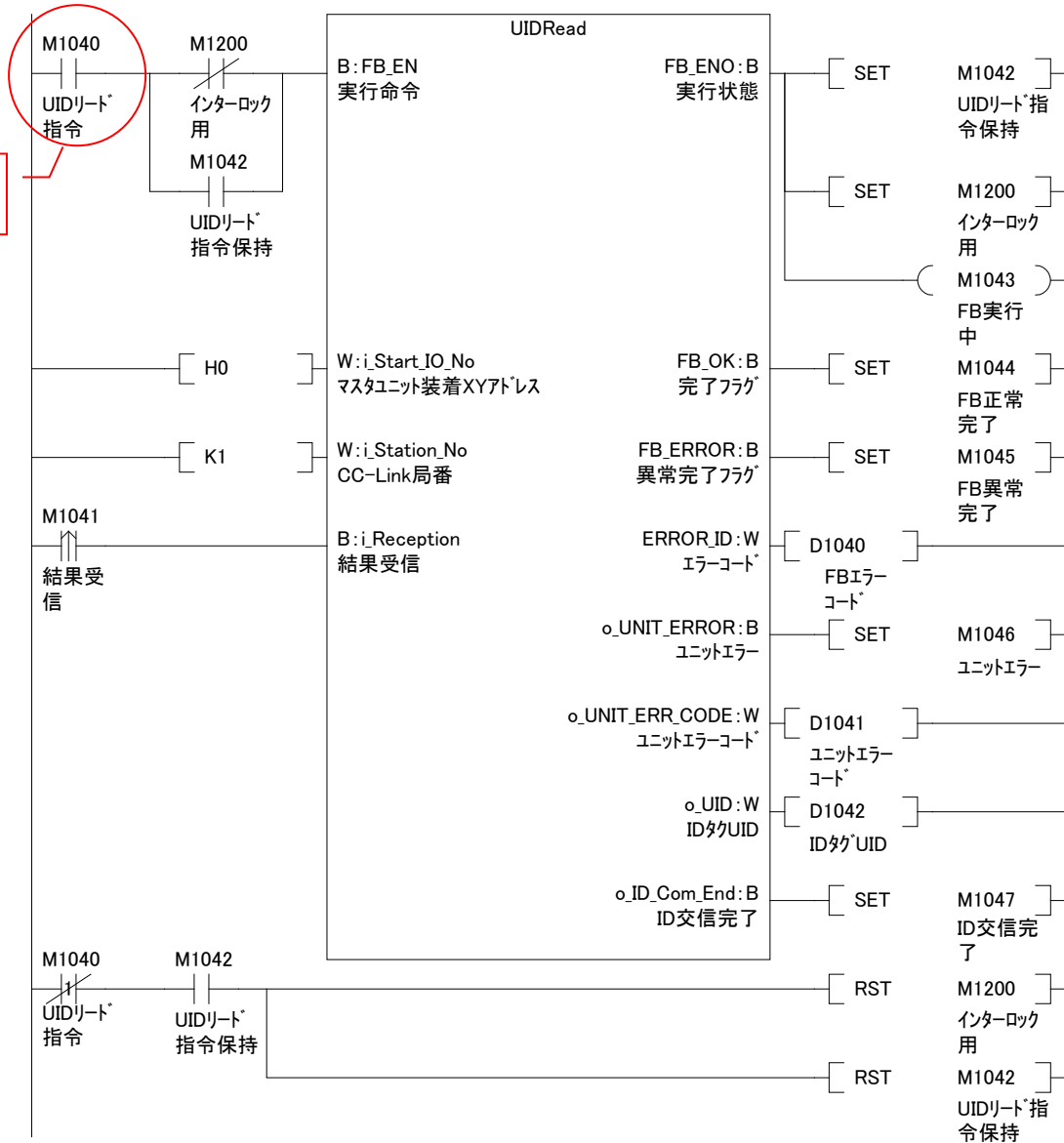


(e) P+MEE-ECL2-V680D1\_UIDRead (ID タグの UID リード)

次の条件の ID タグの UID リードを行います。

- ・マスタユニット装着 XY アドレス……………0
- ・CC-Link 局番……………1

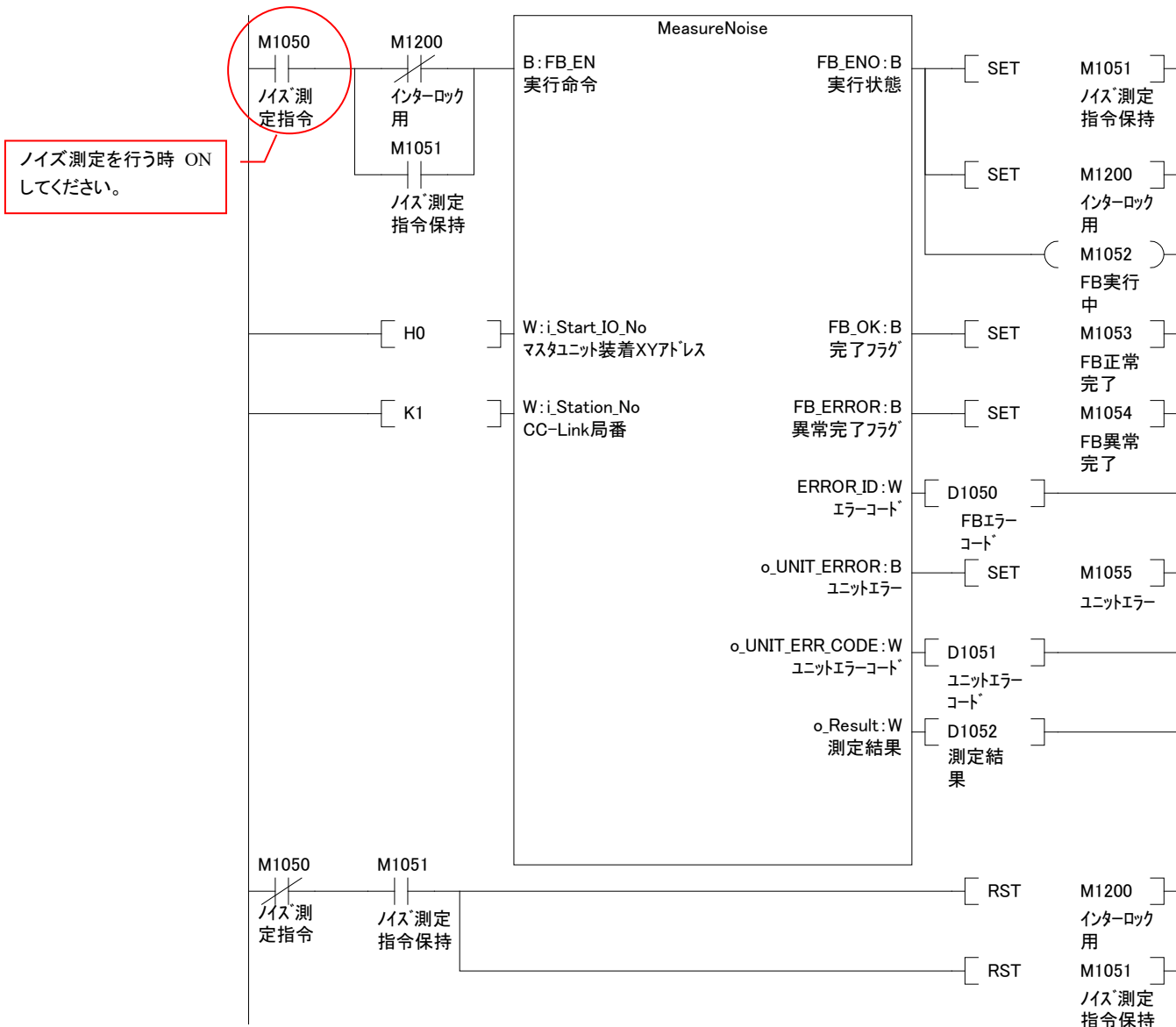
IDタグのUIDリードを行う時 ON してください。



(f) P+MEE-ECL2-V680D1\_MeasureNoise (ノイズ測定)

次の条件のノイズ測定を行います。

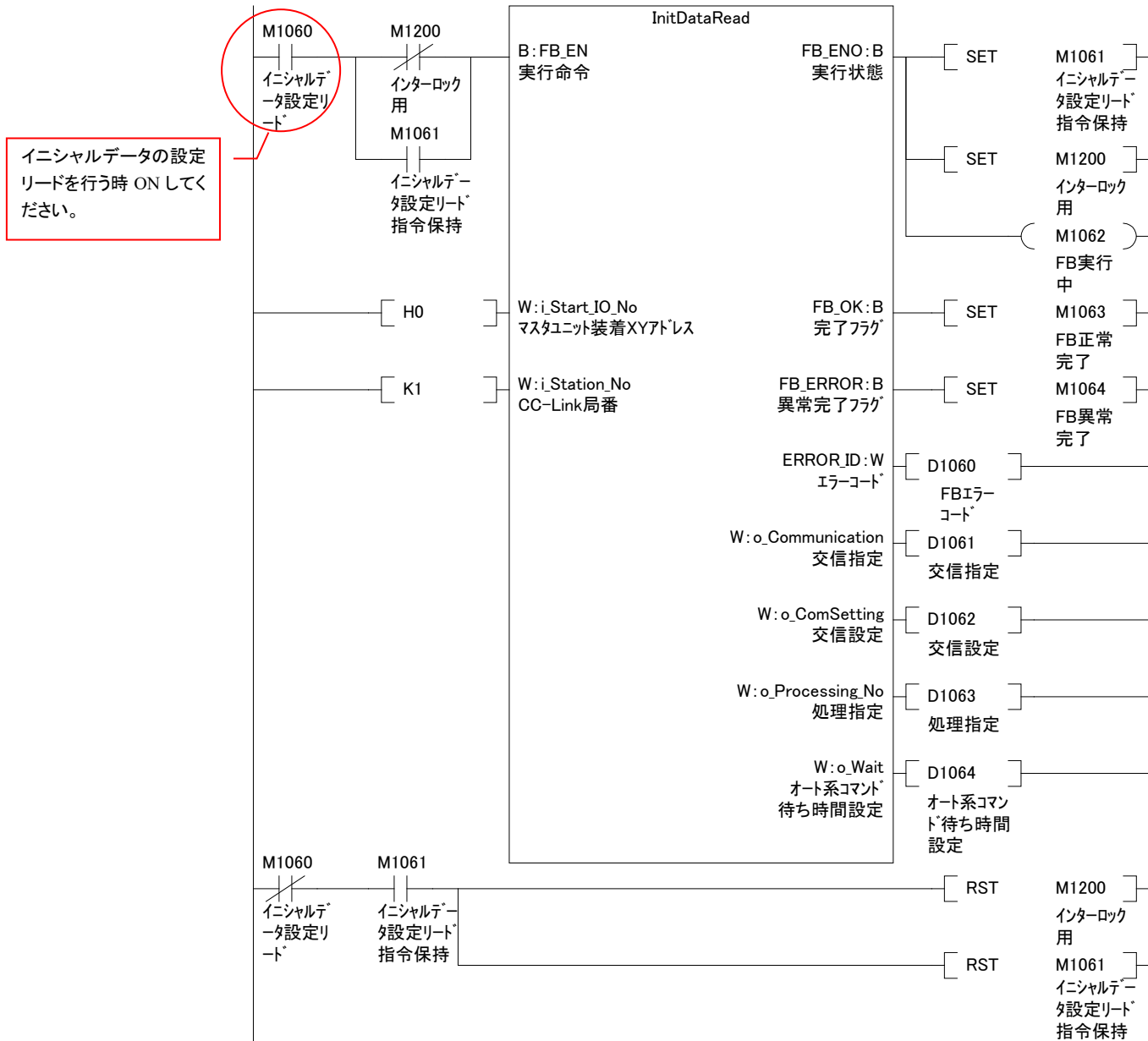
- ・マスタユニット装着 XY アドレス……………0
- ・CC-Link 局番……………1



(g) P+MEE-ECL2-V680D1\_InitDataRead (イニシャルデータリード)

次の条件のイニシャルデータを読み出します。

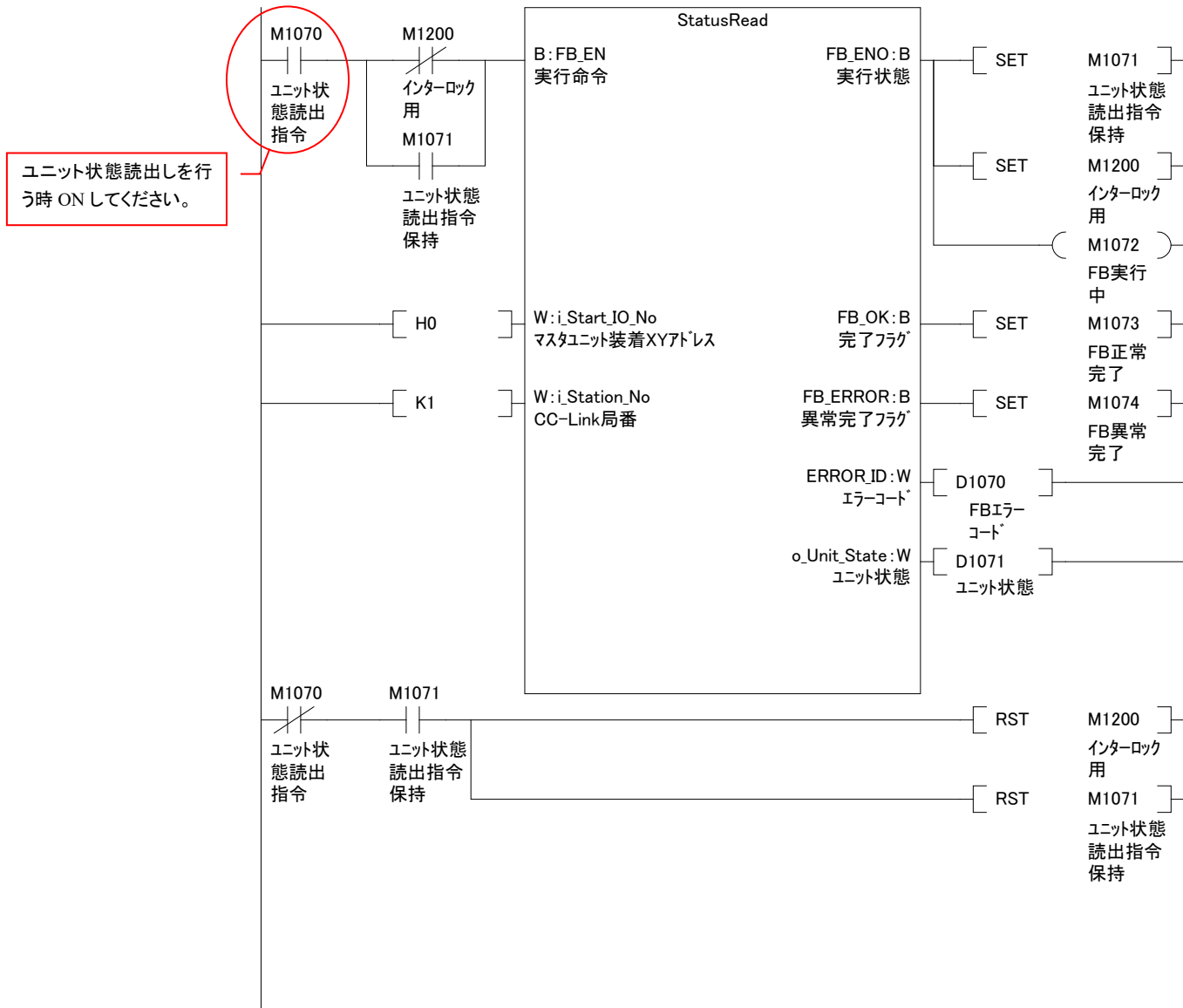
- ・マスタユニット装着 XY アドレス……………0
- ・CC-Link 局番……………1



(h) P+MEE-ECL2-V680D1\_StatusRead (ユニット状態読出し)

次の条件のユニット状態を読出します。

- ・マスタユニット装着 XY アドレス……………0
- ・CC-Link 局番……………1



## 三菱電機エンジニアリング株式会社

### 営業統括部

〒102-0073 東京都千代田区九段北1-13-5(ヒューリック九段ビル)  
TEL(03)3288-1743

東日本営業支社 TEL(03)3288-1743

中日本営業支社 TEL(052)565-3435

西日本営業支社 TEL(06)6347-2926

中 四 国 支 店 TEL(082)248-5390

九 州 支 店 TEL(092)721-2202

### 技術お問い合わせ

#### 名古屋事業所 技術サポート

TEL(0568)36-2068

受付/9:00~12:00, 13:00~17:00 月曜~金曜  
(土・日・祝日, 春季・夏季・年末年始の休日を除く通常業務日)

三菱電機エンジニアリング株式会社FA機器の最新情報を掲載  
スマート工場実現に向けトータルソリューションでサポートします

**MEEFAN**

**検索**



<https://www.mee.co.jp/sales/fa/meefan/>

形名	ECL2-V680D-M1QC1J
	50CM-D180173-C(2309)MEE